

4. 担任保育者調査 集計結果

本章では、調査対象園の5歳児クラスの担任保育者を対象とした調査について、各設問の集計結果を図表として示すとともに、セクションごとに主だった結果について説明する。5歳児クラスが複数ある園では、原則として保護者調査の対象となったクラスの担任保育者1名を調査対象とした。なお、完全回答者（828名）のほか、途中回答者（3名）の回答データも、同意を得た上で集計に加えたため、各質問の総回答数は必ずしも一貫していない。

4-1. 結果と考察

1) 担任保育者の基礎情報

回答者の基礎情報を Table4.1 から Table4.3 に示す。回答者の性別（Table4.1）、年齢（Table4.2）、および回答者の役職（Table4.3）は表に示したとおりであり、8割弱が教諭・保育教諭・保育士等であった。

Table4.1: あなたの性別をお知らせください。

	回答数	割合
女性	755	90.9%
男性	68	8.2%
上記以外	0	0.0%
回答しない	8	1.0%

総回答数：831名

Table4.2: あなたの現在の年齢をお知らせください。／年齢

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
あなたの現在の年齢をお知らせください。／年齢	35.8	34.0	9.6	21	66

総回答数：830名

Table4.3: 現在の園での役職をお知らせください。

	回答数	割合
理事・運営・副園長・副施設長	4	0.5%
主幹教諭, 主幹保育教諭, 主任保育士	124	14.9%
副主幹教諭, 副主幹保育教諭, 副主任保育士	56	6.7%
教諭・保育教諭・保育士	635	76.4%
保育補助	0	0.0%
その他	12	1.4%
総回答数: 831名		

2) 担任保育者の経験年数, 保有資格・免許, 研修等

Table4.4 から Table4.11 は回答者のキャリアや専門性に関する質問の結果である。まずは幼児教育・保育の経験年数 (Table4.4), 保有資格・免許 (Table4.5) とその取得方法 (Table4.6), 学歴 (Table4.7) について, 続いて研修参加の有無や内容 (Table4.8~4.11) について尋ねた。なお, 参加したキャリアアップ研修の項目 (Table4.9) は, キャリアアップ研修への参加の設問で「はい」を選択した回答者のみに表示された。

回答者の経験年数, 保有資格・免許

他園も含めた平均経験年数は 13.3 年 (標準偏差 8.8, 範囲 1~52), 現在の園での平均勤務年数は 7.6 年 (標準偏差 7.0, 範囲 1~42) であり, それぞれの分布は Figure4.4 の通りであった。概観すると, 幼児教育施設 (幼稚園・保育所・認定こども園等) でのキャリア全体に対して現在の園での勤続年数が 5~6 年短い傾向が見られる。その背景には, 公立園では自治体内での異動, 私立園では系列園内等での異動が存在することが挙げられる。加えて, 就職後 3 年以内の離職率が比較的高いことや (厚生労働省, 2024), 女性の割合が多いことから, 結婚・出産に伴う退職・転職の影響があると推察される。

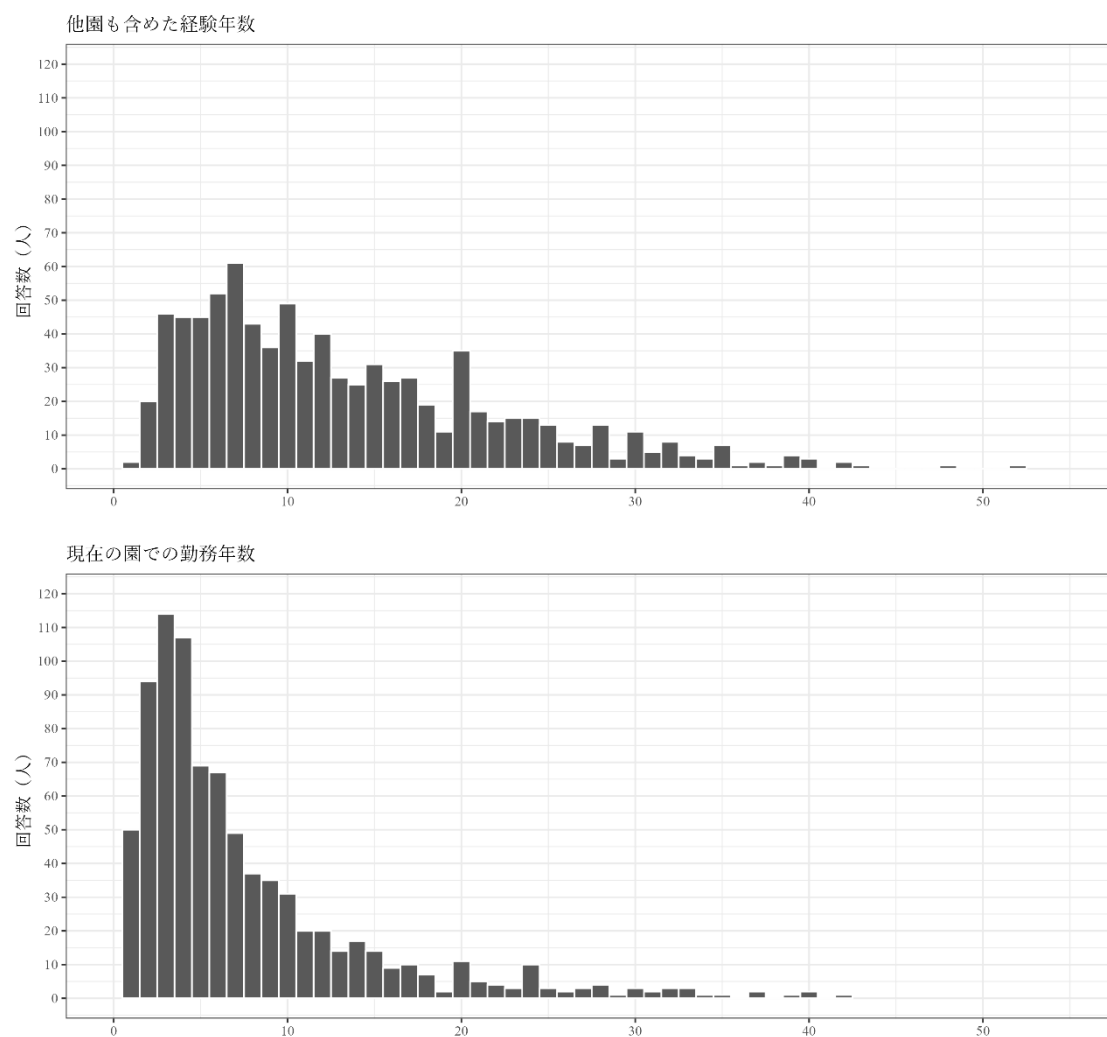
回答者の保有資格・免許に関しては, 保育士資格の保有割合が 96.4%, 幼稚園教諭一種免許が 36.0%, 幼稚園教諭二種免許の保有割合が 59.6%, を占め, 取得方法としては「養成校や, 大学等の養成課程で取得」する 경우가ほとんどであった。

Table4.4: 保育教諭, 保育士または幼稚園教諭としての経験年数・現在の園での勤務年数 ※休業期間(産休・育休など)は除外し、累積年数でお知らせください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
他園での勤務年数も含めて, 保育教諭, 保育士または幼稚園教諭としての経験年数をお知らせください。/年目	13.3	11.0	8.8	1	52
現在の園での勤務年数をお知らせください。/年目	7.6	5.0	7.0	1	42

総回答数: 831名

Figure4.4: 幼児教育・保育の経験年数と現在の園での勤務年数



総回答数: 831名

Table4.5: ご自身が保有されている免許や資格を【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
保育士資格	801	96.4%
幼稚園教諭一種免許	299	36.0%
幼稚園教諭二種免許	495	59.6%
幼稚園教諭専修免許	4	0.5%
小学校教諭一種免許	78	9.4%
小学校教諭二種免許	15	1.8%
小学校教諭専修免許	1	0.1%
その他の教員免許(中高教員免許・特別支援教育教諭免許など)	37	4.5%
上記のいずれの資格も有していない	0	0.0%
総回答数: 831名		

Table4.6: 前の質問で取得した免許や資格はどのように取得しましたか。当てはまるものを【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
養成校や, 大学等の養成課程で取得	809	97.4%
個人で試験を受けて取得	81	9.7%
その他	15	1.8%
総回答数: 831名		

Table4.7: あなたの最終学歴をお知らせください。

	回答数	割合
中学校	0	0.0%
高等学校・高等専修学校	3	0.4%
専門学校, 専修学校	102	12.3%
高等専門学校	0	0.0%
短期大学	438	52.7%
四年制大学	285	34.3%
大学院(六年制大学を含む)	3	0.4%
総回答数: 831名		

研修等

専門性向上のための活動（研修等）について、過去1年間に保育士等キャリアアップ研修に参加したと回答した割合が63.1%、それ以外の専門性向上のための活動（「他の園の見学」など）のいずれかに参加したと回答した割合が86.3%に上ることが示された。研修の内容として特に多く回答されたのは、キャリアアップ研修で「幼児教育（61.1%）」や「障がい児保育（41.8%）」、それ以外の研修で「幼保小連携、接続（48.8%）」や「主体的な遊びへの援助・環境構成（46.2%）」であった。5歳児クラスの担任保育者を対象にアンケートを実施したため、何らかの研修に参加したと回答した者の半数近くが、幼保小連携・接続に関する研修に参加していた。そのほか、キャリアアップ研修およびそれ以外の研修に共通して、保護者・家庭や子育てに関する研修にも約3割が参加したと回答していた。

Table4.8: あなたは、過去12か月(2023(令和5)年12月1日～2024(令和6)年11月30日)の間に保育士等キャリアアップ研修に参加しましたか。

	回答数	割合
はい	524	63.1%
いいえ	307	36.9%
総回答数: 831名		

Table4.9: 過去12か月(2023(令和5)年12月1日～2024(令和6)年11月30日)の間に参加した保育士等キャリアアップ研修の項目を【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
乳児保育	115	21.9%
幼児教育	320	61.1%
障がい児保育	219	41.8%
食育・アレルギー対応	105	20.0%
保健衛生・安全対策	96	18.3%
保護者支援・子育て支援	170	32.4%
マネジメント研修	171	32.6%
保育実践研修	138	26.3%
その他	15	2.9%
総回答数: 524名		

Table4.10: 保育士等キャリアアップ研修を除き、過去12か月(2023(令和5)年12月1日～2024(令和6)年11月30日)の間に専門性の向上のために参加した活動(研修等)を【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
資格取得プログラム(例. 学位課程, 履修証明プログラム)	32	3.9%
初任者研修・園内での指導(メンタリング)	113	13.6%
資格取得以外の, 対面式の講座やセミナー	292	35.1%
資格取得以外の, オンラインの講座やセミナー	290	34.9%
外部講師が園に来訪して実施する保育者への実践指導	258	31.0%
他の園の見学	337	40.6%
公式な取組としての, 保育者同士の観察又は自己観察, 実践指導	126	15.2%
保育者や研究者が研究発表や教育問題に関する議論を行う会議	146	17.6%
保育者の研究グループへの参加	125	15.0%
上記のいずれも参加していない	114	13.7%
総回答数: 831名		

Table4.11: 保育士等キャリアアップ研修を除き、過去12か月(2023年12月1日～2024年11月30日)の間にあなたが参加した専門性向上のための活動(研修等)に含まれていた内容として、当てはまるものを【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
乳幼児期の発達心理	148	20.6%
運動発達や身体をつかった遊び	254	35.4%
健康衛生, 安全管理(例: 防災, アレルギー対応, 救命救急, ヒヤリハット)	219	30.5%
言葉や絵本	118	16.5%
数量図形や自然科学	26	3.6%
表現やリズム(音楽, 美術, ダンス)	211	29.4%
主体的な遊びへの援助・環境構成	331	46.2%
遊びや学びの観察・記録	180	25.1%
幼保小連携, 接続	350	48.8%
保護者や家庭との連携	206	28.7%
特別な支援を要する子どもの保育(例: 障がい, 外国にルーツのある子ども, 気になる子どもの保育)	252	35.1%
保育における人権擁護・人権尊重	173	24.1%
ICT活用(業務での活用あるいは子どもがICTを使う活動)	81	11.3%
クラスやグループの運営	84	11.7%
その他	31	4.3%
総回答数: 717名		

3) 指導計画の立て方と実践の振り返り、職員間と保護者への情報共有

Table4.12 は、担任保育者の指導計画の立て方と実践の振り返りについて、Table4.13 は、職員間と保護者への情報共有についての集計結果である。計画と振り返りに関しては、ほとんどの項目で「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」のいずれかに回答した割合が9割を大きく超えていた。「遊びや活動の中での子どもの気づきや学びを可視化して記録し、振り返っている（例、ドキュメンテーション、ポートフォリオ、ラーニングストーリー）」という項目のみ、その割合が8割弱に留まっている。これは2023年度に実施した予備調査の結果と同じ傾向であり、ドキュメンテーションやポートフォリオといった形での記録方法が十分に広がっていない可能性、あるいは、同様の記録を行っていたとしても名称に馴染みがなく「そうしている」回答が少なくなった可能性が考えられる。

職員間と保護者への情報共有については、職員間の情報共有、保護者への情報共有ともに、「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」のいずれかに回答した割合が9割を大きく超えており、ほとんどの担任保育者が職員および保護者との十分な情報共有を心がけていることがうかがえた。

Table4.12: 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。

	全く そう して ない	め った に そ う し て い ない	ど ち ら か と い え ば そ う し て い ない	ど ち ら か と い え ば そ う し て い る	だ い た い そ う し て い る	い つ も そ う し て い る
指導計画は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を意識して立てている	1 (0.1%)	4 (0.5%)	22 (2.6%)	174 (20.9%)	358 (43.1%)	272 (32.7%)
指導計画は、子どもたち一人ひとりの実態に配慮し、柔軟に応じられるよう工夫して立てている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (1.8%)	184 (22.1%)	362 (43.6%)	270 (32.5%)
指導計画は、子どもが主体となって遊びや活動を展開できるよう工夫して立てている	0 (0.0%)	2 (0.2%)	22 (2.6%)	155 (18.7%)	365 (43.9%)	287 (34.5%)
遊びや活動の中での子どもの気づきや学びを可視化して記録し、振り返っている(例、ドキュメンテーション、ポートフォリオ、ラーニングストーリー)	20 (2.4%)	48 (5.8%)	121 (14.6%)	204 (24.5%)	235 (28.3%)	203 (24.4%)
保育の出来事を振り返るとき、この先の子どもの育ちについて見直しを持つようになっている	0 (0.0%)	2 (0.2%)	18 (2.2%)	158 (19.0%)	374 (45.0%)	279 (33.6%)
総回答数: 831名						

Table4.13: 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。

	全くそうしていない	めったにそうしていない	どちらかといえばそうしていない	どちらかといえばそうしている	だいたそうしている	いる
職員間で、指導計画や個別の子どもの様子について、十分に情報共有している	2 (0.2%)	3 (0.4%)	21 (2.5%)	147 (17.7%)	324 (39.1%)	332 (40.0%)
保護者に、活動の意図や日々の子どもの様子について、十分に情報共有している	0 (0.0%)	6 (0.7%)	20 (2.4%)	156 (18.8%)	364 (43.9%)	283 (34.1%)
総回答数: 829名						

4) 教育／保育標準時間の活動内容

Table4.14 から Table4.16 は、教育／保育標準時間中の活動内容に関する集計結果である。Table4.14 は、一斉活動と自由遊びそれぞれの1日当たりの時間の長さを、Table4.15 と 16 はそれぞれ、一斉活動と自由遊びで行っている（または行えるようにしている）遊びや活動内容を表している。なお、一斉活動、自由遊びそれぞれの1日当たりの時間は、小数点第一位までの数値入力形式で、食事や午睡など生活のための時間を除外した回答を求めた。それぞれ0.1時間以上と回答した場合に、その時間内で行っている遊びや活動の頻度を種類ごとに尋ねた。

一斉活動の平均時間は1.6時間（標準偏差0.9、範囲0～6）、自由遊びの平均時間は3.2時間（標準偏差1.8、範囲0.4～13）であり、昨年度の予備調査とほぼ同じであった。その中で行っている、または行えるようにしている遊びや活動内容には、一斉活動と自由遊び時間で一部違いが見られた。一斉活動での遊びや活動内容（Table4.15）を参照すると、特に「歌・リズム・楽器遊び」や「体操・運動遊び」において「週3回以上」の回答割合がそれぞれ33.6%、22.5%と高く、一斉活動で日常的に取り入れている園が多いことがわかる。これらの活動は集団で取り組みやすく、身体活動を通じて運動能力の向上をねらうと共に、集団で行動する際のルールを学ぶ、集団での音楽活動を通じて個別では創出できない音色を楽しんだり協調性を学んだりする、などの目的で行われていると考えられる。一方、自由遊びでの遊びや活動内容（Table4.16）では、「積み木・ブロック」「お絵かき・工作」において「週3回以上」の回答割合がそれぞれ81.1%、75.9%と突出して高く、次いで「ごっこ遊び・劇遊び」が55.8%であった。自由遊び時間では、集団活動とは別に日常的にできる遊びや活動のバリエーションを確保することで、子ども一人ひとりが自身の興味や関心に基づいて遊びを選択できるよう工夫していることが読み取れる。

また、「学習絵本・ドリル・ワークブックを使った学習」は一斉活動でも自由遊びでも行

っていないと回答した園が多い一方、「文字や言葉に関する遊び（かるた、しりとりなど）」や「数量・図形に関する遊び（長さ・重さ比べ、パズルなど）」といった活動は、ともに半数近い園が、主に自由遊びの時間に週3日以上行えるようにしていると回答していた。このように、文字や数量については直接的な学習の機会を設けるのではなく、遊びを通して学びにつなげようとする保育者の意図がうかがえる結果となった。

Table4.14: 一日当たりの一斉活動と自由遊びの時間

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
一斉活動(単位:時間)	1.6	1.5	0.9	0.0	6
自由遊び(単位:時間)	3.2	3.0	1.8	0.4	13

総回答数: 831名

Table4.15: それぞれの活動について、一斉活動における頻度をお答えください。

	一斉活動では行っていない	一斉活動で年1〜2回	一斉活動で特定の時期に集中的に	一斉活動で数か月〜月に1回	一斉活動で月2回〜週2回	一斉活動で週3日以上
体操・運動遊び	41 (5.0%)	13 (1.6%)	74 (9.0%)	110 (13.3%)	401 (48.6%)	186 (22.5%)
歌・リズム・楽器遊び	34 (4.1%)	19 (2.3%)	140 (17.0%)	102 (12.4%)	253 (30.7%)	277 (33.6%)
お絵かき・工作	108 (13.1%)	18 (2.2%)	31 (3.8%)	191 (23.2%)	364 (44.1%)	113 (13.7%)
積み木・ブロック	541 (65.6%)	51 (6.2%)	16 (1.9%)	44 (5.3%)	65 (7.9%)	108 (13.1%)
ごっこ遊び・劇遊び	116 (14.1%)	74 (9.0%)	474 (57.5%)	42 (5.1%)	68 (8.2%)	51 (6.2%)
泥遊び・自然とかかわる体験(生物の飼育や植物の栽培, 野外活動など)	150 (18.2%)	72 (8.7%)	302 (36.6%)	126 (15.3%)	111 (13.5%)	64 (7.8%)
食にかかわる体験(食育, 食物の栽培・収穫, 調理体験など)	48 (5.8%)	129 (15.6%)	243 (29.5%)	293 (35.5%)	89 (10.8%)	23 (2.8%)
社会とかかわる体験(施設訪問・見学, 地域行事への参加など)	102 (12.4%)	407 (49.3%)	89 (10.8%)	211 (25.6%)	12 (1.5%)	4 (0.5%)
伝統とかかわる体験(民俗舞踊, 伝統工芸, 茶道など)	484 (58.7%)	178 (21.6%)	76 (9.2%)	72 (8.7%)	12 (1.5%)	3 (0.4%)
文字や言葉に関する遊び(かるた, しりとりなど)	246 (29.8%)	71 (8.6%)	142 (17.2%)	137 (16.6%)	163 (19.8%)	66 (8.0%)
数量・図形に関する遊び(長さ・重さ比べ, パズルなど)	407 (49.3%)	59 (7.2%)	39 (4.7%)	145 (17.6%)	120 (14.5%)	55 (6.7%)
学習絵本・ドリル・ワークブックを使った学習	414 (50.2%)	20 (2.4%)	56 (6.8%)	110 (13.3%)	169 (20.5%)	56 (6.8%)
英語	455 (55.2%)	24 (2.9%)	7 (0.8%)	119 (14.4%)	190 (23.0%)	30 (3.6%)
ICT(デジタルカメラ, PC, タブレット機器など)を用いた活動	726 (88.0%)	27 (3.3%)	19 (2.3%)	30 (3.6%)	13 (1.6%)	10 (1.2%)
総回答数: 825名						

Table4.16: それぞれの活動について、自由遊びのできるようにしている頻度をお答えください。

	自由遊びでは行っていない	自由遊びで年1～2回	自由遊びで特定の時期に集中的に	自由遊びで数か月～月に1回	自由遊びで月2回～週2回	自由遊びで週3日以上
体操・運動遊び	140 (16.8%)	9 (1.1%)	35 (4.2%)	62 (7.5%)	164 (19.7%)	421 (50.7%)
歌・リズム・楽器遊び	216 (26.0%)	18 (2.2%)	108 (13.0%)	88 (10.6%)	148 (17.8%)	253 (30.4%)
お絵かき・工作	16 (1.9%)	5 (0.6%)	16 (1.9%)	45 (5.4%)	118 (14.2%)	631 (75.9%)
積み木・ブロック	20 (2.4%)	5 (0.6%)	10 (1.2%)	26 (3.1%)	96 (11.6%)	674 (81.1%)
ごっこ遊び・劇遊び	64 (7.7%)	13 (1.6%)	128 (15.4%)	45 (5.4%)	117 (14.1%)	464 (55.8%)
泥遊び・自然とかかわる体験(生物の飼育や植物の栽培, 野外活動など)	123 (14.8%)	31 (3.7%)	179 (21.5%)	60 (7.2%)	118 (14.2%)	320 (38.5%)
食にかかわる体験(食育, 食物の栽培・収穫, 調理体験など)	391 (47.1%)	48 (5.8%)	148 (17.8%)	93 (11.2%)	63 (7.6%)	88 (10.6%)
社会とかかわる体験(施設訪問・見学, 地域行事への参加など)	696 (83.8%)	59 (7.1%)	40 (4.8%)	24 (2.9%)	7 (0.8%)	5 (0.6%)
伝統とかかわる体験(民俗舞踊, 伝統工芸, 茶道など)	701 (84.4%)	49 (5.9%)	47 (5.7%)	22 (2.6%)	6 (0.7%)	6 (0.7%)
文字や言葉に関する遊び(かるた, しりとりなど)	40 (4.8%)	26 (3.1%)	116 (14.0%)	74 (8.9%)	172 (20.7%)	403 (48.5%)
数量・図形に関する遊び(長さ・重さ比べ, パズルなど)	105 (12.6%)	20 (2.4%)	38 (4.6%)	90 (10.8%)	192 (23.1%)	386 (46.5%)
学習絵本・ドリル・ワークブックを使った学習	608 (73.2%)	17 (2.0%)	33 (4.0%)	48 (5.8%)	54 (6.5%)	71 (8.5%)
英語	728 (87.6%)	16 (1.9%)	13 (1.6%)	20 (2.4%)	23 (2.8%)	31 (3.7%)
ICT(デジタルカメラ, PC, タブレット機器など)を用いた活動	751 (90.4%)	10 (1.2%)	14 (1.7%)	17 (2.0%)	18 (2.2%)	21 (2.5%)

総回答数: 831名

5) クラスの教育・保育の環境構成, 読書環境

Table4.17 から Table4.21 はクラスの教育・保育の環境構成 (Table4.17), クラスの子どもがすぐ手に取れる本の蔵書数 (Table4.18), 蔵書の内容 (Table4.19), クラスにおける読み聞かせの頻度 (Table4.20), 本の配置 (Table4.21) に関する集計結果である。なお, クラ

スの子どもがすぐ手に取れる本の蔵書数については、子どもが好きな時に本を取りに行ける図書室や共用スペース（図書コーナーなど）がある場合はそれらを含み、電子書籍は除くものとした。

クラスの教育・保育の環境構成については、割合の内訳にばらつきがあったものの、ほとんどの項目で9割前後の回答者が「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」のいずれかを選択していた。ただし、「園内に、様々な特性の子どもが生活しやすい工夫（例、ユニバーサルデザインなど）をしている」「身近な事物の性質や仕組みに気づいたり考えたりできる環境を用意している（例、虫メガネ、磁石、調べ物ができるコーナー）」の2項目は「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」のいずれかの回答が7割程度、「子どもが地域の産業や文化に親しめる環境を用意している（例、地域の特産品の展示）」は4割程度であった。これらについては、限られた空間での確保が難しい、あるいは、環境を構成する上での優先度が他と比べると高くない可能性がうかがえる。

読書環境について、子どもがすぐ手に取れる本の蔵書数は「1～20冊未満」から「100冊以上」までのいずれも回答が1割以上と、園によるばらつきが大きい結果となった。すぐ手に取れる本の蔵書数が、幼児教育・保育の活動や子どもの読書習慣にどのように影響するのか、今後縦断データから検討することが期待される。蔵書のジャンルについては、多い順から「図鑑（97.9%）」「物語・民話（97.8%）」「探す・遊ぶ絵本（84.7%）」「言葉（言葉遊び・詩）（70.3%）」と続いていた。蔵書数の多寡にかかわらず、読み聞かせの頻度については「ほぼ毎日」行っているという回答が7割以上を占め、また、多くの園が本の配置を定期的に入れ替えたり、落ち着いて本を読めるコーナーを設けたりするなどの工夫をしていた。保護者調査の結果では、家庭での絵本・本の共同読みの頻度は「週1日」が最多の回答であり、週0回から毎日までばらつきが大きかった（詳しくは第3章を参照）。このことから、家庭での読書環境が十分といえない子どもであっても、園で手に取れる本や読み聞かせの機会が十分にあることで、日常的に絵本・本に触れる経験をできている可能性がある。このように、多くの園で子どもが読書に触れる機会を確保していることが見て取れる結果となった。

Table4.17-1: 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。

	全く そう して ない	め った に そ う し て い な い	か た と え は あ ら ず と い う こ と は あ ら ず	ど ち ら か と い え は そ う し て い る	だ いた い と い う こ と は あ ら ず	ど ち も も と と い う こ と は あ ら ず
園舎内に、くつろぎの場として、子どもがのんびりし、静かな遊びをしたり、休んだりできる空間を確保している	15 (1.8%)	36 (4.3%)	101 (12.2%)	220 (26.5%)	254 (30.6%)	205 (24.7%)
園内に、様々な特性の子どもが生活しやすい工夫(例.ユニバーサルデザインなど)をしている	29 (3.5%)	62 (7.5%)	151 (18.2%)	281 (33.8%)	220 (26.5%)	88 (10.6%)
クラス的环境は、様々な特性の子どもにとって居心地の良いものになっている	5 (0.6%)	12 (1.4%)	49 (5.9%)	298 (35.9%)	324 (39.0%)	143 (17.2%)
活動の空間を、必要に応じて再構成している	2 (0.2%)	1 (0.1%)	14 (1.7%)	160 (19.3%)	318 (38.3%)	336 (40.4%)
遊びの中で、子どもが長く順番待ちをしなくても使えるだけの、ほどよい遊具や道具、素材・教材を用意している	2 (0.2%)	4 (0.5%)	33 (4.0%)	214 (25.8%)	341 (41.0%)	237 (28.5%)
室内外に、五領域(健康, 人間関係, 環境, 言葉, 表現)での経験を保障する遊具・道具や素材・教材を用意している	2 (0.2%)	5 (0.6%)	45 (5.4%)	232 (27.9%)	355 (42.7%)	192 (23.1%)
それぞれの遊び場には、子どもの発達の状態に合った遊具・道具や素材・教材を用意している	1 (0.1%)	1 (0.1%)	28 (3.4%)	192 (23.1%)	396 (47.7%)	213 (25.6%)
遊具・道具や素材・教材は、子どもの目につく場所に、興味関心を引くように配置している	1 (0.1%)	3 (0.4%)	35 (4.2%)	172 (20.7%)	364 (43.8%)	256 (30.8%)
総回答数: 831名						

Table4.17-2: 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。

	全く そう して ない	め った に そ う し て い ない	か た と え は そ う し て い ない	ど ち ら か と え は そ う し て い る	だ いた い そ う し て い る	お お し や り と い う こ と を し て い る
遊具・道具や素材・教材は、子どもの興味関心に応じて、随時入れ替えている	2 (0.2%)	13 (1.6%)	72 (8.7%)	228 (27.4%)	327 (39.4%)	189 (22.7%)
遊びの用途が限られていない(自分で遊び方を工夫できる)遊具・道具や素材・教材を十分に用意している	2 (0.2%)	18 (2.2%)	63 (7.6%)	204 (24.5%)	350 (42.1%)	194 (23.3%)
子どもが自分で遊びや遊ぶ空間をつくれるようにしている	1 (0.1%)	3 (0.4%)	51 (6.1%)	184 (22.1%)	335 (40.3%)	257 (30.9%)
遊具・道具や素材・教材のいくつかは、現在クラスで進行中の遊びや活動(行事含む)のテーマに関係のあるものになっている	2 (0.2%)	10 (1.2%)	68 (8.2%)	229 (27.6%)	335 (40.3%)	187 (22.5%)
遊びや生活の中で、文字に親しめる環境を用意している(例. 名称ラベルや説明書きをとまなう絵・写真)	2 (0.2%)	5 (0.6%)	31 (3.7%)	160 (19.3%)	327 (39.4%)	306 (36.8%)
遊びや生活の中で、数量や図形に親しめる環境を用意している(例. 数えて遊ぶおもちゃ、様々な形のパズルや積み木)	1 (0.1%)	3 (0.4%)	26 (3.1%)	168 (20.2%)	344 (41.4%)	289 (34.8%)
身近な事物の性質や仕組みに気づいたり考えたりできる環境を用意している(例. 虫メガネ、磁石、調べものができるコーナー)	10 (1.2%)	33 (4.0%)	159 (19.1%)	278 (33.5%)	239 (28.8%)	112 (13.5%)
子どもが地域の産業や文化に親しめる環境を用意している(例. 地域の特産品の展示)	56 (6.7%)	136 (16.4%)	293 (35.3%)	209 (25.2%)	100 (12.0%)	37 (4.5%)
総回答数: 831名						

Table4.18: クラスの子どもがすぐ手に取れる本の蔵書数として、最も近いものをお選びください。

	回答数	割合
0冊	2	0.2%
1~20冊未満	94	11.3%
20~40冊未満	222	26.7%
40~60冊未満	151	18.2%
60~80冊未満	87	10.5%
80~100冊未満	118	14.2%
100冊以上	157	18.9%
総回答数: 831名		

Table4.19: 次の本のジャンルのうち、クラスの子どもがすぐ手に取れる蔵書としてあるものを【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
物語・民話	811	97.8%
図鑑	812	97.9%
探す・遊ぶ絵本	702	84.7%
社会(お仕事, SDGs, 国際理解, 地域の伝統等)	369	44.5%
数, 時計	480	57.9%
言葉(言葉遊び, 詩)	583	70.3%
英語	128	15.4%
科学	381	46.0%
美術	120	14.5%
命(生と死, 災害, 戦争)	246	29.7%
心と体(人権, 性)	312	37.6%
その他	17	2.1%
総回答数: 829名		

Table4.20: クラスでの読み聞かせ(クラス全体あるいは小集団で)の頻度として、最も近いものを一つお選びください。

	回答数	割合
していない	2	0.2%
週1日未満	35	4.2%
週1日	35	4.2%
週2～3日	139	16.7%
ほぼ毎日	620	74.6%
総回答数: 831名		

Table4.21: クラスまたは園の本の配置について、当てはまると思うものをお選びください。

	全くそうしていません	めったにそうしていません	どちらかといえばそうしていません	どちらかといえばそうしている	だいたいそうしている	いつもそうしている
季節やその時のクラスの活動に合わせて本をラックなどに展示し、定期的に入れ替えている	29 (3.5%)	57 (6.9%)	90 (10.8%)	180 (21.7%)	200 (24.1%)	275 (33.1%)
本の近くに、落ち着いて本を読めるコーナーをつくっている	36 (4.3%)	43 (5.2%)	125 (15.0%)	181 (21.8%)	179 (21.5%)	267 (32.1%)
総回答数: 831名						

6) 保育者のかかわり

Table4.22 から Table4.25 は、担当しているクラスの、回答者自身を含む全ての保育者の子どもに対するかかわりに関する集計結果である。

クラスにおける保育者のかかわり

担当するクラスにおけるかかわり (Table4.22) について、ほとんどの項目で9割前後の回答者が「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」のいずれかを選択しており、保育者が子どもの主体性や心情を尊重しながら関わっていることが読み取れる。特に、「子どもの感情や怒りの感情表現を受けとめている (60.2%)」「トラブルが生じたとき、子ども同士で解決できるよう、他児の思いや考えに気づくような言葉かけや代弁を行っている (61.1%)」の2項目で、「いつもそうしている」が6割を越えていた。これは、保育者が子どもの感情の発達段階に応じた支援を心がけていることを示していると考えられる。

Table4.22-1: 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。

	全く そう して ない	め った ん に そ う し て い な い	ど ろ ど ろ か と え は そ う し て い な い	ど ろ ど ろ か と え は そ う し て い る	だ い た い そ う し て い る	し ら し ら し と そ う し て い る
クラスに落ち着いた雰囲気をつくっている	0 (0.0%)	3 (0.4%)	19 (2.3%)	172 (20.7%)	335 (40.3%)	302 (36.3%)
保育者の子どもへの接し方を温かいものになっている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (0.5%)	90 (10.8%)	320 (38.5%)	417 (50.2%)
子どもが自分の考えや欲求を表現しやすい雰囲気をつくっている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	85 (10.2%)	320 (38.5%)	426 (51.3%)
子どもの様子や興味関心に気を配っている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	56 (6.7%)	287 (34.5%)	488 (58.7%)
子どもの思いに丁寧に対応している	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)	81 (9.7%)	346 (41.6%)	402 (48.4%)
子どもに個別に話しかける際、目線の高さを合わせている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.4%)	77 (9.3%)	275 (33.1%)	476 (57.3%)
子どもの悲しみや怒りなどの感情表現を受けとめている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	45 (5.4%)	286 (34.4%)	500 (60.2%)
子どもの喜びや感動の表現に対して、肯定的な表情や身ぶり、言葉で応じている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	57 (6.9%)	299 (36.0%)	474 (57.0%)
保育者と子どもの思いや考えが異なるときには、子どもの思いに耳を傾けるようにしている	0 (0.0%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	74 (8.9%)	365 (43.9%)	389 (46.8%)
子どもが自分の考えを言葉で表現できるよう、十分な時間を与えたり、質問をしたり、言い換えたりして援助している	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	65 (7.8%)	335 (40.3%)	431 (51.9%)
集団の遊びや活動に入りたくない子どもがいる場合、その子が興味関心を持つようかかわりを工夫している	1 (0.1%)	1 (0.1%)	3 (0.4%)	94 (11.3%)	371 (44.6%)	361 (43.4%)

総回答数： 831名

Table4.22-2: 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。

	全く そう して ない	め った に そ う し て い な い	ど ち ら か と い え ば そ う し て い る	ど ち ら か と い え ば そ う し て い る	だ い たい そ う し て い る	い つ も そ う し て い る
集団の遊びや活動に入りたくない子どもは、状況に応じて別の遊びや活動ができるようにしている	1 (0.1%)	4 (0.5%)	29 (3.5%)	139 (16.7%)	325 (39.1%)	333 (40.1%)
個別の遊びを通じて、集団の遊びにつなげられるようかかわりを工夫している	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (2.4%)	141 (17.0%)	365 (43.9%)	305 (36.7%)
集団での遊びや活動においても、子ども一人ひとりの気持ちや考えに配慮している	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.4%)	80 (9.6%)	363 (43.7%)	385 (46.3%)
子どもたちが力を合わせて遊びや活動をする機会を設けている (例. グループの作品を作る)	2 (0.2%)	6 (0.7%)	27 (3.2%)	170 (20.5%)	334 (40.2%)	292 (35.1%)
子どもが他の子どもと関われるよう、必要に応じて援助している	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (0.8%)	64 (7.7%)	335 (40.3%)	425 (51.1%)
トラブルが生じたとき、子ども同士で解決できるよう、他児の思いや考えに気づくような言葉かけや代弁を行っている	0 (0.0%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	37 (4.5%)	284 (34.2%)	508 (61.1%)
子どもの話し合いの場面で、子どもの発言を引き出したり明確化したりしている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	51 (6.1%)	318 (38.3%)	461 (55.5%)
子どもに遊びや生活のきまりを明確に示している	0 (0.0%)	1 (0.1%)	15 (1.8%)	93 (11.2%)	331 (39.8%)	391 (47.1%)
子どもに遊びや生活のきまりについて、理由をわかりやすく伝えて いる	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (0.6%)	68 (8.2%)	324 (39.0%)	434 (52.2%)
きまりを言葉で理解しにくい子どもには、本人が理解できる伝え方 を工夫している	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (0.8%)	84 (10.1%)	347 (41.8%)	393 (47.3%)
総回答数: 831名						

遊びを通して学びにつなげるかかわり

また、遊びを通して学びにつなげるかかわり (Table4.23) に関しては、「子どもが課題に挑戦しているときには、必要に応じて援助をしている (58.0%)」と「子どもが好きな遊びや活動を選択できるようにしている (53.1%)」の2項目で「いつもそうしている」が過半数を占めている。これは、保育者が一方的に指導するのではなく、子どもの興味や発達段階に合わせて寄り添いながら遊びの充実につなげていく姿勢が浸透していることを示唆している。「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」のいずれかの選択率は、ほとんどの項目で9割を超え、全体として温かく受容的なかかわりや子ども個人と集団をつなげるかかわり、子どもの興味関心を学びにつなげたり自主性を促したりするかかわりが広く実践されているといえよう。

Table4.23-1: 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。

	全くそうしていません	めったにそうしていません	どちらかといえばそうしていません	どちらかといえばそうしてはいる	だいたいそうしてはいる	完全にそうしてはいる
子どもが好きな遊びや活動を選択できるようにしている	0 (0.0%)	2 (0.2%)	8 (1.0%)	87 (10.5%)	293 (35.3%)	441 (53.1%)
子どもが遊びに夢中になっている時、遊びが持続するよう、見守りや場の保障をしている	1 (0.1%)	2 (0.2%)	5 (0.6%)	107 (12.9%)	324 (39.0%)	392 (47.2%)
子どもが課題に挑戦しているときには、必要に応じて援助をしている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.4%)	39 (4.7%)	307 (36.9%)	482 (58.0%)
子どもが遊びや活動の中で、自分で考え、様々なことを試すことができるようにしている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (1.0%)	111 (13.4%)	335 (40.3%)	377 (45.4%)
子どもの抱いた疑問や好奇心をくみ取り、それを遊びや活動に反映させている	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (1.9%)	165 (19.9%)	370 (44.5%)	280 (33.7%)
子どもが抱いた疑問や好奇心について、保育者や他の子どもと共に考えている	0 (0.0%)	1 (0.1%)	9 (1.1%)	119 (14.3%)	346 (41.6%)	356 (42.8%)
子どもの発想が及ばないところを援助して、遊びの発展を助けている	0 (0.0%)	1 (0.1%)	19 (2.3%)	143 (17.2%)	356 (42.8%)	312 (37.5%)
遊びや生活の中で、子どもが身の回りの文字に親しめるようにしている(例. ポスターの文字や名前ラベルの文字への子どもの注意を引く)	0 (0.0%)	3 (0.4%)	18 (2.2%)	150 (18.1%)	339 (40.8%)	321 (38.6%)
総回答数: 831名						

Table4.23-2: 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。

	全くそうしてない	めったにそうしてない	どちらかといえばそうしてない	どちらかといえばそうしている	だいたいそうしている	完全にそうしている
遊びや生活の中で、子どもが数量に親しめるようにしている(例. 人数を数えたり、積み木の高さを測ることを促す)	0 (0.0%)	4 (0.5%)	22 (2.6%)	154 (18.5%)	327 (39.4%)	324 (39.0%)
遊びや生活の中で、子どもがいろいろな形に親しめるようにしている(例. お絵かき、粘土などで、形への子どもの注意を引く)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (3.1%)	144 (17.3%)	334 (40.2%)	327 (39.4%)
遊びや生活の中で、興味をもった事物を、五感を使って探究できるようにしている(例. 見るだけでなく、触ったり匂いをかいだりすることを促す)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	33 (4.0%)	153 (18.4%)	344 (41.4%)	300 (36.1%)
遊びや生活の中で、子どもが事物の性質や変化に関心をもてるようにしている(例. 種や球根が育つ様子、氷が溶ける変化等への子どもの注意を引く)	3 (0.4%)	1 (0.1%)	42 (5.1%)	169 (20.3%)	356 (42.8%)	260 (31.3%)
遊びや生活の中で、社会課題に関心をもてるようにしている(例. SDGsへの子どもの注意を引く声かけ)	17 (2.0%)	39 (4.7%)	164 (19.7%)	264 (31.8%)	230 (27.7%)	117 (14.1%)
子どもが地域社会に親しめるようにしている(例. 地域の産業や文化、公共空間でのマナーへの注意を引く)	6 (0.7%)	12 (1.4%)	77 (9.3%)	249 (30.0%)	320 (38.5%)	167 (20.1%)
行事は、進め方や内容を子どもと話し合い、子どもの意見を反映させている	1 (0.1%)	9 (1.1%)	40 (4.8%)	131 (15.8%)	306 (36.8%)	344 (41.4%)
行事は、どの子どもも自分なりの役割を見つけて主体的に取り組めるように援助している	1 (0.1%)	3 (0.4%)	12 (1.4%)	114 (13.7%)	318 (38.3%)	383 (46.1%)
総回答数: 831名						

午前中に眠そうな子どもの有無と対応

Table4.24 および Table4.25 は、午前中に眠そうにしている子どもの有無と対応である。約4割の園で午前中眠そうにしている子を見かけることがあり、そのうち60.0%は声掛けなどにより昼寝の時間までは寝かせない、40.0%は午前中でも寝かせるという回答であった。対応については一概に捉えられず、家庭や子どもの状況を把握した上で各園が判断していると考えられる。

Table4.24: 担当しているクラスでは、午前中に、眠そうにしている／眠ってしまう子どもはいますか。当てはまると思うものを一つお選びください。

	回答数	割合
いない	484	58.4%
たまに見かける	303	36.6%
しばしば見かける	35	4.2%
頻繁に見かける	7	0.8%
総回答数： 829名		

Table4.25: 眠そうにしている／眠ってしまう子どもにはどのように対応していますか。普段の対応により近いと思うものを一つお選びください。

	回答数	割合
声かけ等をして午前中は寝かせないようにする	207	60.0%
子どもが望めば午前中でも寝かせる	138	40.0%
総回答数： 345名		

7) ICT 活動

Table4.26 は、担当しているクラスの、ICT を使った子どもの活動に関する集計結果である。この設問は、先の設問で一斉活動か自由遊びの時間に ICT 機器を用いた何らかの活動を行っているという回答した者にのみ表示された質問である (Table4.15 および Table4.16 を参照)。「子どもが使える ICT 機器を用意している (例、デジタルカメラ、PC、タブレット機器)」の項目に「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」のいずれかと回答した割合は約 5 割であった。また、ICT 機器を使った活動内容についても、「そうしている」方の回答が過半数を超えることはなく、ICT 活動を行っている園であっても、子どもが園において ICT 機器に触る機会は限定的な範囲に留まるとみられる。

Table4.26: 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。

	全くそうしていない	めったにそうしていない	どちらかといえばそうしていない	どちらかといえばそうしている	だいたいそうしている	いつもそうしている
子どもが使えるICT機器を用意している(例. デジタルカメラ, P C, タブレット機器)	39 (28.9%)	19 (14.1%)	14 (10.4%)	21 (15.6%)	18 (13.3%)	24 (17.8%)
子どもがICT機器を使って創造的な活動ができるようにしている(例. タブレットを使った創造的な線描きや描画, 映像に合わせたダンスや運動の創作)	37 (27.4%)	18 (13.3%)	24 (17.8%)	26 (19.3%)	14 (10.4%)	16 (11.9%)
子どもがICT機器を使ってクラスの興味や活動を活性化できるようにしている(例. 見つけた昆虫についての資料を検索する, 遠足の前に行き先について調べる)	33 (24.4%)	19 (14.1%)	23 (17.0%)	22 (16.3%)	26 (19.3%)	12 (8.9%)
子どもがICT機器を使って遊びや活動を振り返ることができるようにしている(例. 子どもによる記録・ドキュメンテーション)	47 (34.8%)	22 (16.3%)	24 (17.8%)	15 (11.1%)	12 (8.9%)	15 (11.1%)
総回答数: 135名						

8) 就学準備的な指導

Table4.27 は、担当しているクラスの、就学準備的な指導に関して集計した結果である。小学校に合わせた行動習慣や生活習慣を指導しているかについては、「すこし当てはまる」「当てはまる」「非常によく当てはまる」の回答割合が9割を大きく超える一方、教科の準備や予習となるような指導では7割弱に留まっている。この結果は、一斉活動や自由遊びの時間での活動内容 (Table4.15 および Table4.16) で述べた、直接的な学習指導ではなく遊びを通して学びにつなげようと意図された保育者の実践とも整合的である。

Table4.27: 以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。

	全く当てはまらない	当てはまらない	あまり当てはまらない	すこし当てはまる	当てはまる	非常によく当てはまる
小学校に合わせた行動習慣を、就学前に、指導している(例. イスに座って作業する, 少し長めの保育者の話を聞く, 集団行動等)	2 (0.2%)	7 (0.8%)	24 (2.9%)	148 (17.9%)	340 (41.0%)	308 (37.2%)
小学校に合わせた生活習慣を、就学前に、指導している(例. 時間内に食事を終える, 雑巾がけ, 和式トイレ等)	4 (0.5%)	8 (1.0%)	30 (3.6%)	194 (23.4%)	370 (44.6%)	223 (26.9%)
小学校教科の準備や予習となるものを、就学前に、指導している(例. 文字の読み書き, 簡単な計算, 体育種目の練習)	58 (7.0%)	67 (8.1%)	144 (17.4%)	200 (24.1%)	216 (26.1%)	144 (17.4%)
総回答数: 829名						

9) 幼児教育・保育における人権・人格の尊重

Table4.28 は、幼児教育・保育における人権・人格の尊重に関する質問項目の集計結果である。いずれの項目でも「すこし当てはまる」「当てはまる」「非常によく当てはまる」のいずれかを選択した回答者が9割を超えており、子どもの人権・人格を重視して教育・保育にあたっていることが見える結果となった。ただ、「一人の保育者が子どもや保育を抱え込むことなく、複数人で分担している」は、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」「全く当てはまらない」の回答割合が他の項目と比べやや高かった。

Table4.28: 以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。

	全く当てはまらない	当てはまらない	あまり当てはまらない	すこし当てはまる	当てはまる	非常によく当てはまる
人権擁護や人格尊重を踏まえた保育について十分に理解している	2 (0.2%)	0 (0.0%)	20 (2.4%)	125 (15.1%)	429 (51.7%)	253 (30.5%)
保育施設における虐待等の防止のためのガイドラインやチェックリストについて十分に把握し、活用している	1 (0.1%)	4 (0.5%)	46 (5.5%)	156 (18.8%)	377 (45.5%)	245 (29.6%)
一人の保育者が子どもや保育を抱え込むことなく、複数人で分担している	9 (1.1%)	16 (1.9%)	57 (6.9%)	144 (17.4%)	308 (37.2%)	295 (35.6%)
適切でないかかわりを見つけた場合に、報告・相談・改善できる体制がある	2 (0.2%)	5 (0.6%)	44 (5.3%)	128 (15.4%)	342 (41.3%)	308 (37.2%)
保護者から適切でない保育について指摘があった場合に、対応できる体制がある	1 (0.1%)	0 (0.0%)	19 (2.3%)	110 (13.3%)	344 (41.5%)	355 (42.8%)
総回答数: 829名						

10) 幼児教育・保育における安全管理

Table4.29 は幼児教育・保育における安全管理・事故防止に関する集計結果である。どの項目でも「すこし当てはまる」「当てはまる」「非常によく当てはまる」のいずれかの回答割合が9割を大きく超えており、ほとんどの園において安全管理・事故防止の取り組みが重視されていることがわかる結果となった。

Table4.29: 以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。

	全く当てはまらない	当てはまらない	あまり当てはまらない	すこし当てはまる	当てはまる	非常にすく当てはまる
園の安全計画やマニュアルについて十分に把握している	1 (0.1%)	2 (0.2%)	20 (2.4%)	148 (17.9%)	430 (51.9%)	227 (27.4%)
見守りの位置・役割分担についての話し合いや、家具・遊具の配置確認、死角や危険な場所・ものの確認を行っている	0 (0.0%)	1 (0.1%)	13 (1.6%)	103 (12.4%)	385 (46.5%)	326 (39.4%)
保育者間でヒヤリ・ハットや事故防止について気軽に共有し話せる雰囲気がある	0 (0.0%)	3 (0.4%)	17 (2.1%)	64 (7.7%)	322 (38.9%)	422 (51.0%)
総回答数: 828名						

11) 園長のリーダーシップ、職場の協働的風土の認知

Table4.30 は園長のリーダーシップに関する集計結果である。「園長は、現在在園している子どもたちのことを十分理解している」などの全3項目について、「すこし当てはまる」「当てはまる」「非常によく当てはまる」のいずれかの選択割合がすべて8割を超えており、多くの園で園長が子どもや幼児教育・保育を理解し、リーダーシップを持って園運営を行っていることがわかる。

Table4.31 は職場の協働的な雰囲気に関する集計結果である。田村(2008)および田村他(2012)による「協働的風土の認知」尺度を、幼児教育・保育現場にあてはまるよう文言を一部変更して使用した。全9項目のうち、最後の2項目「趣味や遊びの面での仲間意識はあるが子どもの保育や仕事などについて真剣に議論をすることはあまりない」「保育者集団の和を大切にすあまり、自分の考えや主張が言いにくい職場である」は逆転項目であり、「そう思わない」「あまりそう思わない」が職場の雰囲気を肯定的に評価する選択肢である。ほとんどの設問で6割以上の回答者が「ややそう思う」「そう思う」(逆転項目では「そう思わない」「あまりそう思わない」)のいずれかを選択しており、職場の風土を協働的だと認識していることが示された。特に、「子どもの保育や職務で困っている保育者がいれば多くの同僚が応援する雰囲気がある」と「子どもの保育に関して、日常的に保育者同士がアドバイスし合ったり、助け合ったりする職場である」の2項目は「ややそう思う」「そう思う」の割合が8割を超えていた。一方で、「あまりそう思わない」「そう思わない」を選ぶ回答者が1~2割いる項目もあり、職場の協働的風土の認知は園や保育者によって異なる様子がうかがえる。

Table4.30: 以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。

	全く当てはまらない	当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる	非常に当てはまる
園長は、現在在籍している子どもたちのことを十分に理解している	8 (1.0%)	10 (1.2%)	59 (7.1%)	139 (16.8%)	293 (35.4%)	319 (38.5%)
園長は、職員が行っている幼児教育・保育について十分に理解している	7 (0.8%)	11 (1.3%)	58 (7.0%)	127 (15.3%)	314 (37.9%)	311 (37.6%)
園長は、園の経営や運営だけでなく、幼児教育・保育の現場においてリーダーシップを発揮している	14 (1.7%)	26 (3.1%)	85 (10.3%)	132 (15.9%)	266 (32.1%)	305 (36.8%)
総回答数： 828名						

Table4.31: あなたは、あなたの園の職場の雰囲気について、どのように感じていますか。次の各項目について、当てはまるものをお選びください。

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらでもない	ややそう思う	そう思う
子どもの保育や職務で困っている保育者がいれば多くの同僚が応援する雰囲気がある	13 (1.6%)	40 (4.8%)	95 (11.5%)	343 (41.4%)	337 (40.7%)
子どもの保育に関して、日常的に保育者同士がアドバイスし合ったり、助け合ったりする職場である	8 (1.0%)	37 (4.5%)	91 (11.0%)	365 (44.1%)	327 (39.5%)
子どもの保育や職務で困っている保育者が自分の悩みを率直に話せる雰囲気がある	12 (1.4%)	62 (7.5%)	138 (16.7%)	365 (44.1%)	251 (30.3%)
みんなが協力してよりよい保育を目指しているので、自分も高い職務意識を持つことができる	12 (1.4%)	50 (6.0%)	164 (19.8%)	363 (43.8%)	239 (28.9%)
保育者一人ひとりの意欲が大切にされており、各自の個性を尊重し発揮し合う形でよくまとまっている職場である	20 (2.4%)	80 (9.7%)	197 (23.8%)	356 (43.0%)	175 (21.1%)
園の保育目標の共通理解や具体化については、園内で意見の交換がよくなされている	17 (2.1%)	78 (9.4%)	190 (22.9%)	353 (42.6%)	190 (22.9%)
保育実践や園の仕事に関して、保育者間の多様な意見を受け入れて、みんなで腹を割って議論できる雰囲気がある	31 (3.7%)	104 (12.6%)	199 (24.0%)	342 (41.3%)	152 (18.4%)
趣味や遊びの面での仲間意識はあるが子どもの保育や仕事などについて真剣に議論をすることはあまりない(*逆転項目)	267 (32.2%)	295 (35.6%)	126 (15.2%)	93 (11.2%)	47 (5.7%)
保育者集団の和を大切にすあまり、自分の考えや主張が言いにくい職場である(*逆転項目)	123 (14.9%)	301 (36.4%)	222 (26.8%)	119 (14.4%)	63 (7.6%)
総回答数： 828名					

12) 担任保育者の労働環境

Table4.32 から Table4.36 は労働環境に関する集計結果である。休暇の取りやすさ

(Table4.32), 休憩時間 (Table4.33), 勤務時間のうち子どもと直接かかわらない時間 (Table4.34) については比較的ばらつきが大きく, 園によって労働環境がかなり異なることが推察された。特に一日の休憩時間については, 「30分以上1時間未満」が37.8%と最も多かったものの, 「全くとっていない」(18.7%), 「1分以上15分未満」(19.6%), 「15分以上30分未満」(19.0%) など休憩をとっていない, またはごく短い時間しか取っていないという回答もそれぞれ2割弱を占めていた。十分な休憩時間が取れない背景としては, 業務量の多さや職員不足など保育者個人では解消できない課題があると考えられる。長時間の労働は心身に負担がかかり, 疲労や事故のリスクも高まるため, 保育者が適度な休憩を取ることができるよう施設や行政など様々なレベルで支援していく必要があるであろう。また, 一日当たりの労働時間 (Table4.35) については, 8時間から10時間未満の間に過半数が納まっているものの, 10時間以上という回答も3割近くあった。給与が職務内容に見合っているかという設問 (Table4.36) では, 「職務内容に対し給与がとても少ない」「職務内容に対し給与がやや少ない」のいずれかを選択した回答者が8割近くを占めており, 多くの回答者が職務内容に対して給与が不十分であると感じていることが明らかになった。

Table4.32: 規定の休暇(有給休暇を含む)はどれくらい取りやすいですか。

	回答数	割合
取りにくい	99	12.0%
どちらかといえば取りにくい	162	19.6%
どちらかといえば取りやすい	315	38.0%
取りやすい	252	30.4%
総回答数: 828名		

Table4.33: あなたは, 勤務日一日当たり平均して休憩時間をどのくらい取っていますか。

	回答数	割合
全く取っていない	155	18.7%
1分以上15分未満	162	19.6%
15分以上30分未満	157	19.0%
30分以上1時間未満	313	37.8%
1時間以上	41	5.0%
総回答数: 828名		

Table4.34: 勤務時間のうち、子どもと直接かかわらない時間(ノンコンタクトタイム)はどれくらいありますか。

	回答数	割合
全くない	127	15.3%
1分以上15分未満	86	10.4%
15分以上30分未満	130	15.7%
30分以上1時間未満	223	26.9%
1時間以上	262	31.6%
総回答数: 828名		

Table4.35: 勤務日一日当たりの労働時間(残業, 持ち帰りを含む)は, 平均どれくらいですか。

	回答数	割合
7時間未満	74	8.9%
7時間以上8時間未満	73	8.8%
8時間以上9時間未満	250	30.2%
9時間以上10時間未満	202	24.4%
10時間以上11時間未満	131	15.8%
11時間以上12時間未満	57	6.9%
12時間以上	41	5.0%
総回答数: 828名		

Table4.36: 現在の給与は, どの程度ご自身の職務内容に見合っていると思いますか。

	回答数	割合
職務内容に対し給与がとて少ない	221	26.7%
職務内容に対し給与がやや少ない	418	50.5%
職務内容に対し給与がちょうどよい	172	20.8%
職務内容に対し給与がやや高い	13	1.6%
職務内容に対し給与がとても高い	4	0.5%
総回答数: 828名		

13) 担任保育者の精神的健康

Table4.37 は, S-WHO-5-J (稲垣他, 2013) を用いた, 調査時点の直近 2 週間における保育者の精神的健康に関する集計結果である。「明るく, 楽しい気分で過ごした」と「意欲的

で活動的に過ごした」の項目は「そういう時が多かった」「いつもそうだった」のいずれかを選択した回答者が7割を超えていた。一方、「落ち着いたリラックした気分で過ごした」の項目では5割程度、「ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた」の項目では4割程度に留まり、活動的に過ごしてはいるものの、保育者の休息が十分確保されていない状況がうかがえる結果となった。

Table4.37: 以下の5つの各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものをお選びください。

	全くなかった	そういう時は少なかった	そういう時が多かった	いつもそうだった
明るく、楽しい気分で過ごした	17 (2.1%)	188 (22.7%)	493 (59.5%)	130 (15.7%)
落ち着いたリラックした気分で過ごした	47 (5.7%)	354 (42.8%)	347 (41.9%)	80 (9.7%)
意欲的で活動的に過ごした	18 (2.2%)	189 (22.8%)	479 (57.9%)	142 (17.1%)
ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた	96 (11.6%)	375 (45.3%)	288 (34.8%)	69 (8.3%)
日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	39 (4.7%)	291 (35.1%)	384 (46.4%)	114 (13.8%)
総回答数: 828名				

(橘孝昌・天井響子)

4-2. 担任保育者調査 質問項目一覧

番号	表番号	質問項目
あなた自身のプロフィールについてお尋ねします。		
Q1	Table4.1	あなたの性別をお知らせください。
Q2	Table4.2	あなたの現在の年齢をお知らせください。／歳
Q3	Table4.4	他園での勤務年数も含めて、保育教諭、保育士または幼稚園教諭としての経験年数をお知らせください。／年目 ※休業期間（産休・育休など）は除外し、累積年数でお知らせください。
Q4	同上	現在の園でのご勤務年数をお知らせください。／年目 ※休業期間（産休・育休など）は除外し、累積年数でお知らせください。
Q5	Table4.3	現在の園での役職をお知らせください。
Q6	Table4.5	ご自身が保有されている免許や資格を【全て】お選びください。
Q7	Table4.6	前の質問で取得した免許や資格はどのように取得しましたか。当てはまるものを【全て】お選びください。
Q8	Table4.7	あなたの最終学歴をお知らせください。
あなた自身の、専門性の向上のための活動（研修等）への参加についてお尋ねします。 ※園内・園外、どちらの活動（研修等）も含まれます。		
Q9	Table4.8	あなたは、過去 12 か月（2023（令和 5）年 12 月 1 日～2024（令和 6）年 11 月 30 日）の間に保育士等キャリアアップ研修に参加しましたか。
Q10	Table4.9	過去 12 か月（2023（令和 5）年 12 月 1 日～2024（令和 6）年 11 月 30 日）の間に参加した保育士等キャリアアップ研修の項目を【全て】お選びください。
Q11	Table4.10	保育士等キャリアアップ研修を除き、過去 12 か月（2023（令和 5）年 12 月 1 日～2024（令和 6）年 11 月 30 日）の間に専門性の向上のために参加した活動（研修等）を【全て】お選びください。
Q12	Table4.11	保育士等キャリアアップ研修を除き、過去 12 か月（2023 年 12 月 1 日～2024 年 11 月 30 日）の間にあなたが参加した専門性向上のための活動（研修等）に含まれていた内容として、当てはまるものを【全て】お選びください。
ここからは、担当しているクラスについてお尋ねします。 クラス編制のしかたが複数ある場合（例、縦割りと横割りの両方でクラス編制をしている場合は、通常の保育時間（教育／保育標準時間※認定こども園は教育標準時間）でより多く過ごしている編制でのクラスについてお答えください。		
Q13	Table4.17	『担当しているクラスにおける、教育・保育の環境構成』 についてお尋ねします。 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。
(1)	Table4.17_1	園舎内に、くつろぎの場として、子どもがのんびりし、静かな遊びをしたり、休んだりできる空間を確保している

(2)	同上	園内に、様々な特性の子どもが生活しやすい工夫（例、ユニバーサルデザインなど）をしている
(3)	同上	クラス的环境は、様々な特性の子どもにとって居心地の良いものになっている
(4)	同上	活動の空間を、必要に応じて再構成している
(5)	同上	遊びの中で、子どもが長く順番待ちをしなくても使えるだけの、ほどよい遊具や道具、素材・教材を用意している
(6)	同上	室内外に、五領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）での経験を保障する遊具・道具や素材・教材を用意している
(7)	同上	それぞれの遊び場には、子どもの発達の状態に合った遊具・道具や素材・教材を用意している
(8)	同上	遊具・道具や素材・教材は、子どもの目につく場所に、興味関心を引くように配置している
(9)	Table4.17_2	遊具・道具や素材・教材は、子どもの興味関心に応じて、随時入れ替えている
(10)	同上	遊びの用途が限られていない（自分で遊び方を工夫できる）遊具・道具や素材・教材を十分に用意している
(11)	同上	子どもが自分で遊びや遊ぶ空間をつくれるようにしている
(12)	同上	遊具・道具や素材・教材のいくつかは、現在クラスで進行中の遊びや活動（行事含む）のテーマに関係のあるものになっている
(13)	同上	遊びや生活の中で、文字に親しめる環境を用意している（例、名称ラベルや説明書きをとまなう絵・写真）
(14)	同上	遊びや生活の中で、数量や図形に親しめる環境を用意している（例、数えて遊ぶおもちゃ、様々な形のパズルや積み木）
(15)	同上	身近な事物の性質や仕組みに気づいたり考えたりできる環境を用意している（例、虫メガネ、磁石、調べものができるコーナー）
(16)	同上	子どもが地域の産業や文化に親しめる環境を用意している（例、地域の特産品の展示）
<p>『クラスの子どもがすぐ手に取れる本（絵本、図鑑、紙芝居を含む）の蔵書数や配置』についてお尋ねします。</p> <p>※子どもが好きな時に本を取りに行ける図書室や共用スペース（図書コーナーなど）がある場合はそれらも含めてお答えください。</p> <p>※電子書籍は除く</p>		
Q14	Table4.18	クラスの子どもがすぐ手に取れる本の蔵書数として、最も近いものを一つお選びください。
Q15	Table4.19	次の本のジャンルのうち、クラスの子どもがすぐ手に取れる蔵書としてあるものを【全て】お選びください。

Q16	Table4.20	クラスでの読み聞かせ（クラス全体あるいは小集団で）の頻度として、最も近いものを一つお選びください。
Q17	Table4.21	クラスまたは園の本の配置について、当てはまると思うものをお選びください。 ※子どもが好きな時に本を取りに行ける図書室や共用スペース（図書コーナーなど）がある場合はそれらも含めてお答えください。
(1)	同上	季節やその時のクラスの活動に合わせて本をラックなどに展示し、定期的に入れ替えている
(2)	同上	本の近くに、落ち着いて本を読めるコーナーをつくっている
Q18	Table4.12	『担当しているクラスの、教育および保育の内容に関する全体的な計画および振り返り』についてお尋ねします。 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。
(1)	同上	指導計画は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を意識して立てている
(2)	同上	指導計画は、子どもたち一人ひとりの実態に配慮し、柔軟に応じられるよう工夫して立てている
(3)	同上	指導計画は、子どもが主体となって遊びや活動を展開できるよう工夫して立てている
(4)	同上	遊びや活動の中での子どもの気づきや学びを可視化して記録し、振り返っている (例. ドキュメンテーション、ポートフォリオ、ラーニングストーリー)
(5)	同上	保育の出来事を振り返るとき、この先の子どもの育ちについて見通しを持つようにしている
『担当しているクラスの、一日当たりの保育時間（教育／保育標準時間）における一斉活動と自由遊びの時間』についてお尋ねします。		
Q19	Table4.14	一日当たりの一斉活動と自由遊びの時間時間をそれぞれご記入ください。 ※小数点第一位まで入力可能です。例えば30分の場合は0.5時間、2時間30分の場合は2.5時間としてお答えください。 ※食事や午睡など、生活のための時間は除きます。
(1)	同上	一日当たりの一斉活動
(2)	同上	一日当たりの自由遊び
Q20	Table4.15	『担当しているクラスの、通常の保育時間（教育／保育標準時間）の【一斉活動の時間】に行っている、遊びや活動の頻度』をお尋ねします。 それぞれの活動について、一斉活動における頻度をお答えください。 ※各項目で示されている活動を望ましいものとしているわけでも、それをしよう求めているわけでもありません。
(1)	同上	体操・運動遊び

(2)	同上	歌・リズム・楽器遊び
(3)	同上	お絵かき・工作
(4)	同上	積み木・ブロック
(5)	同上	ごっこ遊び・劇遊び
(6)	同上	泥遊び・自然とかかわる体験（生物の飼育や植物の栽培，野外活動など）
(7)	同上	食にかかわる体験（食育，食物の栽培・収穫，調理体験など）
(8)	同上	社会とかかわる体験（施設訪問・見学，地域行事への参加など）
(9)	同上	伝統とかかわる体験（民俗舞踊，伝統工芸，茶道など）
(10)	同上	文字や言葉に関する遊び（かるた，しりとりなど）
(11)	同上	数量・図形に関する遊び（長さ・重さ比べ，パズルなど）
(12)	同上	学習絵本・ドリル・ワークブックを使った学習
(13)	同上	英語
(14)	同上	ICT（デジタルカメラ，PC，タブレット機器など）を用いた活動
Q21	Table4.16	<p>『担当しているクラスの，通常の保育時間（教育／保育標準時間）の【自由遊びの時間】に行っている，遊びや活動の頻度』をお尋ねします。それぞれの活動について，自由遊びでできるようにしている頻度をお答えください。</p> <p>※各項目で示されている活動を望ましいものとしているわけでも，それをしよう求めているわけでもありません。</p>
(1)	同上	体操・運動遊び
(2)	同上	歌・リズム・楽器遊び
(3)	同上	お絵かき・工作
(4)	同上	積み木・ブロック
(5)	同上	ごっこ遊び・劇遊び
(6)	同上	泥遊び・自然とかかわる体験（生物の飼育や植物の栽培，野外活動など）
(7)	同上	食にかかわる体験（食育，食物の栽培・収穫，調理体験など）
(8)	同上	社会とかかわる体験（施設訪問・見学，地域行事への参加など）
(9)	同上	伝統とかかわる体験（民俗舞踊，伝統工芸，茶道など）
(10)	同上	文字や言葉に関する遊び（かるた，しりとりなど）
(11)	同上	数量・図形に関する遊び（長さ・重さ比べ，パズルなど）
(12)	同上	学習絵本・ドリル・ワークブックを使った学習
(13)	同上	英語
(14)	同上	ICT（デジタルカメラ，PC，タブレット機器など）を用いた活動

Q22	Table4.22	<p>『担当しているクラスの、あなた自身を含む全ての保育者のかかわり』についてお尋ねします。以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。</p> <p>※各項目で示されている実践を望ましいものとしているわけでも、それをしよう求めているわけでもありません。日々のご自身の実践と照らして、率直にお答えいただきますようお願いいたします。</p>
(1)	Table4.22_1	クラスに落ち着いた雰囲気をつくっている
(2)	同上	保育者の子どもへの接し方を温かいものに行っている
(3)	同上	子どもが自分の考えや欲求を表現しやすい雰囲気をつくっている
(4)	同上	子どもの様子や興味関心に気を配っている
(5)	同上	子どもの思いに丁寧に対応している
(6)	同上	子どもに個別に話しかける際、目線の高さを合わせている
(7)	同上	子どもの悲しみや怒りなどの感情表現を受けとめている
(8)	同上	子どもの喜びや感動の表現に対して、肯定的な表情や身ぶり、言葉で応じている
(9)	同上	保育者と子どもの思いや考えが異なったときには、子どもの思いに耳を傾けるようにしている
(10)	同上	子どもが自分の考えを言葉で表現できるよう、十分な時間を与えたり、質問をしたり、言い換えたりして援助している
(11)	Table4.22_2	集団の遊びや活動に入りたくない子どもがいる場合、その子が興味関心を持つようかかわりを工夫している
(12)	同上	集団の遊びや活動に入りたくない子どもは、状況に応じて別の遊びや活動ができるようにしている
(13)	同上	個別の遊びを通じて、集団の遊びにつなげられるようかかわりを工夫している
(14)	同上	集団での遊びや活動においても、子ども一人ひとりの気持ちや考えに配慮している
(15)	同上	子どもたちが力を合わせて遊びや活動をする機会を設けている（例、グループの作品を作る）
(16)	同上	子どもが他の子どもと関われるよう、必要に応じて援助している
(17)	同上	トラブルが生じたとき、子ども同士で解決できるよう、他児の思いや考えに気づくような言葉かけや代弁を行っている
(18)	同上	子どもの話し合いの場面で、子どもの発言を引き出したり明確化したりしている
(19)	同上	子どもに遊びや生活のきまりを明確に示している
(20)	同上	子どもに遊びや生活のきまりについて、理由をわかりやすく伝えている
(21)	同上	きまりを言葉で理解しにくい子どもには、本人が理解できる伝え方を工夫している

		る
Q23	Table4.23	<p>『担当しているクラスの、遊びを通した学びについての、あなた自身を含む全ての保育者のかかわり』についてお尋ねします。以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。</p> <p>※各項目で示されている実践を望ましいものとしているわけでも、それをしよう求めているわけでもありません。日々のご自身の実践と照らして、率直にお答えいただきますようお願いいたします。</p>
(1)	Table4.23_1	子どもが好きな遊びや活動を選択できるようにしている
(2)	同上	子どもが遊びに夢中になっている時、遊びが持続するよう、見守りや場の保障をしている
(3)	同上	子どもが課題に挑戦しているときには、必要に応じて援助をしている
(4)	同上	子どもが遊びや活動の中で、自分で考え、様々なことを試すことができるようにしている
(5)	同上	子どもの抱いた疑問や好奇心をくみ取り、それを遊びや活動に反映させている
(6)	同上	子どもが抱いた疑問や好奇心について、保育者や他の子どもと共に考えている
(7)	同上	子どもの発想が及ばないところを援助して、遊びの発展を助けている
(8)	同上	遊びや生活の中で、子どもが身の回りの文字に親しめるようにしている（例. ポスターの文字や名前ラベルの文字への子どもの注意を引く）
(9)	Table4.23_2	遊びや生活の中で、子どもが数量に親しめるようにしている（例. 人数を数えたり、積み木の高さを測ることを促す）
(10)	同上	遊びや生活の中で、子どもがいろいろな形に親しめるようにしている（例. お絵かき、粘土などで、形への子どもの注意を引く）
(11)	同上	遊びや生活の中で、興味をもった事物を、五感を使って探究できるようにしている（例. 見るだけでなく、触ったり匂いをかいだりすることを促す）
(12)	同上	遊びや生活の中で、子どもが事物の性質や変化に関心をもてるようにしている（例. 種や球根が育つ様子、氷が溶ける変化等への子どもの注意を引く）
(13)	同上	遊びや生活の中で、社会課題に関心をもてるようにしている（例. SDGs への子どもの注意を引く声かけ）
(14)	同上	子どもが地域社会に親しめるようにしている（例. 地域の産業や文化、公共空間でのマナーへの注意を引く）
(15)	同上	行事は、進め方や内容を子どもと話し合い、子どもの意見を反映させている
(16)	同上	行事は、どの子どもも自分なりの役割を見つけて主体的に取り組めるように援助している
Q24	Table4.26	『担当しているクラスの、ICTを使った子どもの活動』 についてお尋ねします。

		以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。 ※各項目で示されている実践を望ましいものとしているわけでも、それをしよう求めているわけでもありません。日々のご自身の実践と照らして、率直にお答えいただきますようお願いいたします。
(1)	同上	子どもが使える ICT 機器を用意している (例. デジタルカメラ, PC, タブレット機器)
(2)	同上	子どもが ICT 機器を使って創造的な活動ができるようにしている (例. タブレットを使った創造的な線描きや描画, 映像に合わせたダンスや運動の創作)
(3)	同上	子どもが ICT 機器を使ってクラスの興味や活動を活性化できるようにしている (例. 見つけた昆虫についての資料を検索する, 遠足の前に行き先について調べる)
(4)	同上	子どもが ICT 機器を使って遊びや活動を振り返ることができるようにしている (例. 子どもによる記録・ドキュメンテーション)
Q25	Table4.13	『担当しているクラスの、職員間および保護者との情報共有』についてお尋ねします。 以下の項目それぞれについて、当てはまると思うものをお選びください。
(1)	同上	職員間で、指導計画や個別の子どもの様子について、十分に情報共有している
(2)	同上	保護者に、活動の意図や日々の子どもの様子について、十分に情報共有している
Q26	Table4.27	『担当しているクラスの、就学準備的な指導』についてお尋ねします。 以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。 ※各項目で示されている実践を望ましいものとしているわけでも、それをしよう求めているわけでもありません。日々のご自身の実践と照らして、率直にお答えいただきますようお願いいたします。
(1)	同上	小学校に合わせた行動習慣を、就学前に、指導している (例. イスに座って作業する, 少し長めの保育者の話を聞く, 集団行動等)
(2)	同上	小学校に合わせた生活習慣を、就学前に、指導している (例. 時間内に食事を終える, 雑巾がけ, 和式トイレ等)
(3)	同上	小学校教科の準備や予習となるものを、就学前に、指導している (例. 文字の読み書き, 簡単な計算, 体育種目の練習)
		『担当しているクラスにおける、午前中眠そうな子への対応』についてお尋ねします。
Q27	Table4.24	担当しているクラスでは、午前中に、眠そうにしている／眠ってしまう子どもはいますか。当てはまると思うものを一つお選びください。
Q28	Table4.25	眠そうにしている／眠ってしまう子どもにはどのように対応していますか。普段の対応により近いと思うものを一つお選びください。
Q29	Table4.28	『保育実践における人権・人格の尊重』についてお尋ねします。 以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。

(1)	同上	人権擁護や人格尊重を踏まえた保育について十分に理解している
(2)	同上	保育施設における虐待等の防止のためのガイドラインやチェックリストについて十分に把握し、活用している
(3)	同上	一人の保育者が子どもや保育を抱え込むことなく、複数人で分担している
(4)	同上	適切でないかかわりを見つけた場合に、報告・相談・改善できる体制がある
(5)	同上	保護者から適切でない保育について指摘があった場合に、対応できる体制がある
Q30	Table4.29	『保育実践における安全管理や事故防止』についてお尋ねします。 以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。
(1)	同上	園の安全計画やマニュアルについて十分に把握している
(2)	同上	見守りの位置・役割分担についての話し合いや、家具・遊具の配置確認、死角や危険な場所・ものの確認を行っている
(3)	同上	保育者間でヒヤリ・ハットや事故防止について気軽に共有し話せる雰囲気がある
Q31	Table4.30	『貴園の園長のリーダーシップ』についてお尋ねします。 以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。 ※この項目への回答を含め、全ての回答は仮名加工され統計的に処理されますので、あなたがどのように回答したかが園長等含め第三者に知られることは一切ありません。
(1)	同上	園長は、現在在籍している子どもたちのことを十分に理解している
(2)	同上	園長は、職員が行っている幼児教育・保育について十分に理解している
(3)	同上	園長は、園の経営や運営だけでなく、幼児教育・保育の現場においてリーダーシップを発揮している
『あなたの労働環境』についてお尋ねします。		
Q32	Table4.32	規定の休暇（有給休暇を含む）はどれくらい取りやすいですか ※あなたが休暇をそれほど必要としない場合でも、希望を出せばすぐ取れる場合は「取りやすい」としてお答えください。希望を出しても取れない場合やそもそも希望を出しにくい場合は「取りにくい」としてお答えください。
Q33	Table4.33	あなたは、勤務日一日当たり平均して休憩時間をどのくらい取っていますか。
Q34	Table4.34	勤務時間のうち、子どもと直接かかわらない時間（ノンコンタクトタイム）はどれくらいありますか。 ※勤務日一日当たりの平均でお答えください。 ※休憩時間は除きます。
Q35	Table4.35	勤務日一日当たりの労働時間（残業、持ち帰りを含む）は、平均どれくらいですか。
Q36	Table4.36	現在の給与は、どの程度ご自身の職務内容に見合っていると思いますか。
Q37	Table4.31	あなたは、あなたの園の職場の雰囲気について、どのように感じていますか。次

		<p>の各項目について、当てはまるものをお選びください。</p> <p>※この項目への回答を含め、全ての回答は仮名加工され統計的に処理されますので、あなたがどのように回答したかが園長等を含め第三者に知られることは一切ありません。</p>
(1)	同上	子どもの保育や職務で困っている保育者がいれば多くの同僚が応援する雰囲気がある
(2)	同上	子どもの保育に関して、日常的に保育者同士がアドバイスし合ったり、助け合ったりする職場である
(3)	同上	子どもの保育や職務で困っている保育者が自分の悩みを率直に話せる雰囲気がある
(4)	同上	みんなが協力してよりよい保育を目指しているので、自分も高い職務意識を持つことができる
(5)	同上	保育者一人ひとりの意欲が大切にされており、各自の個性を尊重し発揮し合う形でよくまとまっている職場である
(6)	同上	園の保育目標の共通理解や具体化については、園内で意見の交換がよくなされている
(7)	同上	保育実践や園の仕事に関して、保育者間の多様な意見を受け入れて、みんなで腹を割って議論できる雰囲気がある
(8)	同上	趣味や遊びの面での仲間意識はあるが子どもの保育や仕事などについて真剣に議論をすることはあまりない
(9)	同上	保育者集団の和を大切にすあまり、自分の考えや主張が言いにくい職場である
Q38	Table4.37	以下の5つの各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものをお選びください。
(1)	同上	明るく、楽しい気分で過ごした
(2)	同上	落ち着いたリラックスした気分で過ごした
(3)	同上	意欲的で活動的に過ごした
(4)	同上	ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた
(5)	同上	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった

5. 園長等調査 集計結果

本章では、園長等（園長・施設長、または、園長に相当する運営業務を担当し園の幼児教育・保育の現状を把握している管理職）を対象とした調査について、各設問の集計結果を図表として示すとともに、セクションごとに主だった結果について説明する。園長等調査は、紙版質問紙も作成し、紙版とWEB版のどちらか一方を回答してもらった。紙版質問紙は必須回答項目への未記入や単一選択項目への複数選択あるいは選択肢の中間にチェックするといった集計困難な回答が生じた。その結果、各質問の総回答数は必ずしも一貫していない。なお、回答数のごくわずかな一部の設問については、回答者が特定される恐れがあることに鑑み、集計結果は非掲載とした。

5-1. 結果と考察

1) 園長等および園の基礎情報

回答者である園長等の基礎情報を Table5.1 から Table5.5 および Figure5.3 に示す。回答者の役職（Table5.1）、勤務形態（Table5.2）、現在の園での勤続年数と役職年数（Table5.3, Figure5.3）、性別（Table5.4）、年齢（Table5.5）を尋ねた。なお、回答者の役職の設問では、兼任の場合は当てはまるものを全て選択するよう求めた。現在の園での勤続年数の設問では、園長以外の経験年数を含み、休業期間（産休・育休など）を除外した累積年数での回答を求めた。役職年数については、他園での経験年数も含み、休業期間（産休・育休など）を除外した累積年数での回答を求めた。

回答者 888 名のうち、園長が 768 名（86.6%）であり、それ以外では副園長（6.3%）、主任・主幹（5.0%）、理事（4.1%）などから回答が得られた（無回答 1 名）。回答者の勤務形態については任期のない常勤職が 81.8%と多かったが、任期ありの常勤職（17.3%）や非常勤職（0.9%）からの回答もあった。回答者の現在の園における勤続年数は平均 16.0 年（標準偏差 13.7、範囲 1～65）で、現在の役職には平均 8.7 年（標準偏差 8.7、範囲 1～65）従事していた。勤続年数は 2 年、役職年数は 3 年が最頻値であり、比較的短い年数の回答が多かった。回答者の性別は男性が 20.0%であり、90.9%が女性であった担任保育者（Table4.1 参照）と比較して、男性の割合が多くなっていた。回答者の平均年齢は 56.0 歳（標準偏差 8.8、範囲 25～88）であった。

Table5.6 から Table5.9 は園の基礎情報に関する結果である。園の在籍児数（Table5.6）、種別・類型（Table5.7, Table5.8）、園の設置・運営主体（Table5.9）について尋ねた。園の在籍児（0 歳児～5 歳児）数の平均は 107.3 人であったが、標準偏差は 67.2、範囲 6～681 といずれも大きく、小規模園から大規模園まで幅広い施設規模の園が対象となっていることが分かる。園種や設置・運営形態に関する情報は Table5.7 から Table5.9 に示す通りであ

る。国内における各種園の設置比率を踏まえると、国内における実態をある程度代表するようなデータが得られたといえる。

Table5.1: あなたの役職をお選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
園長	768	86.6%
副園長	56	6.3%
教頭	7	0.8%
主任・主幹	44	5.0%
理事	36	4.1%
その他	16	1.8%
総回答数: 887名		

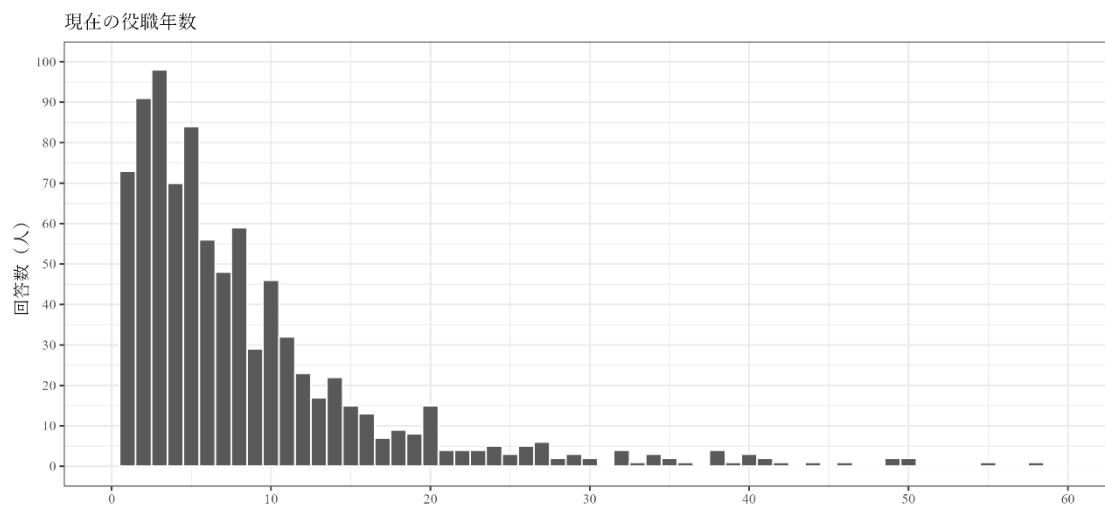
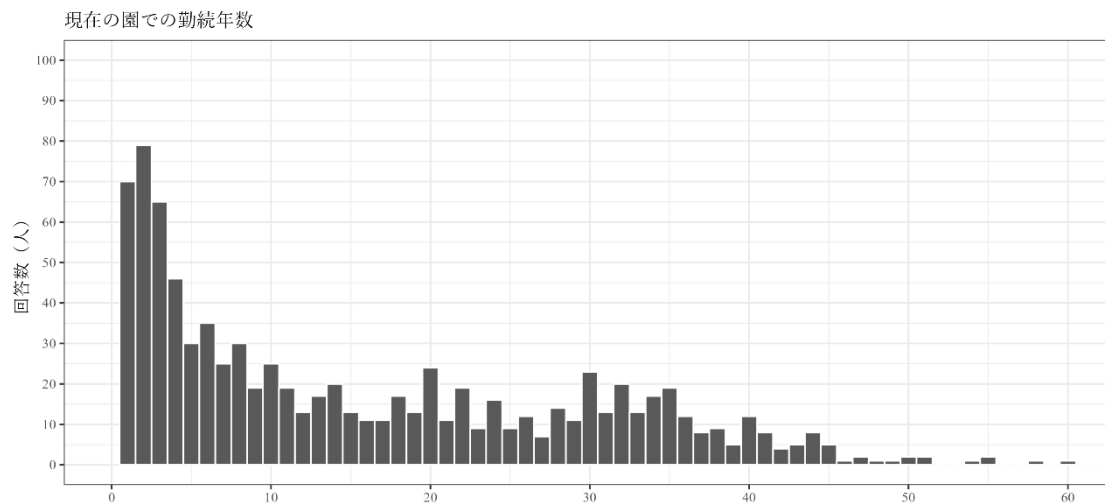
Table5.2: あなたの勤務形態をお選びください。

	回答数	割合
常勤(任期なし)	725	81.8%
常勤(任期あり)	153	17.3%
非常勤	8	0.9%
総回答数: 886名		

Table5.3: 現在の園での勤続年数と現在の役職年数

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
貴園での勤続年数を記入してください。/年目	16.0	11.5	13.7	1	65
現在の役職年数を記入してください。/年目	8.7	6.0	8.7	1	65
総回答数: 勤務年数・・・887名, 役職年数・・・885名					

Figure5.3: 貴園での勤続年数と現在の役職年数



総回答数：勤続年数・・・887名、役職年数・・・885名

Table5.4: あなたの性別をお知らせください。

	回答数	割合
男性	178	20.0%
女性	708	79.7%
上記以外	0	0.0%
回答しない	2	0.2%
総回答数：888名		

Table5.5: あなたの年齢をお知らせください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
回答者の年齢／歳	56.0	56.0	8.8	25	88
総回答数: 885名					

Table5.6: 2024年12月1日現在, 貴園の在籍児数(0歳児～5歳児)は何人ですか。数字を記入してください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
在籍児数(0歳児～5歳児)／人	107.3	94.0	67.2	6	681
総回答数: 887名					

Table5.7: 園の種別について, 当てはまるものをお選びください。

	回答数	割合
幼稚園	227	25.6%
認定こども園	248	27.9%
認可保育所	405	45.6%
自治体独自の認証制度による認証保育施設	3	0.3%
認可外保育施設	5	0.6%
総回答数: 888名		

Table5.8: 前問の項目で「認定こども園」を選択した方にお尋ねします。認定こども園の類型について, 当てはまるものをお選びください。

	回答数	割合
幼保連携型	152	60.3%
幼稚園型	59	23.4%
保育所型	40	15.9%
地方裁量型	1	0.4%
総回答数: 252名		

Table5.9: 園の設置・運営主体として、当てはまるものをお選びください。

	回答数	割合
公設公営(国立)	5	0.6%
公設公営(公立)	292	32.9%
公設民営	37	4.2%
民設民営(私立)	553	62.3%
分からない	0	0.0%
その他	1	0.1%

総回答数: 888名

2) 教育・保育の経験, リーダーシップ, 専門性およびその向上のための活動

Table5.10 から Table5.17 および Figure5.11 は、回答者である園長等が保有する免許・資格、教育経験、学歴やリーダーシップ、専門性およびその向上のための活動への参加など、幼児教育・保育および園運営の専門性に関わる設問の結果である。回答者が保有する免許・資格 (Table5.10)、保育教諭・保育士・幼稚園教諭としての経験年数 (Table5.11, Figure5.11)、経歴 (Table5.12)、最終学歴 (Table5.13)、リーダーシップ (Table5.14)、専門性向上のための活動への参加 (Table5.15)、およびその活動内容 (Table5.16) について尋ねた。なお、専門性向上のための活動内容の設問は、活動への参加回数の設問で「1」以上を回答した者のみに表示された。

回答者が保有する免許・資格としては幼稚園教諭免許や保育士資格といった幼児教育・保育に直接関わる免許・資格の保有率がいずれも 7 割以上に達しており、小学校教諭、その他教員免許の保有率は 1 割程度であった。保育士や幼稚園教諭としての経験年数は平均 24.8 年で、幼児教育や保育の現場に 20 年以上従事している経験豊富な回答者が多かった。一方で、保育士や幼稚園教諭としての経験がまったくない回答者も 100 名程度で全体の 1 割以上を占めた。現在の役職に就く前の経歴を問う項目でも、現在勤務する園や他の園で担任や主任、主幹等の保育者経験を有する回答者が多くいた一方で、幼児教育、保育、学校教育いずれの経験もないとした回答者が 11.3%であり、園長等としてのキャリアは、個人によって大きく異なることが示された。回答者の最終学歴は、短期大学が最も多く 49.3%を占め、四年制大学が 29.3%、専門学校が 13.4%と続いた。

回答者自身の、職員が行っている幼児教育や保育に対する理解、現場でのリーダーシップを問う項目については、十分に理解している、もしくはリーダーシップを発揮しているに「当てはまる」「当てはまる」「非常によく当てはまる」のいずれかと回答する割合がいずれも 9 割超を占めていた。担任保育者も園長の現場への理解やリーダーシップに関してはある程度ポジティブに評価しており (Table4.30 参照。担任保育者調査では園長について回答

しているが、園長等調査の一部の回答者は園長以外の役職であることに留意されたい)、園長等の自己評価はこれと一致する結果となった。ただ、園長の現場への理解やリーダーシップを十分でないと評価する担任保育者が一定程度みられた一方で、自身をネガティブに評価する園長等は少なく、担任保育者が求める園長のリーダーシップと、園長等が思い描くリーダーシップのあり方に相違があることもうかがえる。

研修等の、専門性向上のための活動については、過去12ヶ月で回答者は平均7.9回(標準偏差6.2, 範囲0~50)の活動に参加していた。活動内容としては「園の運営, リーダーシップ(例:施設長研修)」(81.7%), 「健康衛生, 安全管理(例:防災, アレルギー対応, 救命救急, ヒヤリハット)」(60.0%), 「幼保小連携, 接続」(55.9%)など、幼児教育・保育の実践よりも管理運営に関わる内容の方が相対的に参加する割合が大きく、園の運営者としての専門性向上に積極的に取り組んでいる回答者が多くいることが示唆された。

Table5.10: ご自身が保有されている免許や資格を【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
幼稚園教諭	685	77.2%
保育士	708	79.8%
小学校教諭	123	13.9%
その他の教員免許(例:中高教員免許・特別支援教育教諭免許等)	93	10.5%
その他の社会福祉系の免許(例:社会福祉士等)※社会福祉主事等の任用資格は除く	29	3.3%
上記のいずれの資格も有していない	66	7.4%

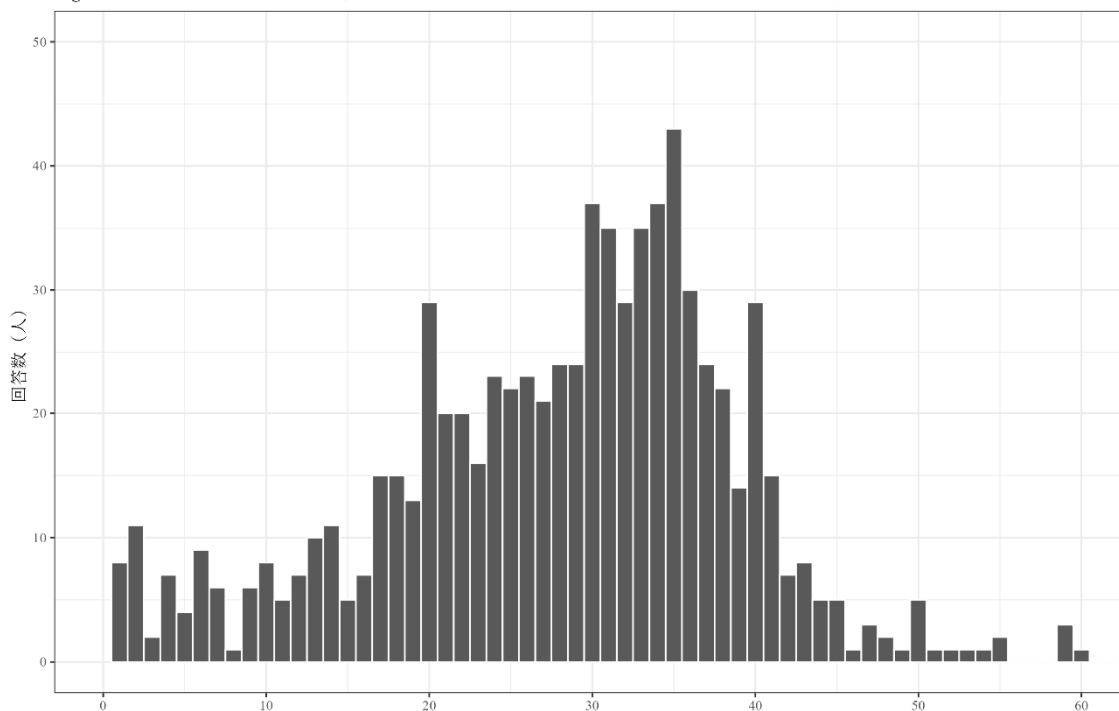
総回答数: 887名

Table5.11: 他園での勤務年数も含めて、保育教諭、保育士または幼稚園教諭としての経験年数を記入してください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
保育教諭、保育士または幼稚園教諭としての経験年数/年目	28.1	30.0	10.9	1	65

総回答数: 770名

Figure5.11: 保育教諭および保育士、幼稚園教諭としての経験年数（他園での勤務年数も含む）



総回答数：872名

Table5.12: あなたは現在の役職に就かれる以前に、幼児教育や保育の経験あるいは学校教育の経験をお持ちですか。現在の役職に就任する以前の主たる経歴について当てはまるものを【全て】お選びください。（複数選択可）

	回答数	割合
幼児教育・保育・学校教育のいずれの経験もない(事務職・経営のみを経験, 企業からの派遣等)	100	11.3%
貴園での担任や主任・主幹の経験がある	409	46.1%
他園での担任や主任・主幹の経験がある	505	56.9%
小学校・中学校・高等学校等での教員経験がある	66	7.4%
児童相談所・児童養護施設等での児童福祉職経験がある	23	2.6%
その他	78	8.8%

総回答数：887名

Table5.13: あなたの最終学歴をお知らせください。

	回答数	割合
中学校	0	0.0%
高等学校・高等専修学校	15	1.7%
専門学校	119	13.4%
高等専門学校	13	1.5%
短期大学	438	49.3%
四年制大学	260	29.3%
大学院(六年制大学を含む)	43	4.8%
総回答数: 888名		

Table5.14: 園長等のリーダーシップについて

	全く当てはまらない	当てはまらない	あまり当てはまらない	すこし当てはまる	当てはまる	非常に当てはまる
あなたは園の経営や運営だけでなく、保育や幼児教育の現場においてリーダーシップを発揮されていますか。	1 (0.1%)	7 (0.8%)	38 (4.3%)	199 (22.5%)	491 (55.4%)	148 (16.7%)
あなたは現在在籍している子どもたちのことや、職員が行っている保育や幼児教育について十分に理解されていますか。	0 (0.0%)	1 (0.1%)	4 (0.5%)	40 (4.5%)	508 (57.3%)	333 (37.6%)
総回答数: 886名						

Table5.15: あなたは、過去 12 か月(2023(令和5)年12月1日～2024(令和6)年11月30日)の間に、何回くらい、専門性の向上のための活動(研修等)に参加しましたか。おおよその回数をお答えください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
過去 12 か月の間に専門性の向上のための活動(研修等)に参加した回数	7.9	6.0	6.2	0	50
総回答数: 885名					

Table5.16: あなたが過去 12 か月(2023年12月1日～2024年11月30日)の間に参加した専門性向上のための活動(研修等)に含まれていた内容として、当てはまるものを【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
園の運営, リーダーシップ(例:施設長研修)	711	81.7%
健康衛生, 安全管理(例:防災, アレルギー対応, 救命救急, ヒヤリハット)	522	60.0%
言葉や絵本	120	13.8%
数量図形や自然科学	30	3.4%
表現やリズム(音楽, 美術, ダンス)	136	15.6%
主体的な遊びへの援助・環境構成	455	52.3%
遊びや学びの観察・記録	213	24.5%
幼保小連携, 接続	486	55.9%
保護者や家庭との連携	358	41.1%
特別な支援を要する子どもの保育(例:障がい, 外国にルーツのある子ども, 気になる子どもの保育)	451	51.8%
保育における人権擁護・人権尊重	419	48.2%
ICT活用(業務での活用あるいは子どもがICTを使う活動)	226	26.0%
その他	103	11.8%
総回答数: 870名		

3) 保育者の配置

Table5.17 から Table5.23 は、保育者の配置と関連する結果である。保育者の配置 (Table5.17)、職員数の余裕 (Table5.18)、保育者の定着 (Table5.19)、体調不良やメンタルヘルスの問題による休職・退職者数 (Table5.20)、代替職員の配置 (Table5.21)、経験年数ごとの保育者人数 (Table5.22)、保有免許・資格ごとの保育者人数 (Table5.23) について尋ねた。

各園における保育者の配置については、園の規模等によって大きなばらつきがあるものの、「余裕をもって保育にのぞむのに十分な職員数が確保されていますか」という設問に対しては、「まったく余裕がない」「余裕がない」「あまり余裕がない」のいずれかの回答が計 54.9%と過半数を占め、「少し余裕がある」「余裕がある」「非常に余裕がある」の回答を上回った。保育者の定着率について尋ねる項目では、新たに着任した保育者の数や退職した保育者の数、体調不良やメンタルヘルスの問題で休職・退職した保育者の数には大きなばらつきがあった。これらの値は園の規模に拠るところが大きいと考えられるものの、一部の園において、保育者が定着しないことが課題になっていることが推察される。また、保育者が一時的な休暇(産前産後休業, 育児休業, 介護休業等)を取得する場合、休暇取得者に対して

同じ数の代替職員を配置できる「おおよそ 100%」との回答は 42.3%に留まっている。これらの結果を総合すると、人手の確保に慢性的な課題を抱える園も少なくないものと考えられる。経験年数ごとの保育者の数は、回答全体をみると、経験年数が 3 年未満の新人や若手に比して、中堅やベテランの数が多く、バランスが取れているように思われるが、園ごとにその構成比は異なると考えられ、ベテランが豊富に在籍する園、若手主体の園など保育者の構成の違いによって、幼児教育・保育の質などにどのような影響があるかを検討する必要があるだろう。幼稚園教諭免許や保育士資格の保有者の数についてはばらつきが大きく、これも園の規模に拠るところが大きいと考えられる。

Table5.17: 現在、貴園で勤務している保育者数を記入してください。／人

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
担任を持つ保育者の人数(主任・主幹・副園長を含む)※副担任は含めない／人	11.1	10.0	6.6	1	61
担任を持つ保育者のうち、常勤の人数(主任・主幹・副園長を含む／有期・無期間わない)※副担任は含めない／人	10.1	9.0	5.6	0	35
担任を持たない保育者の人数(主任・主幹・副園長を含む)※副担任を含む／人	9.6	7.0	7.9	0	54
担任を持たない保育者のうち、常勤の人数(主任・主幹・副園長を含む／有期・無期間わない)※副担任を含む／人	4.5	3.0	4.9	0	54
総回答数: 882名					

Table5.18: 貴園では、保育者が無理なく余裕をもって保育にのぞむのに十分な職員数が確保されていますか。

	回答数	割合
まったく余裕がない	48	5.4%
余裕がない	142	16.0%
あまり余裕がない	297	33.5%
少し余裕がある	236	26.6%
余裕がある	131	14.8%
非常に余裕がある	32	3.6%
総回答数: 886名		

Table5.19: 過去12か月の間(2023(令和5)年12月1日～2024(令和6)年11月30日)に、貴園で働き始めたり園を離れたりした保育者数についてそれぞれ記入してください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
あなたの園で勤務を始めた保育者の人数/人	3.3	2.0	4.8	0	55
一時的にあなたの園で勤務しなかった保育者の人数(例:長期休暇・休業,長期研究休暇,産前産後休業,育児休業,介護休業)/人	1.4	1.0	1.6	0	22
あなたの園を退職した保育者の人数/人	1.7	1.0	2.0	0	22
総回答数: 880名					

Table5.20: 過去3年間(2021(令和3)年12月1日～2024(令和6)年11月30日)に、以下の理由で休職・退職された保育者数について記入してください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
身体疾患や体調不良で休職・退職した保育者の人数(妊娠・出産に伴う疾患や体調不良は除く)/人	0.7	0.0	1.3	0	12
メンタルヘルスの問題で休職・退職した保育者の人数/人	0.6	0.0	0.9	0	10
総回答数: 875名					

Table5.21: 貴園では、保育者が産前産後休業,育児休業,介護休業等の一時的な休暇を取得する場合、どの程度、代替職員を配置していますか。最も当てはまるもの一つお選びください。

	回答数	割合
おおよそ100% (例. 休暇取得者4名の場合,代替職員4名)	373	42.3%
おおよそ75% (例. 休暇取得者4名の場合,代替職員3名)	170	19.3%
おおよそ50% (例. 休暇取得者4名の場合,代替職員2名)	109	12.4%
おおよそ25% (例. 休暇取得者4名の場合,代替職員1名)	73	8.3%
おおよそ0% (例. 休暇取得者4名の場合,代替職員0名)	156	17.7%
総回答数: 881名		

Table5.22: 乳幼児期の教育・保育の経験年数ごとに、保育者数(人数)を記入してください。いない場合は「0」人と記入してください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
経験年数 1年未満の保育者数/人	1.0	1.0	1.3	0	13
経験年数 1年以上3年未満の保育者数/人	2.0	1.0	2.1	0	23
経験年数 3年以上10年未満の保育者数/人	6.2	5.0	5.1	0	36
経験年数 10年以上20年未満の保育者数/人	5.8	5.0	4.6	0	34
経験年数 20年以上の保育者数/人	4.6	3.0	4.6	0	48
総回答数: 845名					

Table5.23: 以下の項目の資格や免許を有している保育者数(人数)を記入してください。いない場合は 0(ゼロ)と記入してください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
幼稚園教諭免許を有している保育者数/人	17.2	16.0	10.1	0	67
保育士資格を有している保育者数/人	19.2	18.0	11.1	0	90
小学校教諭免許を有している保育者数/人	1.2	1.0	2.1	0	26

総回答数: 849名

4) クラス編制・クラスサイズ

Table5.24 から Table5.42 はクラス編制とクラスサイズに関する結果である。クラスサイズに関する設問は、クラス編制の設問への回答に基づいて、対応する設問のみが回答者に対して自動的に表示された。

3・4・5歳児クラスの編制 (Table5.24～Table5.26) では、「学年別クラス編制のみ」との回答が 79.4%を占めており、3歳、4歳、5歳児のいずれにおいても、学年別クラスの編制率は 90%を超えていた。一方で、学年別クラス編制との二重編制を含めると、異年齢混合クラス編制を取り入れている園が 20%程度あった。また、異年齢混合クラス編制を取り入れている園の 56.5%が、「3・4・5歳児」の組み合わせでクラスを編制していると回答した。

3・4・5歳児の各クラス（もしくは3歳未満児との縦割り／異年齢混合クラス）のサイズに関する項目 (Table5.27～Table5.33) をみると、5歳児クラス、4歳児クラスでは1クラス当たりの園児数は 20 人、担当保育者数では 1 人という回答が中央値となっており、3歳児クラスでは園児数は 18 人、担当保育者数は 2 人という回答が中央値であった。また、加配保育者については、同じ年齢別クラスが複数ある場合は全クラス合わせての人数を尋ねたこともあり、比較的ばらつきが大きかった。3・5歳児の組み合わせで編制されたクラスの集計結果である Table5.33 については、回答数が 3 名のため個人や園の特定を避ける意図から結果および表は非掲載とした。

0・1・2歳児のクラス編制 (Table5.34～Table5.36) については、「(0・1・2歳児を対象とした) 乳児保育は行っていない」と回答した 18.5%を除くと、0・1・2歳児を保育している園の 20%程度が異年齢混合クラス編制を取り入れていた。Table5.35 以降は「乳児保育は行っていない」と回答した者を除いた結果である。年齢ごとにみると、2歳児 (98.1%) と比べ、0歳児 (69.6%)、1歳児 (77.1%) では学年別クラスが編制されている割合が低かった。縦割り／異年齢混合クラス編制の組み合わせについては、「0・1歳児」(44.1%)、「1・2歳児」(39.3%) との回答が多く、「3・4・5歳児」と幅広い年齢の組み合わせが多かった。3歳以上児のクラス編制とは異なる傾向がみられた。また、3歳未満児と3歳以上児を混合したクラス編制については「2・3歳」(20.7%) という回答がみられたものの、他の組み合わせで編制されたクラスは極めて少数であった。

0・1・2歳児の各クラス（もしくは3歳以上児との縦割り／異年齢混合クラス）のクラスサイズに関する項目（Table5.37～Table5.42）をみると、2歳児クラスの1クラス当たりの園児数は15人、1歳児クラスでは14人、0歳児クラスでは7人という回答が最も多く、担当保育者数はいずれも3人という回答が最も多かった。

Table5.24: 3・4・5歳児のクラス編制は学年別ですか、縦割り／異年齢混合クラスですか。

	回答数	割合
学年別クラス編制のみ	696	79.4%
縦割り／異年齢混合クラス編制のみ	69	7.9%
学年別クラスと縦割り／異年齢混合クラスを二重編制	112	12.8%
総回答数： 877名		

Table5.25: 学年別クラスを編制している年齢を【全て】お選びください。（複数選択可）

	回答数	割合
3歳児クラス	757	93.5%
4歳児クラス	761	94.0%
5歳児クラス	781	96.4%
総回答数： 810名		

Table5.26: 縦割り／異年齢混合クラスはどの年齢で編制されていますか。当てはまるものを【全て】お選びください。（複数選択可）

	回答数	割合
3・4・5歳児	105	56.5%
3・4歳児	26	14.0%
4・5歳児	42	22.6%
3・5歳児	3	1.6%
3歳未満児・3・4・5歳児	23	12.4%
3歳未満児・3・4歳児	5	2.7%
3歳未満児・3・5歳児	2	1.1%
3歳未満児・4・5歳児	3	1.6%
3歳未満児・3歳児	16	8.6%
3歳未満児・4歳児	2	1.1%
3歳未満児・5歳児	2	1.1%
総回答数： 186名		

Table5.27: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(5歳児学年別クラスまたは3歳未満児・5歳児の縦割り/異年齢混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値	総回答数
5歳児が含まれる1クラスあたりの実員数(1号認定・2号認定の別を問わない)/人	20.7	20.0	7.2	1	48	746名
5歳児が含まれるクラス数/クラス	1.5	1.0	0.8	1	6	749名
5歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	1.5	1.0	0.7	1	5	753名
5歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	1.1	1.0	1.2	0	9	748名

Table5.28: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(4歳児学年別クラスまたは3歳未満児・4歳児の縦割り/異年齢混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
4歳児が含まれる1クラスあたりの実員数(1号認定・2号認定の別を問わない)/人	20.2	20.0	6.9	1	49
4歳児が含まれるクラス数/クラス	1.4	1.0	0.8	1	6
4歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	1.6	1.0	0.8	1	6
4歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	1.2	1.0	1.2	0	8
総回答数: 731名					

Table5.29: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(3歳児学年別クラスまたは3歳未満児と3歳児の縦割り/異年齢混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
3歳児が含まれる1クラスあたりの実員数(1号認定・2号認定の別を問わない)/人	18.6	18.0	6.7	1	47
3歳児が含まれるクラス数/クラス	1.5	1.0	0.8	1	5
3歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	1.9	2.0	0.9	1	6
3歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	1.1	1.0	1.2	0	8
総回答数: 729名					

Table5.30: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(3・4・5歳児縦割り/混合または3歳未満児・3・4・5歳児縦割り/混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
3・4・5歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数(1号認定・2号認定の別を問わない)/人	23.5	23.0	8.1	1	47
3・4・5歳児が含まれるクラス数/クラス	2.5	2.0	1.3	1	6
3・4・5歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	2.4	2.0	1.2	1	7
3・4・5歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	1.6	1.0	1.7	0	8

総回答数: 103名

Table5.31: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(3・4歳児縦割り/混合または3歳未満児・3・4歳児縦割り/混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
3・4歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数(1号認定・2号認定の別を問わない)/人	18.4	17.5	6.5	8	37
3・4歳児が含まれるクラス数/クラス	1.1	1.0	0.3	1	2
3・4歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	1.8	2.0	1.0	1	4
3・4歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	0.9	1.0	0.8	0	2

総回答数: 26名

Table5.32: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(4・5歳児縦割り/混合または3歳未満児・4・5歳児縦割り/混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
4・5歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数(1号認定・2号認定の別を問わない)/人	20.1	21.0	8.2	1	40
4・5歳児が含まれるクラス数/クラス	1.2	1.0	0.6	1	4
4・5歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	1.9	2.0	0.9	1	4
4・5歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	0.9	1.0	0.7	0	3

総回答数: 40名

Table5.34: 乳児保育(3歳未満児保育)のクラス編制は学年別ですか, 縦割り/異年齢混合クラスですか。

	回答数	割合
乳児保育は行っていない	154	18.5%
学年別クラス編制のみ	536	64.3%
縦割り/異年齢混合クラス編制のみ	66	7.9%
学年別クラスと縦割り/異年齢混合クラスを二重編制	77	9.2%
総回答数: 833名		

Table5.35: 乳児保育で学年別クラスを編制している年齢を【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
0歳児クラス	429	69.6%
1歳児クラス	475	77.1%
2歳児クラス	604	98.1%
総回答数: 616名		

Table5.36: 乳児保育で縦割り/異年齢混合クラスはどの年齢で編制されていますか。当てはまるものを【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
0・1・2歳児	16	11.0%
0・1歳児	64	44.1%
0・2歳児	0	0.0%
1・2歳児	57	39.3%
0・1・2歳児・3歳以上児	5	3.4%
0・1歳児・3歳以上児	0	0.0%
0・2歳児・3歳以上児	0	0.0%
1・2歳児・3歳以上児	0	0.0%
0歳児・3歳以上児	0	0.0%
1歳児・3歳以上児	4	2.8%
2歳児・3歳以上児	30	20.7%
総回答数: 145名		

Table5.37: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(2歳児学年別クラスまたは2歳児・3歳以上児の縦割り/異年齢混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
2歳児が含まれる1クラスあたりの実員数/人	15.8	15.0	6.1	1	47
2歳児が含まれるクラス数/クラス	1.2	1.0	0.5	1	4
2歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	2.9	3.0	1.1	1	7
2歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	0.7	0.0	1.1	0	10
総回答数: 612名					

Table5.38: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(1歳児学年別クラスまたは1歳児・3歳以上児の縦割り/異年齢混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
1歳児が含まれる1クラスあたりの実員数/人	13.8	14.0	5.1	1.0	40
1歳児が含まれるクラス数/クラス	1.1	1.0	0.4	0.5	4
1歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	3.0	3.0	1.2	1.0	8
1歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	0.5	0.0	0.9	0.0	10
総回答数: 471名					

Table5.39: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(0歳児学年別クラスまたは0歳児・3歳以上児の縦割り/異年齢混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
0歳児が含まれる1クラスあたりの実員数/人	7.8	7.5	3.8	1	24
0歳児が含まれるクラス数/クラス	1.1	1.0	0.6	1	9
0歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	2.9	3.0	1.3	1	9
0歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	0.4	0.0	0.8	0	5
総回答数: 422名					

Table5.40: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(0・1・2歳児縦割り/混合または0・1・2歳児と3歳以上児の縦割り/混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
0・1・2歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数/人	13.3	13.0	9.5	1	39
0・1・2歳児が含まれるクラス数/クラス	1.6	1.5	0.7	1	3
0・1・2歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	3.7	3.0	2.0	1	8
0・1・2歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	0.8	0.0	1.2	0	4
総回答数: 17名					

Table5.41: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(0・1歳児縦割り/混合または0・1歳児と3歳以上児の縦割り/混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
0・1歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数/人	12.9	12.0	5.4	2	29
0・1歳児が含まれるクラス数/クラス	1.3	1.0	1.1	1	9
0・1歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	3.9	3.0	1.9	1	9
0・1歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	0.5	0.0	1.0	0	5
総回答数: 66名					

Table5.42: 1クラスあたりの園児の実員数, クラス数, 保育者数等(1・2歳児縦割り/混合または1・2歳児と3歳以上児の縦割り/混合クラス)

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
1・2歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数/人	14.8	14.0	5.5	5	26
1・2歳児が含まれるクラス数/クラス	1.2	1.0	0.6	1	3
1・2歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人	2.8	3.0	1.1	1	6
1・2歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人	0.8	1.0	1.0	0	5
総回答数: 57名					

5) インクルージョンや多様性の尊重に関する取り組み

Table5.43 から Table5.45 は, インクルージョンや多様性の尊重に関する取り組みについての結果である。特別な配慮が必要な子どもの人数 (Table5.43), 医療的ケア児の受け入れ体制 (Table5.44), インクルージョンや多様性の尊重に関する取り組みの内容 (Table5.45) について尋ねた。なお, 「特別な配慮が必要な子ども」とは, 障がい, 疾病, 発達と行動面の問題, 社会経済的困難, 母語が園で用いる言語と異なる子ども, 性の自認などで, 個別的

な配慮を要する子どもを指し、子どもが複数の特性を持つ場合は重複して人数をカウントするものとした。また、子どもたちの背景に関する回答者の個人的な見解について尋ねるもので、おおまかな推定に基づく回答で良いことについて明記し、該当する子どもがいない場合は「0」人と記入し、回答が難しい場合は空欄のままとするよう求めた。

「特別な配慮が必要な子ども」全体の人数の平均は 10.5 人であり、園ごとにばらつきはあるものの、該当する子どもが一定数在籍していることが分かる。医療的ケアを要する子どもや精神／身体／発達障がいの診断がある子どもだけでなく、多くの「診断はないが、発達と行動面で気になる子ども」（平均 5.7 人）が「特別な配慮が必要な子ども」と捉えられていることがうかがえる。医療的ケアを要する子どもの受け入れ体制や受け入れ枠について、「ある」とした園は 15.7%に留まったが、「現在はないが、準備している／受け入れの相談があれば検討したい」と回答した園も合わせて 30%程度あった。インクルージョンや多様性の尊重に関する取り組みについては、各取り組みとも、「全く当てはまらない」から「非常によく当てはまる」の 6 つの選択肢のうち「当てはまる」（取り組みを実施している）とする回答が最も多く、多様な子どもたちを受け入れる体制が広まりつつあることが示唆される。

Table5.43: 貴園における、以下の「特別な配慮が必要な子ども」に該当する子どもの推定人数を記入してください。「特別な配慮が必要な子ども」とは、障がい、疾病、発達と行動面の問題、社会経済的困難、母語が園で用いる言語と異なる子ども、性の自認などで、個別的な配慮を要する子どものことをいいます。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別な配慮が必要な子ども全体の人数／人	10.5	8.0	8.7	0	69
そのうち、医療的ケアを要する子どもの人数／人	0.2	0.0	0.8	0	9
そのうち、精神／身体／発達障がいの診断がある子どもの人数／人	4.1	3.0	5.0	0	57
そのうち、診断はないが、発達と行動面で気になる子どもの人数（診断待ちを含む）／人	5.7	4.0	5.6	0	40
そのうち、母語が園で用いる言語と異なる子どもの人数／人	0.8	0.0	1.8	0	23
そのうち、社会経済的に困難な家庭環境にある子どもの人数／人	0.4	0.0	1.2	0	17
総回答数： 872名					

Table5.44: 貴園には、医療的ケアを行う看護師・保健師・助産師・准看護師、または喀痰吸引等を行うことができる保育士もしくは保育教諭の配置等、医療的ケア児を受け入れる体制および、医療的ケア児の受入枠がありますか。もっとも当てはまるものを一つお選びください。

	回答数	割合
ある	139	15.7%
現在はないが、準備している	34	3.9%
現在はないが、受け入れの相談があれば検討したい	231	26.2%
ない(予定もない)	479	54.2%
総回答数： 883名		

Table5.45: インクルージョンや多様性の尊重に関する貴園での取り組みについてお尋ねします。以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。

	全く当てはまらない	当てはまらない	あまり当てはまらない	すこし当てはまる	当てはまる	非常によく当てはまる
障がい、疾病、発達と行動面の問題、社会経済的困難、言語、性別などに関わらず、それぞれの子ども個々のニーズを把握し、それに基づきケアと教育を提供できるような取り組みをしている。	11 (1.2%)	13 (1.5%)	32 (3.6%)	188 (21.3%)	438 (49.7%)	199 (22.6%)
障がい、疾病、発達と行動面の問題、社会経済的困難、言語、性別などに関わらず、子どもたちが遊びや生活を共有できるような取り組みをしている。	8 (0.9%)	11 (1.2%)	17 (1.9%)	152 (17.3%)	473 (53.7%)	220 (25.0%)
文化的多様性、宗教、家庭の多様性、性の多様性、病気や障がいの有無など様々な背景や特性の多様性の理解を育む教育や活動を行っている。(例:異文化体験、交流会、関連する絵本の読み聞かせ、日々のかかわりの中で意識している)	9 (1.0%)	36 (4.1%)	116 (13.2%)	276 (31.3%)	301 (34.2%)	143 (16.2%)
総回答数： 881名						

6) 3・4・5歳児の教育・保育で重視していること

Table5.46 から Table5.51 は、3・4・5歳児の教育・保育で重視していることに関する結果である。特に時間を設けて行っている活動 (Table5.46～Table5.48)、教育・保育方針において、育みたい資質・能力として重視していること (Table5.49, Table5.50, Table5.51) について尋ねた。なお、これらの設問は、学年別クラスを編制している年齢の設問で「3歳児」「4歳児」「5歳児」を選択している、もしくは縦割り／異年齢混合クラスの年齢の設問で、3歳児、4歳児、5歳児を含む縦割り／異年齢混合クラスを選択した場合に表示された。

通常の保育時間において特に時間を設けて行っている活動を尋ねた項目では、3・4・5歳児のいずれにおいても「体操・運動」「歌・リズム・楽器」「食にかかわる体験 (食育、食物の栽培・収穫、調理体験など)」が上位を占めたが、その他にも過半数の園で特に時間を設けて行っている活動が多くあり、各園において多様な活動が行われていることが示唆さ

れた。また、「学習絵本・ドリル・ワークブックを使った学習」といった直接的な学習よりも、「文字や言葉に関する遊び（かるた、しりとりなど）」や「数量・図形に関する遊び（長さ・重さ比べ、パズルなど）」といった形で、遊びを通して学びにつなげる活動に時間が割かれていることも読み取れる。

教育・保育方針において重視していることとして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を選択肢とし、年齢ごとに上位3つまで回答を求めた項目では、「健康な心と体」「豊かな感性と表現」がどの年齢でも多く選ばれていた一方で、「自立心」は3歳児が最も高く、4歳児、5歳児と低下するのに対して、「協同性」は年齢とともに高くなるなど、年齢ごとの課題に応じた方針がとられていることが分かる。

Table5.46: 通常の保育時間(教育/保育標準時間)で特に時間を設けて行っている活動【3歳児】(複数選択可)

	回答数	割合
体操・運動	657	77.4%
歌・リズム・楽器	639	75.3%
お絵かき・工作	581	68.4%
積み木・ブロック	439	51.7%
ごっこ遊び・劇遊び	526	62.0%
泥遊び・自然とかかわる体験(生物の飼育や植物の栽培, 野外活動など)	595	70.1%
食にかかわる体験(食育, 食物の栽培・収穫, 調理体験など)	635	74.8%
社会とかかわる体験(施設訪問・見学, 地域行事への参加など)	253	29.8%
伝統とかかわる体験(民俗舞踊, 伝統工芸, 茶道など)	118	13.9%
文字や言葉に関する遊び(かるた, しりとりなど)	376	44.3%
数量・図形に関する遊び(長さ・重さ比べ, パズルなど)	358	42.2%
学習絵本・ドリル・ワークブックを使った学習	135	15.9%
英語	228	26.9%
ICT(デジタルカメラ, タブレット機器など)を用いた活動	36	4.2%
その他	60	7.1%
特に時間を設けて行っている活動はない	66	7.8%
総回答数: 849名		

Table5.47: 通常の保育時間(教育/保育標準時間)で特に時間を設けて行っている活動【4歳児】(複数選択可)

	回答数	割合
体操・運動	701	80.3%
歌・リズム・楽器	677	77.5%
お絵かき・工作	608	69.6%
積み木・ブロック	453	51.9%
ごっこ遊び・劇遊び	574	65.8%
泥遊び・自然とかかわる体験(生物の飼育や植物の栽培, 野外活動など)	633	72.5%
食にかかわる体験(食育, 食物の栽培・収穫, 調理体験など)	687	78.7%
社会とかかわる体験(施設訪問・見学, 地域行事への参加など)	369	42.3%
伝統とかかわる体験(民俗舞踊, 伝統工芸, 茶道など)	147	16.8%
文字や言葉に関する遊び(かるた, しりとりなど)	516	59.1%
数量・図形に関する遊び(長さ・重さ比べ, パズルなど)	434	49.7%
学習絵本・ドリル・ワークブックを使った学習	201	23.0%
英語	288	33.0%
ICT(デジタルカメラ, タブレット機器など)を用いた活動	47	5.4%
その他	66	7.6%
特に時間を設けて行っている活動はない	68	7.8%
総回答数: 873名		

Table5.48: 通常の保育時間(教育／保育標準時間)で特に時間を設けて行っている活動【5歳児】(複数選択可)

	回答数	割合
体操・運動	723	81.9%
歌・リズム・楽器	690	78.1%
お絵かき・工作	622	70.4%
積み木・ブロック	462	52.3%
ごっこ遊び・劇遊び	586	66.4%
泥遊び・自然とかかわる体験(生物の飼育や植物の栽培, 野外活動など)	659	74.6%
食にかかわる体験(食育, 食物の栽培・収穫, 調理体験など)	729	82.6%
社会とかかわる体験(施設訪問・見学, 地域行事への参加など)	601	68.1%
伝統とかかわる体験(民俗舞踊, 伝統工芸, 茶道など)	253	28.7%
文字や言葉に関する遊び(かるた, しりとりなど)	582	65.9%
数量・図形に関する遊び(長さ・重さ比べ, パズルなど)	498	56.4%
学習絵本・ドリル・ワークブックを使った学習	313	35.4%
英語	348	39.4%
ICT(デジタルカメラ, タブレット機器など)を用いた活動	79	8.9%
その他	74	8.4%
特に時間を設けて行っている活動はない	73	8.3%
総回答数: 883名		

Table5.49: 次の10のうち、貴園の教育・保育方針および実践において、特に重視していることはなんですか。【3歳児】(上位3つまで選択)

	回答数	割合
健康な心と体	735	86.5%
自立心	293	34.5%
協同性	174	20.5%
道徳性・規範意識の芽生え	137	16.1%
社会生活と関わり	99	11.6%
思考力の芽生え	132	15.5%
自然との関わり・生命尊重	249	29.3%
量・図形、文字等への関心・感覚	12	1.4%
言葉による伝え合い	253	29.8%
豊かな感性と表現	441	51.9%
総回答数： 850名		

Table5.50: 次の10のうち、貴園の教育・保育方針および実践において、特に重視していることはなんですか。【4歳児】(上位3つまで選択)

	回答数	割合
健康な心と体	623	71.5%
自立心	279	32.0%
協同性	285	32.7%
道徳性・規範意識の芽生え	180	20.7%
社会生活と関わり	103	11.8%
思考力の芽生え	227	26.1%
自然との関わり・生命尊重	194	22.3%
量・図形、文字等への関心・感覚	27	3.1%
言葉による伝え合い	296	34.0%
豊かな感性と表現	396	45.5%
総回答数： 871名		

Table5.51: 次の10のうち、貴園の教育・保育方針および実践において、特に重視していることはなんですか。【5歳児】(上位3つまで選択)

	回答数	割合
健康な心と体	539	61.2%
自立心	262	29.7%
協同性	435	49.4%
道徳性・規範意識の芽生え	176	20.0%
社会生活と関わり	138	15.7%
思考力の芽生え	228	25.9%
自然との関わり・生命尊重	151	17.2%
量・図形, 文字等への関心・感覚	85	9.7%
言葉による伝え合い	280	31.8%
豊かな感性と表現	348	39.5%
総回答数: 881名		

7) 幼保小接続の意識・取り組み

Table5.52 から Table5.80 は、幼保小接続の意識・取り組みに関する結果である。

幼保小接続の意識と取り組みの主体

Table5.52 は、連携ややりとりのある機関について尋ねた項目で、多くの園が様々な機関や関係先と連携ややりとりをしていることがうかがえる。以降ではまず、その中でも幼保小接続に関する園での取り組みや、幼保小接続の意識に関する設問の結果を紹介する。

Table5.53 は幼保小接続における各観点を意識した実践の頻度 (Table5.53), Table5.54 は幼保小接続に関連する取り組みで中心的に関わっている主体 (Table5.54) について、それぞれ尋ねた。幼保小接続を意識した実践については、学校生活につながる生活習慣や自立性の育成、小学校就学に対する安心感の醸成といった項目に対して、「かなりしている」「している」「少ししている」とした回答が90%超を占めており、各園が幼保小接続を意識した取り組みを行っていることが示された。「小学校就学前に、学校の教科学習を予行練習的に体験・経験させること」のみは、「まったくしていない」「していない」「あまりしていない」の合計が6割を超えていたが、重視している教育・保育活動について尋ねた項目と同様、遊びを通じた学びを重視し、直接的な学習活動を避ける傾向が、幼保小接続の取り組みにおいても反映されているものと考えられる。幼保小接続のための取り組みにおいて中心的に関わっている主体としては、公立小学校 (89.6%) が最も多く、以下、貴園 (回答者自身の園) (64.3%), 市区町村の教育委員会 (43.1%), 他園 (32.7%) と続いた。

Table5.52: 連携ややりとりがある機関を【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
他園の園長・所長, 保育者	848	95.5%
小学校の校長・教員	751	84.6%
都道府県・市区町村の学校主管課(教育委員会・私立学校・幼稚園主管課)	367	41.3%
都道府県・市区町村の保育主管課	476	53.6%
都道府県・市区町村の認定こども園主管課	163	18.4%
児童家庭福祉機関(児童相談所・児童家庭相談主管課・子育て支援サービス)	684	77.0%
障がい児福祉機関(障がい福祉主管課・障がい児・発達障がい児支援室・児童発達支援サービス)	654	73.6%
保健医療機関(母子保健主管課・地域医療課・保健センター・地域医療・医療型児童発達支援サービス)	518	58.3%
幼児教育センター(幼児教育アドバイザーの利用)	282	31.8%
子どもの発達に関する専門家	519	58.4%
地域の教育に関わる施設(図書館・美術館・科学館など)	319	35.9%
先のいずれの機関ともやりとり連携を行っていない	1	0.1%
総回答数: 888名		

Table5.53: 貴園では幼保小接続として、以下の観点を意識した実践をどの程度していますか。

	まったくしていません	していません	あまりしていません	少ししている	している	かなりしている	総回答数
小学校就学前に、遊びや生活の中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を具体的にイメージして保育を行うこと	0 (0.0%)	9 (1.0%)	37 (4.2%)	177 (19.9%)	503 (56.6%)	159 (17.9%)	885名
小学校就学前に、学校生活につながる生活習慣や自立性を育てること	1 (0.1%)	2 (0.2%)	6 (0.7%)	104 (11.7%)	549 (61.8%)	224 (25.2%)	886名
小学校就学前に、子どもや保護者が小学校就学に対して安心感を持てるように園が工夫すること	1 (0.1%)	2 (0.2%)	15 (1.7%)	188 (21.2%)	490 (55.2%)	188 (21.2%)	884名
小学校就学前に、学校の教科学習を予行練習的に体験・経験させること	135 (15.2%)	191 (21.5%)	208 (23.4%)	161 (18.1%)	133 (15.0%)	53 (6.0%)	881名
小学校就学前後に、特別な配慮が必要な子どもに関して、保護者、小学校、特別支援学校等外部機関との連携をとること※特別な配慮が必要な子どもとは、障がい、疾病、発達と行動面の問題、社会経済的困難、母語が園で用いる言語と異なる子ども、性の自認などで、個別的な配慮を要する子どものことを指します。	1 (0.1%)	2 (0.2%)	7 (0.8%)	94 (10.6%)	423 (47.6%)	356 (40.1%)	883名

Table5.54: 貴園の幼保小接続のための取り組みで中心的に関わっている施設・組織・専門職等を、分かる範囲で【全て】お選びください。
(複数選択可)

	回答数	割合
貴園	569	64.3%
他園	289	32.7%
公立小学校	793	89.6%
国立小学校	15	1.7%
私立小学校	31	3.5%
特別支援学校	125	14.1%
インターナショナルスクール	4	0.5%
市区町村の教育委員会	381	43.1%
都道府県の教育委員会	26	2.9%
教育委員会以外の市区町村の担当組織(福祉課など)	167	18.9%
教育委員会以外の都道府県の担当組織(福祉課など)	17	1.9%
幼児教育センター	106	12.0%
幼児教育アドバイザー	78	8.8%
中学校	60	6.8%
高等学校	15	1.7%
大学	18	2.0%
その他	23	2.6%
取り組みをしていない	15	1.7%
総回答数: 885名		

就学先小学校

次に、就学先小学校の数 (Table5.55)、小学校との隣接 (Table5.56) について尋ねた項目の結果である。就学先小学校の大まかな数について尋ねる項目は、入力ミスと思われる「45659」という回答を除外して算出した結果を示している。この項目では、最大値である「60」等、平均値や中央値から乖離した回答が複数確認されているが、Table5.55 作成にあたっては除外していない。小学校と同一敷地内または隣接している園は 13.0%あるが、これらの園において「地の利を活かした」幼保小接続の取り組みが行われているかなどを詳細に検討する必要がある。

Table5.55: 貴園からは、概ね何校の小学校に就学しますか。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
就学先の小学校数/校	6.9	5.0	5.5	1	60
総回答数: 882名					

Table5.56: 貴園は、小学校と隣接している、もしくは同一敷地内にありますか。

	回答数	割合
はい	115	13.0%
いいえ	771	87.0%
総回答数: 886名		

幼保小接続に関わる長期的計画

Table5.57 から Table5.62 は、幼保小接続に関わる長期的な計画（カリキュラムや年間計画など）について、とりわけ園と小学校との接続における【学びの連続性】と【生活の連続性】に対する意識に関して尋ねた項目の結果である。なお、【学びの連続性】とは、園での学びが小学校での学びにつながっていくことを指し、【生活の連続性】とは、園での生活が小学校での学校生活につながっていくことを指すと質問紙内で教示した。

学びの連続性への意識（Table5.57）、学びの連続性を意識した長期的計画の作成方法（Table5.58）と開始時期（Table5.59）、生活の連続性への意識（Table5.60）、生活の連続性を意識した長期的計画の作成方法（Table5.61）と開始時期（Table5.62）について尋ねた。ただし、長期的計画の作成方法、開始時期についての設問は、学びおよび生活の連続性への意識の設問において「少し意識している」「意識している」「かなり意識している」のいずれかを回答した者にのみ表示された。

学びの連続性、生活の連続性ともに、「少し意識している」「意識している」「かなり意識している」との回答は9割程度に及んでおり、幼児教育・保育の長期的計画において学びや生活の連続性に対する意識の高さがうかがわれる。それらの回答園のうち、学びの連続性、生活の連続性を意識し始める時期としては、5歳児（年長）クラスからとの回答が4割前後と最も高かったが、3歳児（年少）クラスからという回答も2割超あり、園によっては早期から学びや生活の連続性を意識した計画が作成されていることが分かった。また、これらの長期的な計画の作成方法としては、学びと生活の連続性のいずれも、園や運営主体が独自に作成しているとの回答が最も多かった（5割超）。それぞれの園の幼保小接続の意識のもとで長期的な計画が作成されている現状がうかがえる一方で、幼児教育と小学校教育の相互理解を深めたり、連携・協働を図ったりする取り組みが十分ではない可能性も示唆された。

Table5.57: 貴園では、長期的な計画(カリキュラムや年間計画など)において、園と小学校との【学びの連続性】をどのくらい意識していますか。

	回答数	割合
まったく意識していない	1	0.1%
意識していない	16	1.8%
あまり意識していない	99	11.2%
少し意識している	271	30.6%
意識している	390	44.0%
かなり意識している	110	12.4%
総回答数： 887名		

Table5.58: 貴園では、園と小学校との【学びの連続性】を意識した長期的な計画(カリキュラムや年間計画など)を作成する際、どのように作成していますか。

	回答数	割合
自治体主導で、園と小学校が協働して両方の長期的な計画を作成している	47	6.2%
自治体主導で、園のみの長期的な計画を作成している	42	5.5%
自治体主導で、園と小学校が話し合いを行い、各校園で個別に長期的な計画を作成している	40	5.3%
園と小学校が自主的に話し合い、協働して園と小学校の両方の長期的な計画を作成している	41	5.4%
園と小学校が自主的に話し合い、各校園で個別に長期的な計画を作成している	74	9.7%
地域の園が自主的に話し合い、協働して1つの長期的な計画を作成している	15	2.0%
地域の園が自主的に方針のみ話し合い、各園で個別に長期的な計画を作成している	28	3.7%
園や運営主体が独自に作成している	412	54.3%
分からない	36	4.7%
その他	24	3.2%
総回答数： 759名		

Table5.59: 貴園では、現5歳児が何歳児の時から、長期的な計画(カリキュラムや年間計画など)において園と小学校との【学びの連続性】を意識していますか。

	回答数	割合
0歳児	95	12.9%
1歳児	17	2.3%
2歳児(年度途中で3歳になった子ども含む)	21	2.9%
3歳児(年少)	151	20.6%
4歳児(年中)	117	15.9%
5歳児(年長)	305	41.6%
意識していない	9	1.2%
分からない	19	2.6%
総回答数: 734名		

Table5.60: 貴園では、長期的な計画(カリキュラムや年間計画など)、園と小学校との【生活の連続性】をどのくらい意識していますか。

	回答数	割合
まったく意識していない	0	0.0%
意識していない	16	1.8%
あまり意識していない	70	8.0%
少し意識している	247	28.4%
意識している	429	49.3%
かなり意識している	109	12.5%
総回答数: 871名		

Table5.61: 貴園では、園と小学校との【生活の連続性】を意識した長期的な計画(カリキュラムや年間計画など)を作成する際、どのように作成していますか。

	回答数	割合
自治体主導で、園と小学校が協働して両方の長期的な計画を作成している	37	4.8%
自治体主導で、園のみの長期的な計画を作成している	51	6.6%
自治体主導で、園と小学校が話し合いを行い、各校園で個別に長期的な計画を作成している	33	4.3%
園と小学校が自主的に話し合い、協働して園と小学校の両方の長期的な計画を作成している	38	4.9%
園と小学校が自主的に話し合い、各校園で個別に長期的な計画を作成している	74	9.6%
地域の園が自主的に話し合い、協働して1つの長期的な計画を作成している	14	1.8%
地域の園が自主的に方針のみ話し合い、各園で個別に長期的な計画を作成している	28	3.6%
園や運営主体が独自に作成している	440	56.8%
分からない	42	5.4%
その他	17	2.2%
総回答数: 774名		

Table5.62: 貴園では、現5歳児が何歳児の時から、長期的な計画(カリキュラムや年間計画など)において園と小学校との【生活の連続性】を意識していますか。

	回答数	割合
0歳児	109	14.4%
1歳児	25	3.3%
2歳児(年度途中で3歳になった子ども含む)	29	3.8%
3歳児(年少)	168	22.2%
4歳児(年中)	109	14.4%
5歳児(年長)	295	39.0%
意識していない	8	1.1%
分からない	13	1.7%
総回答数: 756名		

園と小学校の情報共有・交流

Table5.63 から Table5.66 は、園職員と小学校職員との情報共有や交流に関する結果である。園職員と小学校職員の情報共有や交流の頻度 (Table5.63)、交流を担う職員の役職 (Table5.64)、小学校職員の園訪問頻度と園職員の小学校訪問頻度 (Table5.65)、個別の子どもに関する就学前後のやりとりの頻度 (Table5.66) について尋ねた。なお、交流を担う

職員の役職についての設問は、園職員と小学校職員の交流頻度を尋ねる設問で「していない」と回答した者には表示されなかった。

園職員と小学校職員の情報共有や交流について、「していない」とした園はごく少数だったものの、頻度には園ごとにばらつきが見られ、「2～3か月に1回程度」(23.1%)、「半年に1回程度」(32.3%)、「年1回程度」(28.1%)と回答した園が多かった。誰が情報共有や交流を行っているのかという問いについては、「5歳児担任(5歳児の保育に中心的に関わる人)」が91.3%と最も多く、「園長, 理事・運営」(73.4%)、「小学校1年生担任」(61.5%)、「主幹, 保育主任, 保育リーダー」(60.3%)と続いた。交流の中でも、観察や授業/保育見学を目的とした、小学校職員による園訪問、園職員による小学校訪問の頻度を尋ねた項目では、いずれも「年1回程度」とする回答が最も多く4割超を占めた。ただし、園職員による小学校訪問は「訪れていない」が18.5%と少なかったのに対して、小学校職員による園訪問については「訪れていない」が37.6%と多かった。これは、幼児教育施設(幼稚園・保育所・認定こども園等)の数が小学校を大きく上回っていることに拠ると考えられるが、交流の実態が園から小学校へという一方向的なアプローチに偏っていることを示唆する結果といえる。また、個別の子どもに関する情報共有についても、頻度にばらつきはあるものの、就学前後を問わず一定程度行われていることがわかった。

Table5.63: 真園では、園職員と小学校職員との情報共有や交流はどのくらいしていますか。

	回答数	割合
月1回以上	33	3.8%
2～3か月に1回程度	202	23.1%
半年に1回程度	283	32.3%
年1回程度	246	28.1%
要録の共有のみ	76	8.7%
していない	17	1.9%
その他	19	2.2%
総回答数: 876名		

Table5.64: 園職員と小学校職員との情報共有・交流で、実際に情報共有や交流をする人を、分かる範囲で【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
貴園の園長, 理事・運営	582	73.4%
貴園の主幹, 保育主任, 保育リーダー	478	60.3%
貴園の5歳児担任(5歳児の保育に中心的に関わる人)	724	91.3%
貴園の5歳児以外の担任	97	12.2%
上記の職員以外の, 貴園の常勤職員	46	5.8%
貴園の非常勤職員	16	2.0%
小学校の校長	355	44.8%
小学校の教頭・副校長	382	48.2%
小学校1年生担任(特別支援学級の教諭は除く)	488	61.5%
小学校の養護教諭・特別支援学級の教諭	269	33.9%
上記以外の小学校の接続専任教諭	150	18.9%
特別支援学校の教諭	83	10.5%
その他	29	3.7%
総回答数: 793名		

Table5.65: 小学校の職員が貴園に訪問する頻度／貴園の職員が小学校に訪問する頻度

	月1回以上訪れている	2〜3か月に1回程度訪れている	半年に1回程度訪れている	年1回程度訪れている	訪れていない
小学校の職員は、観察や保育見学のために、貴園を訪れていますか。	10 (1.1%)	36 (4.1%)	132 (14.9%)	373 (42.2%)	332 (37.6%)
貴園の職員は、観察や授業見学のために、小学校を訪れていますか。	10 (1.1%)	94 (10.6%)	226 (25.6%)	389 (44.1%)	163 (18.5%)
総回答数: 883名					

Table 5.66: 貴園では、要録の共有を除いて、個別の子どもに関して小学校就学の【前後】に小学校との間でやりとりをする機会がどのくらいありますか。／回

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値	総回答数
小学校就学【前】に小学校との間でやりとりをする機会／回	1.6	1.0	1.6	0	20	876名
小学校就学【後】に小学校との間でやりとりをする機会／回	1.0	1.0	1.4	0	15	860名

幼保小接続を意識した研修等の活動

Table5.67 から Table5.71 は、幼保小接続を意識した研修等の活動に関する結果である。幼保小接続を意識した園内研修の実施頻度 (Table5.67)、幼保小接続を意識した園内研修への参加者 (Table5.68)、幼保小接続を意識した園外研修等の形式 (Table5.69)、幼保小接続を意識した園外研修等への参加頻度 (Table5.70)、幼保小接続を意識した園外研修等への参加者 (Table5.71) について尋ねた。なお、幼保小接続を意識した園内研修への参加者についての設問は、幼保小接続を意識した園内研修の実施頻度の設問で「1」以上を回答した者のみ表示され、幼保小接続を意識した園外研修等への参加頻度についての設問、参加者についての設問は、園外研修等の形式の設問に「いずれも行っていない」と回答した者以外に表示された。

幼保小接続を意識した園内研修の実施回数は、年間 1 回程度という回答が最も多かったが、標準偏差 1.7、範囲 0～14 と、ばらつきが大きかった。園内研修への参加者については、「5 歳児担任」(87.6%)、「園長、理事・運営」(78.6%)、「主幹、保育主任、保育リーダー」(79.7%) が参加するとの回答が多く、約半数の園では「5 歳児以外の担任」(49.5%) も参加していることが分かった。園の職員による幼保小接続を意識した園外での会議・研修、勉強会への参加については、「接続に関する講演」(57.1%)、「幼保小の先生のグループ協議」(53.2%)、「保育(授業)参観」(48.2%) に参加しているとの回答が多かった。幼保小の接続・連携に中心的に携わる職員 1 人当たりの、幼保小接続を意識した園外研修等への参加回数としては、年間 2 回程度とする回答が最も多かったが、標準偏差 1.9、範囲 0～24 と、回答のばらつきが大きかった。園外の研修等への参加者としては、園内研修と同様「5 歳児担任」(83.6%)、「園長、理事・運営」(64.6%)、「主幹、保育主任、保育リーダー」(58.3%) が参加するケースが多かったが、園内研修と異なり、「5 歳児以外の担任」(22.1%) など他の職員が参加する例は少なかった。なお、Table5.73 の設問では、WEB 版質問紙では表示されていた「他園の職員」と「小学校の職員」という選択肢が、紙版質問紙に印字されなかったという瑕疵により、紙版質問紙の回答者においては当該の 2 つの選択肢について無回答として扱っている。これらの結果を総合すると、幼保小接続を意識した園内研修の実施、幼保小接続を意識した園外での研修等への参加の実態には大きなばらつきがあり、積極的な取り組みをしている園とそうでない園との差は大きいものと考えられる。

Table5.67: 貴園では、幼保小接続を意識した園内での研修を【年間で】何回程度実施していますか。分かる範囲で、回数をお答えください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
幼保小接続を意識した園内での研修の年間の回数／回	1.0	1.0	1.7	0	14
総回答数： 832名					

Table5.68: 貴園での幼保小接続を意識した園内研修に参加している方を、分かる範囲で【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
貴園の園長, 理事・運営	341	78.6%
貴園の主幹, 保育主任, 保育リーダー	346	79.7%
貴園の5歳児担任(5歳児の保育に中心的に関わる人)	380	87.6%
貴園の5歳児以外の担任	215	49.5%
上記の職員以外の、貴園の常勤職員	126	29.0%
貴園の非常勤職員	49	11.3%
その他	5	1.2%
総回答数： 434名		

Table5.69: 貴園の職員が参加している、幼保小接続を意識した園外での会議・研修や勉強会として当てはまるものを、分かる範囲で【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
接続に関する講演	505	57.1%
幼保小の先生のグループ協議	470	53.2%
保育(授業)の動画視聴	47	5.3%
保育(授業)参観	426	48.2%
保育(授業)の体験	81	9.2%
いずれも参加していない	102	11.5%
その他	13	1.5%
総回答数： 884名		

Table5.70: 貴園の職員は、前問で答えた園外での会議・研修や勉強会に【年間で】何回程度参加していますか。幼保小の接続・連携に中心的に関わる職員1人あたりの参加回数を、分かる範囲でお答えください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
園外での会議・研修や勉強会の年間の参加回数(小数点第一位まで入力可)／回	2.1	2.0	1.9	0	24
総回答数： 683名					

Table5.71: 幼保小接続を意識した園外での会議・研修や勉強会に参加している方を、分かる範囲で【全て】お選びください。(複数選択可)

	該当	非該当
貴園の園長, 理事・運営	466 (64.6%)	255 (35.4%)
貴園の主幹, 保育主任, 保育リーダー	420 (58.3%)	301 (41.7%)
貴園の5歳児担任(5歳児の保育に中心的に関わる人)	603 (83.6%)	118 (16.4%)
貴園の5歳児以外の担任	159 (22.1%)	562 (77.9%)
上記の職員以外の, 貴園の常勤職員	60 (8.3%)	661 (91.7%)
貴園の非常勤職員	9 (1.2%)	712 (98.8%)
他園の職員*	41 (5.7%)	546 (75.7%)
小学校の職員*	76 (10.5%)	511 (70.9%)
その他	3 (0.4%)	718 (99.6%)

総回答数: 721名(* 総回答数: 587名)

幼保小接続に関する保護者への情報発信と子ども同士の交流

Table5.72 から Table5.76 は、幼保小接続に関する保護者への情報発信や子ども同士の交流に関する結果である。学びの連続性、生活の連続性それぞれに関する情報発信、幼保小接続に関わる行事についての情報発信の頻度 (Table5.72)、小学校への就学に関する話を聞く機会の有無 (Table5.73)、幼児と小学生の交流頻度 (Table5.74)、幼児と小学生の交流後の振り返りの時間 (Table5.75)、他園の園児等との交流頻度 (Table5.76) について尋ねた。なお、幼児と小学生の交流後の振り返り時間に関する設問は、幼児と小学生の交流回数の設問で「していない」と回答した者には表示されなかった。

学びの連続性、生活の連続性、および、幼保小接続に関わる行事について、保護者に対する情報発信の頻度を尋ねた設問では、いずれも頻度として「年1回程度」「年2回程度」「年4回程度」に回答が集中していたが、「情報発信をしていない」という回答も一定程度みられ、園によって情報発信の頻度に大きな差があることが分かった。小学校の職員や小学生の保護者を招いて、小学校への就学について、園児の保護者が話を聞く会を設けている園は13.2%に留まった。幼児と小学生との交流については、「していない」「その他」を除く76.9%の園で、年1回以上の交流が図られていることが分かった。また、幼児と小学生の交流を「していない」とした園を除く、何らかの交流を行っている園では、幼保小の職員による事後の振り返りを行っているとの回答が68.8%を占めた。他園の幼児との交流については、

年1回以上の頻度で行っている園は約5割であり、小学生との交流と比較すると平均的にはその機会は少なかった。ただ、園の数が多い都市部を中心に、同じ小学校に就学する知り合いをつくるなどの目的で他園の園児との交流が行われている可能性があるため、地域や自治体規模との関連についてさらに検討する必要があると考えられる。

Table5.72: 貴園での保護者に対する情報発信の頻度

	年 1 2 回 以上	年 8 回 程 度	年 4 回 程 度	年 2 回 程 度	年 1 回 程 度	情 報 発 信 を し て い な い
貴園では、保護者に対して、園と小学校との【学びの連続性】に関わる情報発信をどのくらいしていますか。	55 (6.2%)	31 (3.5%)	100 (11.3%)	294 (33.3%)	231 (26.2%)	172 (19.5%)
貴園では、保護者に対して、園と小学校との【生活の連続性】に関わる情報発信をどのくらいしていますか。	56 (6.3%)	30 (3.4%)	123 (13.9%)	290 (32.8%)	234 (26.5%)	150 (17.0%)
貴園では、保護者に対して、小学校との接続に関わる行事(例:小学校行事,自治体の就学前相談,就学前検診,学校説明会)の情報発信をどのくらいしていますか。	21 (2.4%)	23 (2.6%)	235 (26.6%)	328 (37.1%)	202 (22.9%)	73 (8.3%)
総回答数: 883名						

Table5.73: 貴園では、小学校の職員または小学生の保護者を招いて、小学校への進学に関して、保護者が話を聞く会(座談会含む)を設けていますか。

	回答数	割合
設けている	117	13.2%
設けていない	770	86.8%
総回答数: 887名		

Table5.74: 貴園では、幼児と小学生との交流をどのくらいしていますか。

	回答数	割合
月1回以上	13	1.5%
2-3か月に1回程度	96	10.8%
半年に1回程度	222	25.0%
年1回程度	351	39.6%
していない	183	20.6%
その他	22	2.5%
総回答数: 887名		

Table5.75: 幼児と小学生との交流を行った後、幼保小の先生による事後の振り返りをどのくらいしていますか。

	回答数	割合
1時間以上	58	8.7%
30分程度	169	25.5%
数分程度	230	34.6%
やりとりをしていない	207	31.2%
総回答数: 664名		

Table5.76: 貴園では、貴園の幼児と他園の幼児との交流をどのくらいしていますか。

	回答数	割合
月1回以上	17	1.9%
2-3か月に1回程度	128	14.5%
半年に1回程度	144	16.3%
年1回程度	180	20.4%
していない	401	45.4%
その他	13	1.5%
総回答数: 883名		

8) 園で提供している習い事、英語教育

Table5.77 から Table5.79 は、保育時間外に園で提供している習い事や、保育時間内外における英語教育に関する結果である。習い事保育の種類 (Table5.77)、英語教育の頻度 (Table5.78) と英語教育の担当者 (Table5.79) について尋ねた。保育時間外の習い事保育については、「提供していない」園が 65.0% と過半数を占めた。園で提供されている習い事としては、多い順に、「スポーツ (体操・バレエ・サッカーなど)」(29.1%)、「英語」(20.9%)、「音楽 (楽器・リトミックなど)」(13.1%) が行われていた。また、保育時間の内外や全園児対象か否かを問わない、習い事保育以外の活動を含む英語教育の実施については、「行っていない」とする園が 55.1% を占めたものの、次いで「1週間に1回以上」(15.7%)、「2-3週間に1回」(13.7%) とする回答が多く、英語教育を行っている園では、比較的高い頻度で活動が実施されていることが分かった。英語教育を実施する人材としては、外部講師への委託が 82.5% と大半を占めていた。

Table5.77: 貴園では【保育時間外に】習い事保育を提供していますか。以下の項目それぞれについて、当てはまるものを【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
提供していない	575	65.0%
英語	185	20.9%
スポーツ(体操・バレエ・サッカーなど)	257	29.1%
音楽(楽器・リトミックなど)	116	13.1%
知育・学習(プリント学習, フラッシュカード, そろばんなど)	62	7.0%
美術(絵画・造形など)	68	7.7%
その他	29	3.3%
総回答数: 884名		

Table5.78: 英語教育の活動有無や頻度について当てはまるものをお選びください。

	回答数	割合
行っていない	487	55.1%
月1回未満	51	5.8%
月1回	86	9.7%
2-3週間に1回	121	13.7%
1週間に1回以上	139	15.7%
総回答数: 884名		

Table5.79: 貴園での英語教育について当てはまるものをお選びください。

	回答数	割合
外部講師に委託している	320	82.5%
園内に英語を専門とする職員がいる／系列園間での巡回がある	40	10.3%
外部講師・英語専門の職員は活用せず, 英語教材のみ使用している	6	1.5%
その他	22	5.7%
総回答数: 388名		

9) 園の運営管理のための ICT 利用状況

Table5.80 から Table5.82 は、園の運営管理のための ICT 利用状況に関する結果である。園で利用している ICT システム (Table5.80), 保育者用 ICT 機器の整備 (Table5.81, Table5.82) について尋ねた。園の運営管理のために利用している ICT システムとしては、

多い順に「保護者への情報共有システム（例：メール配信・動画配信・アンケート・各種申し込み・集金）」(91.8%)、「登降園・出欠席管理システム」(77.5%)、「保育記録システム（例：活動記録・午睡記録・身体測定記録）」(55.6%)であり、ほとんどの園が何らかのICTシステムを園の運営管理において活用していた。保育者用ICT機器(PC, タブレット等)の整備状況に関して、常勤と非常勤に分けて尋ねた結果、常勤保育者では「1人1台」(32.2%)、「2～4人で1台」(53.6%)が合わせて85.8%を占めている一方で、非常勤職員では「1人1台」「2～4人で1台」の回答が計33.3%に留まっており、「なし」も47.7%に達した。これら結果から、ICTシステムの導入が進み、ICT端末の整備については常勤保育者を中心に進んでいる実態が明らかになった。

Table5.80: 運営管理のために貴園で使用しているICTシステムについて、当てはまるものを【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
いずれも使用していない	36	4.1%
保護者への情報共有システム(例:メール配信・動画配信・アンケート・各種申し込み・集金)	813	91.8%
登降園・出欠席管理システム	687	77.5%
保育記録システム(例:活動記録・午睡記録・身体測定記録)	493	55.6%
職員の勤怠管理システム・給与経理管理システム(例:打刻・会計システム)	478	54.0%
職員間や園内での情報共有システム(例:チャット機能・ヒヤリハット共有・議事録や研修動画等の共有)	337	38.0%
送迎バス運行情報	127	14.3%
外部機関(自治体・他園・学校)との情報共有	213	24.0%
その他	22	2.5%
総回答数: 886名		

Table5.81: 常勤の保育者用ICT機器(PC, タブレット等)の整備状況について、当てはまるものを一つお選びください。

	回答数	割合
1人1台	285	32.2%
2～4人で1台	474	53.6%
5～9人で1台	77	8.7%
10人以上で1台	27	3.1%
なし	22	2.5%
常勤の保育者がいない	0	0.0%
総回答数: 885名		

Table5.82: 非常勤の保育者用ICT機器(PC, タブレット等)の整備状況について、当てはまるものを一つお選びください。

	回答数	割合
1人1台	27	3.1%
2～4人で1台	266	30.2%
5～9人で1台	89	10.1%
10人以上で1台	34	3.9%
なし	421	47.7%
非常勤の保育者がいない	45	5.1%
総回答数： 882名		

10) 園の環境・設備

Table5.83 から Table.5.86 および Figure5.85 は、園の環境・設備に関する集計結果である。園の環境・設備に対する認識 (Table5.83), 利用する屋外スペース (Table5.84), 園庭の広さ (Table5.85, Figure5.85), 施設外スペースの利用頻度 (Table5.86) について尋ねた。園の環境・設備に対する認識を尋ねた項目では、全体としてポジティブに評価する回答が多く、園の環境や設備について、概して適切に整備されており満足いくものとして認識している回答者が多いことが分かった。ただ、「保育室(教室)の広さが適切で、家具等で手ぜまになっていない」の項目のみ、「ややそう思う」「とてもそう思う」を合わせた回答が 60.0% に留まっていた。また、体を動かして遊べる屋外スペースとしては、近隣の公園など施設外のスペースよりも園庭を利用しているとする回答が 87.5% と多かった。園庭の面積は平均 899.9 m²であったが、標準偏差 771.5, 範囲 0～4,000 とばらつきが非常に大きく、ごく狭い園庭しか持たない園、園庭を持たない園も多くあった。なお、この項目では 5000 m²以上の回答は外れ値として集計から除外した。近隣の公園など、施設外の屋外スペースの使用頻度も園によって大きく異なっていた。園環境については、屋内スペースや園庭の手狭さが問題になっているケースが多いと考えられ、園の周辺環境と合わせ、子どもたちが屋内外でのびのびと活動できるスペースが確保されているかどうか、幼児教育・保育の質にどのような影響を及ぼすかについてさらに検討する必要があると考えられる。

Table5.83: 以下の項目それぞれについて、最も当てはまるものを一つお選びください。

	まったくそう 思わない	あまりそう 思わない	どちらとも いえない	ややそう 思う	とてもそう 思う
保育室(教室)の広さが適切で、家具等で手ぜまになっていない。	47 (5.3%)	141 (15.9%)	166 (18.7%)	239 (26.9%)	294 (33.1%)
室温や湿度が適切である。	10 (1.1%)	46 (5.2%)	90 (10.1%)	380 (42.8%)	361 (40.7%)
室内は風通しよく、換気も十分である。	8 (0.9%)	22 (2.5%)	69 (7.8%)	336 (37.9%)	452 (51.0%)
窓や天窓から自然な光が採れる。	8 (0.9%)	27 (3.0%)	74 (8.3%)	311 (35.1%)	467 (52.6%)
悪天候のときを除き、少なくとも週3回以上は体を動かして遊べる屋外のスペース(園庭や近所の公園など)がある。	15 (1.7%)	11 (1.2%)	9 (1.0%)	139 (15.7%)	713 (80.4%)
子ども達が、心地よい範囲で、異年齢で交流できる時間や空間を設けている。	9 (1.0%)	21 (2.4%)	81 (9.1%)	325 (36.6%)	451 (50.8%)
室内は騒がしすぎず、子どもや保育者が心地よく過ごすことができる。*	10 (1.1%)	43 (4.8%)	186 (21.0%)	373 (42.1%)	274 (30.9%)
総回答数: 887名(* 総回答数: 886名)					

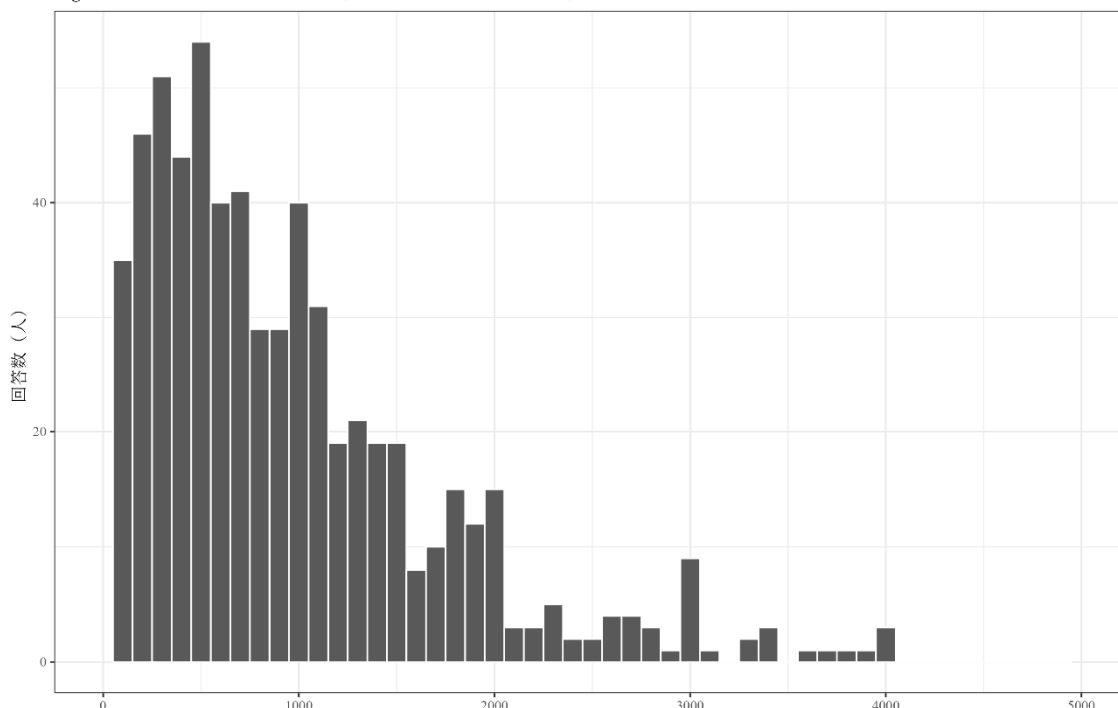
Table5.84: 体を動かして遊べる屋外のスペースとしてどちらの場所をより頻繁に利用していますか。

	回答数	割合
園庭(テラス等を含む)	768	87.5%
近隣の公園など、施設外の屋外スペース	110	12.5%
総回答数: 878名		

Table5.85: 園庭(テラス等を含む)の広さは何平方メートル(m²)ですか。数値を記入してください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
園庭の面積(小数点第一位まで入力可)/m ²	899.9	698.0	771.5	0	4,000
総回答数: 671名					

Figure5.85: 園庭（テラス等を含む）の広さ／平方メートル（㎡）



総回答数：688名

Table5.86: 近隣の公園など、施設外の屋外スペース(園庭・テラスは除く)を、1週間あたりで何日使用していますか。1クラスあたりの日数(0～7日)を回答してください。

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
施設外の屋外スペースの1週間あたりの使用日数/回	1.8	1.0	2.0	0	7

総回答数：826名

11) 園内外での研修

Table5.87 と Table5.88 は、幼保小接続に関連するものに限定しない、園内外におけるあらゆる種類の研修に関する結果である。過去3年間に園内研修で扱ったテーマ(Table5.87)と園外研修への支援(Table5.88)について尋ねた。園内研修で扱ったテーマとしては、多い順に「健康衛生,安全管理(例:防災,アレルギー対応,救命救急,ヒヤリハット)」(72.7%),「主体的な遊びへの援助・環境構成」(59.3%),「特別な支援を要する子どもの保育(例:障がい,外国にルーツのある子ども,気になる子どもの保育)」(50.1%)となり、これらについては過半数の園で過去3年間に取り上げられていることが分かった。また、ICTシステムや端末の導入が進む一方で、ICT活用に関する研修はあまり実施されていない(22.4%)こともうかがえる。園外研修へ参加する職員への支援について尋ねた項目では、「通常の就業時間内に研修等に参加するため、保育時間を免除する」(85.0%),「研修等に関する経費を園等が負担する(交通費含む。立替払いをしたあとに支払う場合を含む)」(79.9%),「園

でオンライン研修を受講できるよう環境整備を行う」(78.5%)といった支援を行っている園が多くあった一方で、園外研修への参加に金品や昇進、昇給といったインセンティブを設けている園は少なかった。園内研修をしていない(2.0%)、園外研修への支援を行っていない(1.2%)と回答した園はごくわずかであり、ほぼすべての園が、何らかの形で職員の専門性向上につながる機会の創出に取り組んでいることが分かった。

Table5.87: 貴園における園内研修についてお尋ねします。過去3年間(2021(令和3)年12月1日～2024(令和6)年11月30日)で、貴園の園内研修で取り上げているテーマとして当てはまるものを【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
園内研修をしていない	18	2.0%
乳幼児期の発達心理	263	29.7%
運動発達や身体をつかった遊び	343	38.7%
健康衛生, 安全管理(例:防災, アレルギー対応, 救命救急, ヒヤリハット)	645	72.7%
言葉や絵本	208	23.4%
数量図形や自然科学	53	6.0%
表現やリズム(音楽, 美術, ダンス)	300	33.8%
主体的な遊びへの援助・環境構成	526	59.3%
遊びや学びの観察・記録	332	37.4%
幼保小連携, 接続	225	25.4%
保護者や家庭との連携	317	35.7%
特別な支援を要する子どもの保育(例:障がい, 外国にルーツのある子ども, 気になる子どもの保育)	444	50.1%
保育における人権擁護・人権尊重	432	48.7%
ICT活用(業務での活用あるいは子どもがICTを使う活動)	199	22.4%
クラスやグループの運営	263	29.7%
その他	101	11.4%
総回答数: 887名		

Table5.88: 園外研修への支援についてお尋ねします。貴園の職員の専門性向上のための活動(研修等)に対する貴園の支援として行っているものを、【全て】お選びください。(複数選択可)

	回答数	割合
支援は行っていない	11	1.2%
通常の就業時間内に研修等に参加するため、保育業務を免除する	754	85.0%
就業時間外の研修等に参加するため、金銭以外の支援を与える(例:子どもと接する時間の短縮, 休暇, 研究休業)	197	22.2%
研修等に関する経費を園等が負担する(交通費含む。立替払いをしたあとに支払う場合を含む)	709	79.9%
研修等に必要な教材を支給する	368	41.5%
就業時間外の研修や研究や就学等に対して金銭的な補助がある(研修経費を園が負担する場合を除く)	231	26.0%
金銭以外での報酬(例:クラスやグループで使用する教材, 図書カード, ソフトウェアやアプリ)がある	26	2.9%
金銭以外の職務上のメリット(例:研修要件を満たす, 昇進するチャンスが増える)がある	125	14.1%
昇給がある	71	8.0%
園でオンライン研修を受講できるよう環境整備を行う	696	78.5%
その他	12	1.4%

総回答数: 887名

(橘孝昌・佐藤賢輔)

5-2. 園長等調査 質問項目一覧

番号	表番号	質問項目
あなた（本調査にご回答いただく先生）についてお尋ねします。		
Q1	Table 5.1	あなたの役職をお選びください。 ※兼任の場合は当てはまるものを全て選択してください。
Q2	Table 5.2	あなたの勤務形態をお選びください。
Q3	Table 5.3	貴園での勤続年数を記入してください。 ※園長以外の経験年数も含みます／年目 ※休業期間（産休・育休など）は除外し、累積年数でお知らせください。
Q4	同上	現在の役職年数を記入してください。 ※他園での経験年数も含みます／年目 ※休業期間（産休・育休など）は除外し、累積年数でお知らせください。
Q5	Table 5.10	ご自身が保有されている免許や資格を【全て】お選びください。
Q6	Table 5.11	他園での勤務年数も含めて、保育教諭、保育士または幼稚園教諭としての経験年数を記入してください。／年目 ※休業期間（産休・育休など）は除外し、累積年数でお知らせください。
Q7	Table 5.13	あなたの最終学歴をお知らせください。
Q8	Table 5.4	あなたの性別をお知らせください。
Q9	Table 5.5	あなたの年齢をお知らせください。
あなたについてお尋ねします。以下の項目それぞれについて当てはまるものをお選びください。		
Q10	Table 5.12	あなたは現在の役職に就かれる以前に、幼児教育や保育の経験あるいは学校教育の経験をお持ちですか。現在の役職に就任する以前の主たる経歴について当てはまるものを【全て】お選びください。
Q11	Table 5.14	あなたは現在在籍している子どもたちのことや、職員が行っている保育や幼児教育について十分に理解していますか。
Q12	同上	あなたは園の経営や運営だけでなく、保育や幼児教育の現場においてリーダーシップを発揮していますか。
Q13	Table 5.15	あなたは、過去 12 か月（2023（令和 5）年 12 月 1 日～2024（令和 6）年 11 月 30 日）の間に、何回くらい、専門性の向上のための活動（研修等）に参加しましたか。おおよその回数をお答えください。
Q14	Table 5.16	あなたが過去 12 か月（2023 年 12 月 1 日～2024 年 11 月 30 日）の間に参加した専門性向上のための活動（研修等）に含まれていた内容として、当てはまるものを【全て】お選びください。

Q15	Table 5.6	<p>貴園についてお尋ねします。</p> <p>2024年12月1日現在、貴園の在籍児数（0歳児～5歳児）は何人ですか。数字を記入してください。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、大まかな推定に基づいて記入してください。</p>
<p>貴園の園種や設置形態について教えてください。</p>		
Q16	Table 5.7	園の種別について、当てはまるものをお選びください。
Q17	Table 5.8	前問の項目で「認定こども園」を選択した方にお尋ねします。認定こども園の類型について、当てはまるものをお選びください。
Q18	Table 5.9	園の設置・運営主体として、当てはまるものをお選びください。 ※民営には、企業、学校法人、社会福祉法人、公私連携などによる運営を含みます。
<p>貴園で現在勤務している保育者について、お尋ねします。</p> <p>保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。貴園の全年齢の子どもの幼児教育・保育に関わる保育者についてお答え下さい。</p>		
Q19	Table 5.17	<p>以下の項目それぞれに数字を入力してください。</p> <p>いない場合は「0」人と記入してください。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますようお願いいたします。</p>
(1)	同上	<p>担任を<u>持つ</u>保育者の人数（主任・主幹・副園長を含む）／人</p> <p>※副担任は<u>含めない</u></p>
(2)	同上	<p>担任を<u>持つ</u>保育者のうち、常勤の人数（有期・無期間わない）／人</p> <p>※副担任は<u>含めない</u></p>
(3)	同上	<p>担任を<u>持たない</u>保育者の人数（主任・主幹・副園長を含む）／人</p> <p>※副担任を<u>含む</u></p>
(4)	同上	<p>担任を<u>持たない</u>保育者のうち、常勤の人数（有期・無期間わない）／人</p> <p>※副担任を<u>含む</u></p>
Q20	Table 5.18	貴園では、保育者が無理なく余裕をもって保育にのぞむのに十分な職員数が確保されていますか。
Q21	Table 5.19	<p>過去12か月の間（2023（令和5）年12月1日～2024（令和6）年11月30日）に、貴園で働き始めたり園を離れたりした保育者数についてお尋ねします。</p> <p>以下の項目それぞれに数字を記入してください。</p> <p>いない場合は「0」人と記入してください。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得</p>

		るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。
(1)	同上	過去 12 か月の間に、貴園で勤務を始めた保育者の人数／人
(2)	同上	過去 12 か月の間に、一時的に貴園で勤務しなかった保育者の人数（例：長期休暇・休業，長期研究休暇，産前産後休業，育児休業，介護休業）／人
(3)	同上	過去 12 か月の間に、貴園を退職した保育者の人数／人
Q22	Table 5.20	<p>過去 3 年間（2021（令和 3）年 12 月 1 日～2024（令和 6）年 11 月 30 日）に、以下の理由で退職・退職された保育者数についてお尋ねします。</p> <p>以下の項目それぞれに数字を記入してください。いない場合は「0」人と記入してください。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	過去 3 年間に、身体疾患や体調不良で退職・退職した保育者の人数（妊娠・出産に伴う疾患や体調不良は除く）／人
(2)	同上	過去 3 年間に、メンタルヘルスの問題で退職・退職した保育者の人数／人
Q23	Table 5.21	<p>貴園では、保育者が産前産後休業，育児休業，介護休業等の一時的な休暇を取得する場合、どの程度、代替職員を配置していますか。最も当てはまるものを一つお選びください。</p> <p>※常勤か非常勤か，園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※貴園の全年齢の子どもの保育に関わる保育者についてお答え下さい。</p>
貴園における 3 歳・4 歳・5 歳児のクラス編制と、園児と保育者の人数についてお尋ねします。		
Q24	Table 5.24	<p>3・4・5 歳児のクラス編制は学年別ですか、縦割り／異年齢混合クラスですか。</p> <p>※年度途中で 3 歳になった子どもを受け入れている幼稚園等で「満 3 歳児クラス（学年度としては 2 歳児）」を設置している場合は、後でお尋ねする乳児保育（3 歳未満児）のクラス編制で「学年別クラスを 2 歳児クラスで編制している」としてお答えください。</p>
Q25	Table 5.25	<p>学年別クラスを編制している年齢を【全て】お選びください。</p> <p>※年度途中で 3 歳になった子どもを受け入れている幼稚園等で「満 3 歳児クラス（学年度としては 2 歳児）」を設置している場合は、後でお尋ねする乳児保育（3 歳未満児）のクラス編制で「学年別クラスを 2 歳児クラスで編制している」としてお答えください。</p>
Q26	Table 5.26	<p>縦割り／異年齢混合クラスはどの年齢で編制されていますか。当てはまるものを【全て】お選びください。</p>
Q27	Table 5.27	<p>5 歳児クラスまたは 3 歳未満児・5 歳児の縦割り／異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1 クラスあたりの園児の実員数，クラス数，担当の保育者数等について，数字</p>

		<p>を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	5歳児が含まれる1クラスあたりの実員数(1号認定・2号認定の別を問わない) / 人
(2)	同上	5歳児が含まれるクラス数 / クラス
(3)	同上	5歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数 / 人
(4)	同上	5歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで) / 人
Q28	Table 5.28	<p>4歳児クラスまたは3歳未満児・4歳児の縦割り／異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	4歳児が含まれる1クラスあたりの実員数(1号認定・2号認定の別を問わない) / 人
(2)	同上	4歳児が含まれるクラス数 / クラス
(3)	同上	4歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数 / 人
(4)	同上	4歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで) / 人
Q29	Table 5.29	<p>3歳児クラスまたは3歳未満児・3歳児の縦割り／異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる</p>

		<p>方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※年度途中で3歳になった子どもを受け入れている幼稚園等で「満3歳児クラス（学年度としては2歳児）」を設置している場合は、後でお尋ねする乳児保育（3歳未満児）のクラス編制で「学年別クラスを2歳児クラスで編制している」としてお答えください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	3歳児が含まれる1クラスあたりの実員数（1号認定・2号認定の別を問わない）／人
(2)	同上	3歳児が含まれるクラス数／クラス
(3)	同上	3歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数／人
(4)	同上	3歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数（複数クラスある場合は全クラスで）／人
Q30	Table 5.30	<p>3・4・5歳児が含まれる縦割り／異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	3・4・5歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数（1号認定・2号認定の別を問わない）／人
(2)	同上	3・4・5歳児が含まれるクラス数／クラス
(3)	同上	3・4・5歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数／人
(4)	同上	3・4・5歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数（複数クラスある場合は全クラスで）／人
Q31	Table 5.31	<p>3・4歳児が含まれる縦割り／異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p>

		※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。
(1)	同上	3・4歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数（1号認定・2号認定の別を問わない）／人
(2)	同上	3・4歳児が含まれるクラス数／クラス
(3)	同上	3・4歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数／人
(4)	同上	3・4歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数（複数クラスある場合は全クラスで）／人
Q32	Table 5.32	<p>4・5歳児が含まれる縦割り／異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	4・5歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数（1号認定・2号認定の別を問わない）／人
(2)	同上	4・5歳児が含まれるクラス数／クラス
(3)	同上	4・5歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数／人
(4)	同上	4・5歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数（複数クラスある場合は全クラスで）／人
Q33	Table 5.33	<p>3・5歳児が含まれる縦割り／異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	3・5歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数（1号認定・2号認定の別を問わない）／人
(2)	同上	3・5歳児が含まれるクラス数／クラス

(3)	同上	3・5歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人
(4)	同上	3・5歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人
貴園における乳児保育(3歳未満児保育)のクラス編制と、園児と保育者の人数についてお尋ねします。		
Q34	Table 5.34	乳児保育(3歳未満児保育)のクラス編制は学年別ですか、縦割り/異年齢混合クラスですか。 ※年度途中で3歳になった子どもを受け入れている幼稚園等で「満3歳児クラス(学年度としては2歳児)」を設置している場合は、「学年別クラス」を2歳児クラスで編制しているとしてお答えください。
Q35	Table 5.35	乳児保育で学年別クラスを編制している年齢を【全て】お選びください。 ※年度途中で3歳になった子どもを受け入れている幼稚園等で「満3歳児クラス(学年度としては2歳児)」を設置している場合は、学年別クラスを「2歳児クラス」で編制しているとしてお答えください。
Q36	Table 5.36	縦割り/異年齢混合クラスはどの年齢で編制されていますか。当てはまるものを【全て】お選びください。
Q37	Table 5.37	2歳児クラスまたは2歳児・3歳以上児縦割り/混合クラスについてお尋ねします。 1クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。 ※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。 ※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。 ※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。 ※年度途中で3歳になった子どもを受け入れている幼稚園等で「満3歳児クラス(学年度としては2歳児)」を設置している場合は、この「2歳児クラス」としてお答えください。 ※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。
(1)	同上	2歳児が含まれる1クラスあたりの実員数/人
(2)	同上	2歳児が含まれるクラス数/クラス
(3)	同上	2歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人
(4)	同上	2歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで)/人
Q38	Table 5.38	1歳児クラスまたは1歳児・3歳以上児縦割り/混合クラスについてお尋ねしま

		<p>す。</p> <p>1 クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	1 歳児が含まれる 1 クラスあたりの実員数／人
(2)	同上	1 歳児が含まれるクラス数／クラス
(3)	同上	1 歳児が含まれる 1 クラスあたりの担当保育者の人数／人
(4)	同上	1 歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数（複数クラスある場合は全クラスで）／人
Q39	Table 5.39	<p>0 歳児クラスまたは 0 歳児・3 歳以上児縦割り/混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>す。</p> <p>1 クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	0 歳児が含まれる 1 クラスあたりの実員数／人
(2)	同上	0 歳児が含まれるクラス数／クラス
(3)	同上	0 歳児が含まれる 1 クラスあたりの担当保育者の人数／人
(4)	同上	0 歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数（複数クラスある場合は全クラスで）／人
Q40	Table 5.40	<p>0・1・2 歳児が含まれる縦割り/異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1 クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p>

		<p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	0・1・2歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数/人
(2)	同上	0・1・2歳児が含まれるクラス数/クラス
(3)	同上	0・1・2歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人
(4)	同上	0・1・2歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数（複数クラスある場合は全クラスで）/人
Q41	Table 5.41	<p>0・1歳児が含まれる縦割り/異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	0・1歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数/人
(2)	同上	0・1歳児が含まれるクラス数/クラス
(3)	同上	0・1歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人
(4)	同上	0・1歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数（複数クラスある場合は全クラスで）/人
Q42	Table 5.42	<p>1・2歳児が含まれる縦割り/異年齢混合クラスについてお尋ねします。</p> <p>1クラスあたりの園児の実員数、クラス数、担当の保育者数等について、数字を記入してください。該当者がいない場合は、「0」人と記入してください。</p> <p>※実員数は、クラス編制上の年齢でご回答ください。</p> <p>※保育者とは、教諭・保育士・保育教諭など、園で子どもの幼児教育・保育に直接関わる方を指します。資格の有無や常勤か非常勤か、園での直接雇用か派遣かは問いません。</p> <p>※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
(1)	同上	1・2歳児が含まれる1クラスのあたりの実員数/人
(2)	同上	1・2歳児が含まれるクラス数/クラス
(3)	同上	1・2歳児が含まれる1クラスあたりの担当保育者の人数/人

(4)	同上	1・2歳児が含まれるクラスの加配保育者の人数(複数クラスある場合は全クラスで) /人
貴園の保育者の幼児教育・保育経験について、お尋ねします。		
Q43	Table 5.22	乳幼児期の教育・保育の経験年数ごとに、保育者数(人数)を記入してください。いない場合は「0」人と記入してください。 ※加配保育者や臨時職員も含んだ人数をお答えください。経験年数は、他園での勤務経験も含む乳幼児期の教育・保育経験年数の合計としてお答えください。 ※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。 ※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。
(1)	同上	経験年数 1年未満の保育者数/人
(2)	同上	経験年数 1年以上3年未満の保育者数/人
(3)	同上	経験年数 3年以上10年未満の保育者数/人
(4)	同上	経験年数 10年以上20年未満の保育者数/人
(5)	同上	経験年数 20年以上の保育者数/人
Q44	Table 5.23	以下の項目の資格や免許を有している保育者数(人数)を記入してください。いない場合は「0」人と記入してください。 ※正確な人数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただけますよう何卒お願いいたします。
(1)	同上	幼稚園教諭免許を取得している保育者数/人
(2)	同上	保育士資格を取得している保育者数/人
(3)	同上	小学校教諭免許を取得している保育者数/人
貴園におけるインクルージョンや多様性の尊重への取り組みについてお尋ねします。		
Q45	Table 5.43	貴園における、以下の「特別な配慮が必要な子ども」に該当する子どもの推定人数を記入してください。 「特別な配慮が必要な子ども」とは、障がい、疾病、発達と行動面の問題、社会経済的困難、母語が園で用いる言語と異なる子ども、性の自認などで、個別的な配慮を要する子どものことをいいます。 ※子どもが複数の特性を持つ場合は、重複してカウントしてください。 ※貴園に在籍する0～5歳児についてご回答ください。 ※いない場合は「0」人と記入してください。 ※これは、子どもたちの背景に関するあなたの個人的な見解について尋ねるものです。おおまかな推定に基づく回答で結構です。 ※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得

		るため、なるべくご回答いただきますようお願いいたします。
(1)	同上	特別な配慮が必要な子ども全体の人数／人
(2)	同上	そのうち、医療的ケアを要する子どもの人数／人
(3)	同上	そのうち、精神／身体／発達障がいの診断がある子どもの人数／人
(4)	同上	そのうち、診断はないが、発達と行動面で気になる子どもの人数（診断待ちを含む）／人
(5)	同上	そのうち、母語が園で用いる言語と異なる子どもの人数／人
(6)	同上	そのうち、社会経済的に困難な家庭環境にある子どもの人数／人
Q46	Table 5.44	貴園には、医療的ケアを行う看護師・保健師・助産師・准看護師、または喀痰吸引等を行うことができる保育士もしくは保育教諭の配置等、医療的ケア児を受け入れる体制および、医療的ケア児の受入枠がありますか。もっとも当てはまるものを一つお選びください。
Q47	Table 5.45	インクルージョンや多様性の尊重に関する貴園での取り組みについてお尋ねします。以下の項目それぞれについて、どの程度当てはまるかをお選びください。
(1)	同上	障がい、疾病、発達と行動面の問題、社会経済的困難、言語、性別などに関わらず、それぞれの子どもの個別のニーズを把握し、それに基づきケアと教育を提供できるような取り組みをしている。
(2)	同上	障がい、疾病、発達と行動面の問題、社会経済的困難、言語、性別などに関わらず、子どもたちが遊びや生活を共有できるような取り組みをしている。
(3)	同上	文化的多様性、宗教、家庭の多様性、性の多様性、病気や障がいの有無など様々な背景や特性の多様性の理解を育む教育や活動を行っている。（例：異文化体験、交流会、関連する絵本の読み聞かせ、日々のかかわりの中で意識している）
貴園の、3・4・5歳児の教育・保育についてお尋ねします。		
Q48		貴園の、通常の保育時間（教育／保育標準時間）において、 特に時間を設けて行っている活動 はありますか。 3・4・5歳児それぞれについて 、当てはまるものを【全て】お選びください。
(1)	Table 5.46	3歳児
(2)	Table 5.47	4歳児
(3)	Table 5.48	5歳児
Q49		次の10のうち、貴園の教育・保育方針および実践において、特に重視していることはなんですか。 3・4・5歳児それぞれについて 、【上位3つまで】お選びください。
(1)	Table 5.49	3歳児

(2)	Table 5.50	4 歳児
(3)	Table 5.51	5 歳児
Q50	Table 5.77	貴園では【保育時間外に】習い事保育を提供していますか。以下の項目それぞれについて、当てはまるものを【全て】お選びください。
<p>貴園での英語教育についてお尋ねします。</p> <p>保育時間内外を問わず、全園児対象か否かを問わず、貴園で提供している英語教育についてお答えください。</p>		
Q51	Table 5.78	英語教育の活動有無や頻度について当てはまるものをお選びください。
Q52	Table 5.79	貴園での英語教育について当てはまるものをお選びください。 ※外部講師には、小中学校教員（ALT など）やオンライン講師も含まれます
<p>貴園での ICT の利用状況についてお尋ねします。</p> <p>※ICT とは、PC、タブレット、スマートフォン、それらを介したソフトウェアやアプリケーションなどを使用し、情報を作成・管理し、人と共有したりコミュニケーションを取ったりするための技術のこと。生成 AI の活用を含む。</p>		
Q53	Table 5.80	運営管理のために貴園で使用している ICT システムについて、当てはまるものを【全て】お選びください。
Q54	Table 5.81	常勤 の保育者用 ICT 機器（PC、タブレット等）の整備状況について、当てはまるものを一つお選びください。
Q55	Table 5.82	非常勤 の保育者用 ICT 機器（PC、タブレット等）の整備状況について、当てはまるものを一つお選びください。
<p>貴園の環境・設備についてお尋ねします。</p>		
Q56	Table 5.83	以下の項目それぞれについて、最も当てはまるものを一つお選びください。
(1)	同上	保育室（教室）の広さが適切で、家具等で手ぜまになっていない。
(2)	同上	室温や湿度が適切である。
(3)	同上	室内は風通しよく、換気も十分である。
(4)	同上	窓や天窓から自然な光が採れる。
(5)	同上	悪天候のときを除き、少なくとも週 3 回以上は体を動かして遊べる屋外のスペース（園庭や近所の公園など）がある。
(6)	同上	子ども達が、心地よい範囲で、異年齢で交流できる時間や空間を設けている。
(7)	同上	室内は騒がしすぎず、子どもや保育者が心地よく過ごすことができる。
<p>悪天候のときを除き、体を動かして遊べる屋外スペース（園庭や近所の公園など）についてお尋ねします。</p>		
Q57	Table 5.84	体を動かして遊べる屋外のスペースとして、どちらの場所をより頻繁に利用していますか。

Q58	Table 5.85	<p>園庭（テラス等を含む）の広さは何平方メートル（㎡）ですか。数値を記入してください。（小数点第一位まで入力可）／㎡</p> <p>※園庭がない場合は「0」、園庭が複数ある場合は合計の広さを記入してください。</p> <p>※正確な数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
Q59	Table 5.86	<p>近隣の公園など、施設外の屋外スペース（園庭・テラスは除く）を、1週間あたりで何日使用していますか。1クラスあたりの日数（0～7日）を回答してください。／日</p> <p>※正確な数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
<p>研修についてお尋ねします。</p>		
Q60	Table 5.87	<p>貴園における園内研修についてお尋ねします。<u>過去3年間（2021（令和3）年12月1日～2024（令和6）年11月30日）</u>で、園内研修で取り上げているテーマとして当てはまるものを【全て】お選びください。</p>
Q61	Table 5.88	<p>園外研修への支援についてお尋ねします。</p> <p>貴園の職員の専門性向上のための活動（研修等）に対する貴園の支援として行っているものを、【全て】お選びください。</p> <p>※ここでの園外研修とは、自治体の研修や法人研修、他園や小学校との合同研修を含みます。</p> <p>※職員には、保育者（保育教諭・保育士・幼稚園教諭等）のほか、調理師、栄養士、看護師等の職員も含みます。</p>
Q62	Table 5.52	<p>貴園と他機関との連携・やりとりについてお尋ねします。</p> <p>連携ややりとりがある機関を【全て】お選びください。</p>
<p>ここからは、幼保小接続（園から小学校への円滑な接続）に関する貴園の取り組みについてお尋ねします。</p>		
Q63	Table 5.53	<p>貴園では幼保小接続として、以下の観点を意識した実践をどの程度していますか。</p> <p>※各項目で示されている実践を望ましいものとしているわけでも、それを求めるわけでもありません。貴園の教育・保育実践と照らして、率直にお答えいただきますようお願いいたします。</p>
(1)	同上	<p>小学校就学前に、遊びや生活の中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を具体的にイメージして保育を行うこと</p>
(2)	同上	<p>小学校就学前に、学校生活につながる生活習慣や自立性を育てること</p>

(3)	同上	小学校就学前に、子どもや保護者が小学校就学に対して安心感を持てるように園が工夫すること
(4)	同上	小学校就学前に、学校の教科学習を予行練習的に体験・経験させること
(5)	同上	小学校就学前後に、特別な配慮が必要な子どもに関して、保護者、小学校、特別支援学校等外部機関との連携をとること ※特別な配慮が必要な子どもとは、障がい、疾病、発達と行動面の問題、社会経済的困難、母語が園で用いる言語と異なる子ども、性の自認などで、個別的な配慮を要する子どものことを指します。
Q64	Table 5.54	貴園の幼保小接続のための取り組みで中心的に関わっている施設・組織・専門職等を、分かる範囲で【全て】お選びください。
Q65	Table 5.55	貴園からは、概ね何校の小学校に進学しますか。校数をお答えください。/校 ※正確な数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。 ※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。
Q66	Table 5.56	貴園は、小学校と隣接している、もしくは同一敷地内にありますか。 ※公道等で隔たれている場合は除く
<p>長期的な計画（カリキュラムや年間計画など）における【学びの連続性】と【生活の連続性】それぞれへの意識についてお尋ねします。</p> <p>※学びの連続性とは、園での学びが小学校での学びにつながっていくことを指します</p> <p>※生活の連続性とは、園での生活が小学校での学校生活につながっていくことを指します</p>		
Q67	Table 5.57	貴園では、長期的な計画（カリキュラムや年間計画など）において、園と小学校との【 <u>学びの連続性</u> 】をどのくらい意識していますか。 ※学びの連続性とは、園での学びが小学校での学びにつながっていくことを指します
Q68	Table 5.58	貴園では、園と小学校との【 <u>学びの連続性</u> 】を意識した長期的な計画（カリキュラムや年間計画など）を作成する際、どのように作成していますか。
Q69	Table 5.59	貴園では、現5歳児が何歳児の時から、長期的な計画(カリキュラムや年間計画など)において園と小学校との【 <u>学びの連続性</u> 】を意識していますか。
Q70	Table 5.60	貴園では、長期的な計画（カリキュラムや年間計画など）、園と小学校との【 <u>生活の連続性</u> 】をどのくらい意識していますか。 ※生活の連続性とは、園での生活が小学校での学校生活につながっていくことを指します
Q71	Table 5.61	貴園では、園と小学校との【 <u>生活の連続性</u> 】を意識した長期的な計画（カリキュラムや年間計画など）を作成する際、どのように作成していますか。
Q72	Table 5.62	貴園では、現5歳児が何歳児の時から、長期的な計画(カリキュラムや年間計画など)において園と小学校との【 <u>生活の連続性</u> 】を意識していますか。

<p>貴園の職員と、小学校の職員との交流についてお尋ねします。新型コロナウイルス感染症など何らかの事情により、交流を中断していた場合も、中断前の状況ではなく、過去12か月（2023（令和5）年12月1日～2024（令和6）年11月30日）の状況をお答えください。</p>		
Q73	Table 5.63	貴園では、園職員と小学校職員との情報共有や交流はどのくらいしていますか。
Q74	Table 5.64	園職員と小学校職員との情報共有・交流で、実際に情報共有や交流をする人を、分かる範囲で【全て】お選びください。
Q75	Table 5.65	小学校の職員は、観察や保育見学のために、貴園を訪れていますか。
Q76	同上	貴園の職員は、観察や授業見学のために、小学校を訪れていますか。
Q77	Table 5.66	<p>貴園では、要録の共有を除いて、個別の子どもに関して【小学校就学前に】小学校との間でやりとりをする機会がどのくらいありますか。／回</p> <p>※小学校1校あたりの平均頻度をお答えください。</p> <p>※短期間にメール等でやりとりを繰り返した場合は、1回とカウントしてください。</p> <p>※やりとりがない場合は0と回答してください。</p> <p>※正確な数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
Q78	同上	<p>貴園では、要録の共有を除いて、個別の子どもに関して【小学校就学後に】小学校との間でやりとりをする機会がどのくらいありますか。／回</p> <p>※小学校1校あたりの平均頻度をお答えください。</p> <p>※短期間にメール等でやりとりを繰り返した場合は、1回とカウントしてください。</p> <p>※やりとりがない場合は0と回答してください。</p> <p>※正確な数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
<p>幼保小接続を意識した会議・研修についてお尋ねします。新型コロナウイルスなど何らかの事情により、会議・研修を中断していた場合も、中断前の状況ではなく、過去12か月（2023（令和5）年12月1日～2024（令和6）年11月30日）の状況をお答えください。</p>		
Q79	Table 5.67	<p>貴園では、幼保小接続を意識した<u>園内</u>での研修を【年間で】何回程度実施していますか。分かる範囲で、回数をお答えください。／回</p> <p>※正確な数が分からない場合は、おおまかな推定に基づいて記入してください。</p> <p>※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。</p>
Q80	Table 5.68	貴園での幼保小接続を意識した <u>園内</u> 研修に参加している方を、分かる範囲で【全て】お選びください。

Q81	Table 5.69	貴園の職員が参加している、幼保小接続を意識した <u>園外での</u> 会議・研修や勉強会として当てはまるものを、分かる範囲で【全て】お選びください。
Q82	Table 5.70	貴園の職員は、前問で答えた <u>園外での</u> 会議・研修や勉強会に【年間で】何回程度参加していますか。幼保小の接続・連携に中心的に関わる職員1人あたりの参加回数を、分かる範囲でお答えください。(小数点第一位まで入力可) / 回 ※正確な数が分からない場合は、おまかな推定に基づいて記入してください。 ※回答が難しい場合は、空欄のまま『次へ』を押してください。より適切な調査結果を得るため、なるべくご回答いただきますよう何卒お願いいたします。
Q83	Table 5.71	幼保小接続を意識した園外での会議・研修や勉強会に参加している方を、分かる範囲で【全て】お選びください。
過去12か月の間(2023(令和5)年12月1日~2024(令和6)年11月30日)の、保護者への情報発信についてお尋ねします。新型コロナウイルス感染症など何らかの事情により、情報発信を中断していた場合も、中断前の状況ではなく、過去12か月の状況をお答えください。		
Q84	Table 5.72	貴園では、保護者に対して、園と小学校との【学びの連続性】に関わる情報発信をどのくらいしていますか。 ※学びの連続性とは、園での学びが小学校での学びにつながっていくことを指します
Q85	同上	貴園では、保護者に対して、園と小学校との【生活の連続性】に関わる情報発信をどのくらいしていますか。 ※生活の連続性とは、園での生活が小学校での学校生活につながっていくことを指します
Q86	同上	貴園では、保護者に対して、小学校との接続に関わる行事(例:小学校行事、自治体の就学前相談、就学前検診、学校説明会)の情報発信をどのくらいしていますか。
Q87	Table 5.73	貴園では、小学校の職員または小学生の保護者を招いて、小学校への進学に関して、保護者が話を聞く会(座談会含む)を設けていますか。
子ども同士の交流についてお尋ねします。		
Q88	Table 5.74	貴園では、幼児と小学生との交流をどのくらいしていますか。
Q89	Table 5.75	幼児と小学生との交流を行った後、幼保小の先生による事後の振り返りをどのくらいしていますか。※メール等でやりとりを行う場合、そのやりとりにかかる時間についてご回答ください。
Q90	Table 5.76	貴園では、貴園の幼児と他園の幼児との交流をどのくらいしていますか。

6. おわりに

本報告書では、2024年度に実施した縦断1年目の調査について、各調査結果の単純集計結果を掲載しています。本報告書に示されている本調査のデザインならびに得られている主な結果とその意義として以下のことが挙げられます。

第一に、本調査のデザインは、縦断1年目の2024年度調査（5歳児時点）では、園（園長等・担任保育者）と保護者への調査を実施し、縦断2年目以降は小学校等（校長等・担任教師）にも調査を実施するものです。この調査デザインによって、構造・プロセスの質や教育内容、家庭の養育について、それぞれの当事者から多面的に調査し、幼児教育・保育が家庭での養育と合わせて、その後の子どもの発達にいかに関与を及ぼすかを検討することができます。

また、サンプリングに関しては、複数の層と抽出段階を組み合わせて実施し、各地域ブロック内の基礎自治体や園に関しては一定の条件を設定しつつランダムサンプリングを行いました。その結果、2024年度は全国75自治体（大規模・中規模・小規模含む）が対象となり、多様な施設類型を含む園の7,632名の保護者、831名の担任保育者、888名の園長等からの有効回答が得られました。

このように、精緻な調査デザインによって多様な全国の自治体・園が対象となり、多数の保護者・保育者・園長等からデータが得られています。こうしたデザインの大規模縦断調査は、わが国において他に例がなく、きわめて貴重なものだと考えています。

第二に、保護者への調査から、園への評価、子育ての状況、子どもの生活や発達などの実態が示されました。保育者の子どもへのかかわりについては、保護者から高い肯定的評価が得られました。保護者が幼児教育・保育の実践を肯定的に捉えていることは、日々の保育者の尽力によるものだと考えられます。一方、保育者と保護者のかかわりや園とのコミュニケーションの頻度に関しては、園によってそのあり方が異なる可能性が示唆されました。保育者と保護者との信頼関係の構築は重要であることから、さらなる意識的取り組みが必要であることが考えられます。

子どもの生活や子育て、発達に関しては、いずれも多様な側面を尋ねています。各項目で回答のばらつきがみられ、今後、そうしたばらつきがどのような要因によって説明されるのか、また、今後の子どもの発達にどのように影響するのかについて詳細に検討していきたいと思えます。

第三に、担任保育者への調査から、幼児教育・保育の多様な実態が示されました。保育時間における活動内容や就学準備的な指導についての回答からは、ドリルやワークブックのような直接的な学習指導ではなく、遊びを通じて学びにつなげようとする保育者の意図がうかがわれました。また、環境構成、子どもへのかかわりに関しては、ほとんどの項目でそうしている割合（「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」）が9割前後に達しており、保育者が環境構成や子どもへのかかわりについて様々

な面での配慮や工夫をしていることが示唆されました。ただし、「様々な特性の子どもが生活しやすい工夫」、「身近な事物の性質や仕組みに気づいたり考えたりできる環境」、「子どもが地域の産業や文化に親しめる環境」に関する項目への回答にはばらつきがみられ、多様性に応じた環境や探究を深めるための環境の設定については、今後の課題であるかもしれません。

専門性向上のための活動（研修等）に関しては、過去1年間のキャリアアップ研修への参加が63.1%、それ以外の活動への参加が86.3%と高い割合でした。指導計画の立て方、振り返り、情報共有に関しても、そうしている割合（「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」）が9割を超えていました。このように、幼児教育・保育の質の確保・向上につながりうる活動に保育者が積極的に取り組んでいることが示されました。ただし、留意すべき点として、先述のように園とのコミュニケーションについては保護者の認識にばらつきがあり、保育者が「情報共有を行っている」と考えていても、保護者に十分に伝わっていない場合がある可能性が考えられます。

第四に、園長等への調査から、園の取り組み状況が示されました。園の構造の質に関連して、保育者の配置については余裕がないとする回答が過半数でしたが、余裕があるとする園も一定数あり、園によって差があることが示唆されました。園の設備・環境に関しては、概ね適切に整備されているものの、保育室が手狭に感じている場合はやや多く、園庭の面積については園によって大きな違いがある実態が示されました。人員配置やスペースの広さ等、構造の質の差異がプロセスの質や子どもたちの活動に与える影響について検討することが必要だと考えられます。なお、ICTシステムに関しては、保護者への情報共有システムの利用が91.8%であり、ICTシステムが急激に導入されていることが示されました。

3・4・5歳児の教育・保育や幼保小接続に関する項目への回答からは、担任保育者の回答とも共通して、園長等も直接的な学習活動ではなく、遊びを通じた学びを重視している傾向が示されました。幼保小の学びの連続性、生活の連続性の両方が意識されており、長期的計画も作成されている場合も多くありました。また、園職員と小学校職員が情報共有や交流をしているという場合がほとんどでした。このように、幼保小接続への意識の高さがうかがわれましたが、情報共有や交流の頻度、また、幼保小接続を意識した園内研修の実施や園外研修への参加の実態については、大きなばらつきがありました。こうした取組の差異が幼児教育にどのように影響しているかという点も、今後、検討する必要があると考えます。

「特別な配慮が必要な子ども」の人数の平均は10.5人であり、園ごとにばらつきはあるものの、該当する子どもが一定数在籍していることが示されました。インクルージョンや多様性の尊重に関する取り組みを行っているとする園も多く、多様な子どもたちを受け入れ、対応を行っている実態が示されました。

以上の保護者、担任保育者、園長等の回答について、今後、より精緻な統計的分析を行うことを通して、幼児教育・保育の様相や、子どもの発達との関連について詳細に分析していきたいと思えます。それらの分析結果から、幼児教育・保育、子育て、子どもの発達の実態

を精緻に捉え、今後の実践や政策のあり方について皆様と共に考えてまいりたいと思います。

最後となりましたが、調査にご協力くださった皆様に心よりお礼申し上げます。今後、引き続きのご協力を賜れますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター
野澤 祥子

7. 引用文献

- 青柳肇・中村淳子・山際勇一郎・周愛保・玄正煥（編著）．（2013）． 発達心理学者による 3歳から就学前までの子育てアドバイスー『東アジアこども発達スケール』つき． 田研出版株式会社．
- Belfield, C. R., Nores, M., Barnett, S., & Schweinhart, L. (2006). The High/Scope Perry Preschool Program: Cost-Benefit Analysis Using Data from the Age-40 Follow-up. *Journal of Human Resources*, XLI(1), 162-190.
- ベネッセ教育総合研究所．（2023）． 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）・ ベネッセ教育総合研究所 共同研究 「乳幼児の生活と育ち」 研究プロジェクト 乳幼児の生活と育ちに関する調査 2017-2022（0歳～5歳）【ダイジェスト版：データ集】
https://benesse.jp/berd/up_images/research/2017_2022_Nyuyouji.pdf（2024年8月確認）
- 株式会社キャンサーキャン．（2021）． 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「不適切保育に関する対応について」事業報告書（別添） 不適切な保育の未然防止及び 発生時の対応についての手引き．
<https://cancerscan.jp/wp-content/uploads/2021/06/dcd34c7b5f61320be9d95ac0c0751157.pdf>
（2024年8月確認）
- Goodman, R. (1997). The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 38(5), 581-586.
- Melhuish, E., Erekly-Stevens, K., & Petrogiannis, K. (2015). A review of research on the effects of early childhood education and care (ECEC) upon child development. WP4.1 *Curriculum Quality Analysis and Impact Review of European Early Childhood Education and Care*.
- 浜名真以・西田季里・則近千尋・平田悠里・大久保圭介・野澤祥子・遠藤利彦．（2025）． CEDEP 式幼児用自己と社会性に関わる非認知能力尺度の開発:保護者評定による測定. *発達心理学研究*, 36(4), 1-14.
- ハームス, T., クリフォード, R. M., クレア, D. (2016) . 『新・保育環境評価スケール ①3歳以上』, 埋橋玲子 (訳), 法律文化社. (Harms, T., Clifford, R. M., & Cryer, D. (2014). *Early Childhood Environment Rating Scale® (ECERS-3), Third Edition*. Teachers College Press.)
- ハームス, T., クレア, D., クリフォード, R.M., イェゼジアン, N. 2018. 『新・保育環境評価スケール②0・1・2歳』, 埋橋玲子 (訳), 法律文化社.
(Harms, T., Cryer, D., Clifford, R. M., & Yazejian, N. 2017. *Infant/ Toddler Environment Rating Scale®, Third Edition*, Teachers College Press.)
- 「保育プロセスの質」研究プロジェクト（代表：小田豊）．（2010）．『子どもの経験から

- 振り返る保育プロセス：明日のより良い保育のために』, 幼児教育映像制作委員会.
北海道保健福祉部・北海道大学大学院教育学研究院「子どもの生活実態調査」研究班. (2017).
「北海道子どもの生活実態調査 結果報告書」.
- Hung, C. O. Y., Yuen, A. H. K., Zhang, Y., Wen, R., Zhang, D. D., Han, H., Pan, R., Shi, P.
(2024). Development and validation of the Chinese Kindergarten Quality Rating Scale
(CKQRS): A study based in Guangdong and Jiangsu provinces. *Children and Youth
Services Review*, 159, 107522.
- 稲垣宏樹・井藤佳恵・佐久間尚子・杉山美香・岡村毅・栗田主一. (2013). WHO-5 精
神健康状態表簡易版 (S-WHO-5-J) の作成およびその信頼性・妥当性の検討. *日本公
衆衛生雑誌*, 60(5), 294-301.
- 国立教育政策研究所. (2020). 『幼児教育・保育の国際比較：OECD 国際幼児教育・保
育従事者調査 2018 報告書一質の高い幼児教育・保育に向けてー』, 明石出版.
- 国立教育政策研究所. (2023a). 幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究
報告書 第1巻幼児期からの育ち・学びに関する研究.
https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r05/r050425-02_honbun2.pdf (2025年8月確認)
- 国立教育政策研究所. (2023b). 教育の効果に関する調査研究 最終報告書
https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r05/r050425-01_honbun.pdf (2025年8月確認)
- Kopcha T., & Sullivan H. (2007). Self-presentation bias in surveys of teachers' educational
technology practices. *Educational Technology Research and Development*, 55, 627-
646.
- 厚生労働省. (2015a). 保育所の設備及び運営に関する基準の条例制定状況及び運用状況
等について.
[https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-
Koyoukintoujidoukateikyoku/201512jyoureitou_2.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/201512jyoureitou_2.pdf) (2025年8月確認)
- 厚生労働省. (2015b). 第6回21世紀出生児縦断調査【平成22年出生児】調査票.
https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/21seiki22_06.pdf (2025年8月確認)
- 厚生労働省. (2019). 保育士等キャリアアップ研修ガイドライン.
<https://www.cfa.go.jp/policies/hoiku/> (こども家庭庁サイト：2025年6月確認)
- 厚生労働省. (2022). 令和3年社会福祉施設等調査.
[https://www.e-stat.go.jp/stat-
search/files?page=1&toukei=00450041&tstat=000001030513](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450041&tstat=000001030513) (2025年7月確認)
- 厚生労働省. (2024). 令和5年社会福祉施設等調査.
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450041&tstat=000001030513> (2025年
7月確認)
- 教育ソリューション協会. (2024a). 「全国学校データ 幼稚園 2024年度版」. 教育ソリ
ューション株式会社.

- 教育ソリューション協会. (2024b). 「全国学校データ 保育園 2024年度版」. 教育ソリューション株式会社.
- 教育ソリューション協会. (2024c). 「全国学校データ 認定こども園 2024年度版」. 教育ソリューション株式会社.
- 文部科学省. (2017). 幼稚園教育要領.
- 文部科学省. (2021). 令和3年度全国学力・学習状況調査 保護者アンケート調査〔小学校〕.
 https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/kannren_chousa/pdf/21hogosya-c_shou.pdf (2025年8月確認)
- 文部科学省. (2022). 幼保小の架け橋プログラム実施に向けての手引き (初版).
 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm (2025年6月確認)
- 文部科学省. (2023). 令和4年度学校基本調査.
 <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528> (2025年8月確認)
- 文部科学省. (2024). 令和6年度学校基本調査.
 <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528> (2025年8月確認)
- NICHD Early Child Care Research Network (Ed.). (2005). *Child care and child development: Results from the NICHD study of early child care and youth development*. Guilford Press.
- 西田季里・浜名真以・則近千尋・眞田英弥・野澤祥子. (2025) 幼児教育・保育の質に関する研究の動向と課題. *東京大学大学院教育学研究科紀要*, 64, 55-68.
- 西田季里・眞田英弥・浜名真以・野澤祥子・遠藤利彦. (2023). 保幼小接続を意識した園・家庭での取り組み 質問紙調査における自由記述回答からの整理. *国際幼児教育研究*, 30, 1-16.
- OECD. (2015). *Starting Strong IV: Monitoring Quality in Early Childhood Education and Care*, OECD Publishing, Paris.
- OECD. (2018). *Engaging young children: Lessons from research about quality in early childhood education and care, Starting Strong*, OECD Publishing, Paris.
- Okubo, K., Tang, Y., Lee, J., Endo, T., & Nozawa, S. (2022). Development of the Japanese parenting style scale and examination of its validity and reliability. *Scientific Reports*, 12(1), 18099.
- Pianta, R. C., La Paro, K. M. & Hamre, B. K. (2007). *Classroom Assessment Scoring System™ (CLASS™) manual, pre-K*. Brookes Publishing.
- 佐藤賢輔. (2022). 研究報告 デジタルメディア時代における子どもと絵本・本との関わりについて」2022年7月26日 文部科学省令和4年度子供の読書活動の推進に関する有識者会議 (第2回) 配布資料.

- https://www.mext.go.jp/content/20220725-mxt_chisui01-000024139_2.pdf (2025年8月確認)
- シラージ, I., キングストン, D., メルウィッシュ, M. (2016). 『「保育プロセスの質」評価スケール：乳幼児期の「ともに考え、深め つづけること」と「情緒的な安定・安心」を捉えるために』, 秋田喜代美・淀川裕美 (訳・編著), 明石書店. (Siraj, I., Kingston, D., & Melhuish, E. 2015. *Assessing quality in early childhood education and care: Sustained Shared Thinking and Emotional Well Being (SSTEWE) scale for 2-5-year-olds provision*, IOE Press.)
- 菅原ますみ・詫摩紀子. (1997). 夫婦間の親密性の評価—自己記入式夫婦関係尺度について—. *精神科診断学*, 8(2), 155-166.
- Slot, P. (2018). Structural characteristics and process quality in early childhood education and care: A literature review. OECD Education Working Papers, 176, OECD Publishing, Paris.
- 総務省. (2022). 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (令和4年次). <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200241&tstat=000001039591&cycle=7&tclass1=00001039601&tclass2val=0> (2025年7月確認)
- 総務省. (2024). 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (令和6年次). <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200241&tstat=000001039591&cycle=7&tclass1=00001039601&tclass2val=0> (2025年7月確認)
- 総務省. (2025). 人口推計 (2024年 (令和6年) 10月1日現在) -全国：年齢 (各歳), 男女別人口・都道府県：年齢 (5歳階級), 男女別人口-. <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2024np/index.html> (2025年7月確認)
- Taggart, B., Sylva, K., Melhuish, E., Sammons, P., & Siraj, I. (2015). *Effective Pre-school, Primary and Secondary Education project (EPPSE 3-16+): How pre-school influences children and young people's attainment and developmental outcomes over time*. Department for Education: London, UK.
- 田村修一. (2008). 教師の被援助志向性に関する心理学的研究：教師のバーンアウトの予防を目指して. 風間書房.
- 田村修一・水野治久・石隈利紀. (2012). 教職志望者の被援助志向性を規定する要因—教育実習場面に焦点をあてて—. *カウンセリング研究*, 45, 29-39.
- 東京大学 CEDEP. (2015). 「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」. 未公開資料.
- 東京大学 CEDEP. (2019). 「文部科学省委託調査研究事業 平成30年度「幼児教育の推進体制構築事業の成果に係る調査分析」成果報告書」. https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/_icsFiles/afieldfile/2019/07/23/1414283_1.pdf

(2025年8月確認)

東京大学 CEDEP. (2021). 「保幼小接続 (幼保小接続・幼小接続) についての意識および取り組みに関する web アンケート調査」.

<https://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/survey/youhosyo-2021/> (2025年8月確認)

東京大学 CEDEP. (2025). 「令和5年度文部科学省委託調査研究事業 「幼児教育に関する大規模縦断調査」 令和5年度予備調査 (2023 予備調査) 報告書 (詳細版)」.

Vandell, D. L., Belsky, J., Burchinal, M., Steinberg, L., Vandergrift, N., & NICHD Early Child Care Research Network. (2010). Do effects of early child care extend to age 15 years? Results from the NICHD study of early child care and youth development. *Child Development*, 81(3), 737-756.

von Suchodoletz, A., Lee, D.S., Henry, J., Tamang, S., Premachandra, B., & Yoshikawa, H. (2023). Early childhood education and care quality and associations with child outcomes: A meta-analysis. *PLoS ONE*, 18(5): e0285985.

Yamaguchi, S., Asai, Y., & Kambayashi, R. (2018). How does early childcare enrollment affect children, parents, and their interactions? *Labour Economics*, 55, 56-71.

Yoshikawa, H., & Kabay, S. (2015). *The Evidence Base on Early Childhood Care and Education in Global Contexts*, UNESCO, Paris.

調査研究実行委員会

代表

遠藤 利彦（東京大学大学院教育学研究科 教授）（研究代表）

野澤 祥子（東京大学発達保育実践政策学センター 特任教授）（実務代表）

調査メンバー

西田 季里（東京大学発達保育実践政策学センター 特任助教）

浜名 真以（東京大学発達保育実践政策学センター 特任助教）

佐藤 賢輔（東京大学発達保育実践政策学センター 特任助教）

天井 響子（東京大学発達保育実践政策学センター 特任助教）

則近 千尋（東京大学大学院教育学研究科 博士課程）

眞田 英弥（東京大学大学院教育学研究科 博士課程）

橘 孝昌（東京大学大学院教育学研究科 博士課程）

植竹 温香（東京大学大学院教育学研究科 博士課程）

眞田（西垣） 英恵（東京大学大学院教育学研究科 博士課程）

榊原 佳淑（東京大学発達保育実践政策学センター 学術専門職員）

櫻井 あゆみ（東京大学発達保育実践政策学センター 学術専門職員）

検討委員会 外部委員（あいうえお順）

秋田 喜代美（学習院大学）

上田 敏丈（名古屋市立大学）

宇佐美 慧（東京大学）

大桃 敏行（東京大学）

岡田 謙介（東京大学）

門田 理世（西南学院大学）

神谷 哲司（東北大学）

川田 学（北海道大学）

久保山 茂樹（国立特別支援教育総合研究所）

小崎 恭弘（大阪教育大学）

佐治 量哉（玉川大学）

佐藤 香（東京大学）

鈴木 雅之（横浜国立大学）

滝口 圭子（金沢大学）

田中 恭子（順天堂大学）

利根川 明子（国立教育政策研究所）

中坪 史典（広島大学）
藤江 康彦（東京大学）
別府 哲（岐阜大学）
掘越 紀香（国立教育政策研究所）
松井 剛太（香川大学）
無藤 隆（白梅学園大学大学院）
山口 一大（筑波大学）
山口 慎太郎（東京大学）

謝辞

2024 調査にご協力いただいた自治体ご担当者の方々，園の先生方，保護者の皆様に，心より御礼申し上げます。

注記

本報告書は，文部科学省の令和 6 年度「幼児教育に関する大規模縦断調査研究事業」の一環として，東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（東京大学 CEDEP）が受託し実施した 2024 調査をまとめたものであり，複製・転載には文部科学省の承諾が必要です。

本文および図表中の「標本数」を「全体の数」あるいは「母集団」に修正しました（2026年6月11日）。